

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 医の倫理 | | | | |
| 担当者 | 桂ノ口結衣 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、その基本的な考え方および理学療法士・作業療法士の倫理綱領等を知る。そのうえで、現代社会における「医の倫理」の諸問題について、議論の要点を把握するとともに、多様な観点・立場から考察する。

■ 到達目標

1. 「医の倫理」の基本的な考え方について述べるができる。2. 理学療法士・作業療法士の職業倫理について述べるができる。3. 医療における倫理問題について、複数の論点を挙げるができる。4. 現代社会の医療における倫理問題について、対象者の立場ならびに医療者としての自らの立場を意識したうえで、理由とともに説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 「医の倫理」の歴史と、理学療法士・作業療法士の職業倫理
- 第2回 「医の倫理」の基礎理論
- 第3回 医療者-患者関係1：インフォームドコンセント、自己決定
- 第4回 医療者-患者関係2：弱さの尊重
- 第5回 小児医療と高齢者医療における倫理問題
- 第6回 終末期と死に関する倫理問題
- 第7回 医療と社会
- 第8回 確認テストと総まとめ

■ 評価方法

毎回のコメントペーパー（6×7=42%）、【科目試験（筆記試験）】（58%）。コメントペーパーの課題は、各回の授業内で指示する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

〈第1回～第4回〉

予習：教科書第1章から第3章までをよく読んでおく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

〈第5回～第7回〉

予習：教科書第4章から第10章（特に第6章から第8章）、および第15章・第16章を精読しておく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

■ 教科書

書 名：テキストブック 生命倫理
 著者名：霜田求（編）
 出版社：法律文化社

■ 参考図書

書名：ケアの社会倫理学：医療・看護・介護・教育をつなぐ

著者名：川本隆史編

出版社：有斐閣

■ 留意事項

授業は、すべての受講者のためにあります。したがって、質問や意見は、ささいなものであれ挑戦的なものであれ、歓迎します。私語は、ほかの学生の学習を妨害することになるので、禁止します。

■ 講義受講にあたって

医療・福祉に関わる倫理的・社会的問題はメディアでもよく報道されています。日頃から問題意識をもってそうした情報を得るようにしましょう。また、いまひとつ問題意識がもちにくい場合、どこにその根があるのかを探ってみましょう。

| | | | | | |
|----------|---------------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法概論 | | | | |
| 担当者 | 今井 公一（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 今井公一（病院などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり） | | | | |
| 学科名 | 作業療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法の歴史、概念、理学療法の実際についてを理解するため、リハビリテーションや生活機能といった周辺との関連性を重視しながら、なおかつ理学療法の原理についても学びます。

■ 到達目標

1. リハビリテーションと理学療法の歴史について説明できる。2. 理学療法の実際について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションと理学療法
- 第2回 理学療法に必要な基礎知識（1）
- 第3回 理学療法に必要な基礎知識（2）
- 第4回 理学療法に必要な基礎知識（3）
- 第5回 理学療法に必要な基礎知識（4）
- 第6回 姿勢と歩行
- 第7回 理学療法プロセスと評価
- 第8回 物理療法概論
- 第9回 運動療法概論
- 第10回 高齢社会と理学療法
- 第11回 理学療法研究（1）
- 第12回 理学療法研究（2）
- 第13回 理学療法研究（3）
- 第14回 理学療法研究（4）
- 第15回 総括

■ 評価方法

提出物 40% 科目試験 60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜与えられる課題について、しっかりと学習し授業に臨むこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：不要

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 地域医療実践学 | | | | |
| 担当者 | 辻 郁 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 4年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

地域支援の実際を見学し、その経験から地域で理学療法・作業療法の位置づけや役割を考える講義形式ではなく、見学とその後のフィードバックおよび地域概況を把握する自己学習で構成する

■ 到達目標

- 1) 事前準備ができる
- 2) 見学し施設やサービスの現状と課題を具体化できる
- 3) 課題から改善策を提案できる
- 4) レポートとしてまとめることができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 見学施設及びサービスに関する事前学習
- 第3回 見学1
- 第4回 見学1
- 第5回 見学1
- 第6回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第7回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第8回 見学施設及びサービスに関する事前学習
- 第9回 見学2
- 第10回 見学2
- 第11回 見学2
- 第12回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第13回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第14回 該当地域および課題の抽出と改善策の提案
- 第15回 該当地域および課題の抽出と改善策の提案

■ 評価方法

【科目試験（レポート）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：不要

■ 留意事項

見学を基盤とする授業であるため、欠席しないように健康管理に留意する

■ 講義受講にあたって

地域理学療法或いは地域作業療法で学んだこと体験したことを振り返っておいてください

| | | | | | |
|----------|--------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 英語コミュニケーション（英会話初級） | | | | |
| 担当者 | 近藤 未奈 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る
- 第2回 Welcoming a Patient（患者を迎える）
位置を示す表現 / 病院内施設
- 第3回 Taking Vital Signs（バイタルサイン測定）
バイタルを測る機器類 / 看護物品
- 第4回 Pain Assessment（痛みのアセスメント）
痛みを表す表現 / 痛みの問診術
- 第5回 Feeling So Sick!（症状）
症状チェック表 / 様々な症状
- 第6回 Transferring a Patient（体位変換 / 移乗）
対位 / 動きの表現
- 第7回 Medical Department（診療科目）
診療科と専門医 / 検査のための表現
- 第8回 Review & Medical Terminology（前半のまとめ / 医学英語の構造）
- 第9回 Personal Care（日常生活援助）
身だしなみ用具 / 日常生活援助表現
- 第10回 Giving Medication to a Patient（与薬）
薬剤の種類 / 投薬指示関連の表現
- 第11回 Elimination（排泄）
排泄の表現 / 排尿の仕組み
- 第12回 Chronic Diseases（慢性疾患）
患者情報収集 / 慢性病とは？
- 第13回 Critical Care / Operating Room（急性期 / 手術室）
救急室で / 周手術期看護
- 第14回 Pregnancy Check-up（妊婦健診）
妊娠初期・中期 / 陣痛と出産
- 第15回 Review & Medical Reading（後半のまとめ / 医学英文読解）

■ 評価方法

受講態度（予習・授業への取り組みなど：40%）、小テスト（20%）、【科目試験（筆記）】（40%）を総合的に評価します。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。

教科書の予習指示があった場合、指定の箇所の英語を読み、英和辞書などを使いわからない語句の意味を調べ、内容を日本語で理解・説明できるようにしておく。

小テスト対策の勉強は教科書の内容を理解するための予習も兼ねているので、範囲の語句の意味を覚えておくこと。

■ 教科書

書名：Talking with Your Patients in English（アニメで学ぶ看護英語）

著者名：平野美津子, Christine D. Kuramoto, 落合亮太

出版社：成美堂

■ 参考図書

書名：病院スタッフのためのシチュエーション英会話

著者名：服部しのぶ

出版社：メジカルビュー

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストについての詳細は初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。

毎回配布される資料は教科書の一部として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|-----------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 国語表現学 (レポート作成法) | | | | |
| 担当者 | 岡崎 昌宏 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説—正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識 (1) —表記など
- 第3回 文章を書くための知識 (2) —原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために (1) —説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために (2) —過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために (3) —長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために (4) —句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く (1) —様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く (2) —意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く (3) —自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く (4) —基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く (5) —レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

平常点 (授業中の課題への取り組みも含む) 100%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 人間関係学 | | | | |
| 担当者 | 非常勤講師 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

よりよい人間関係を築き、営むことは日常生活や専門職としての活動においてなくてはならないものである。本講義では人間関係について社会心理学や臨床心理学の視点から、講義だけでなく個人ワーク・グループワークを通して基礎的素養・応用知識を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の日常生活や専門職としての活動の中で活かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・人間のこころとは
- 第2回 自分自身について考えてみよう
- 第3回 コミュニケーションとは？① -対人認知と社会的認知
- 第4回 コミュニケーションとは？② -コミュニケーションの要素
- 第5回 なぜ人は他者に好感を持つのか？ -対人魅力
- 第6回 自分の表現の仕方 -自己提示と自己開示
- 第7回 集団の影響
- 第8回 ストレスの仕組みを学ぶ
- 第9回 自分の気持ちの伝え方 ① -自分の表現の特徴を知る
- 第10回 自分の気持ちの伝え方 ② -3つの自己表現
- 第11回 相手の話しの聴き方 ① -自分の気持ちと相手の価値観
- 第12回 相手の話しの聴き方 ② -基本的な傾聴技法
- 第13回 傾聴技法のロールプレイ -わたしの悩み
- 第14回 問題解決のロールプレイ
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

毎回のワークへ取り組みの態度やレスポンスカードの提出（40%）、確認レポートの提出（60%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

特になし

■ 参考図書

適宜紹介します

■ 留意事項

本講義では個人およびグループでのワークが多くあります。欠席や遅刻のないように注意すること。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|-----------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ | | | | |
| 担当者 | 山口忍（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 広島大学附属病院・京都大学附属病院の耳鼻咽喉科にて35年以上の経験 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

コミュニケーションの基本的スキルを身に着ける演習及び、傾聴の意味を理解する。適切なコミュニケーションが、人間の本能に根差した対応であることを理解する。

■ 到達目標

初対面の方に、不快感を与えず近づいていける。医療者の発言が対象者及びご家族にどのようにとらえられるかを知る。

■ 授業計画

- 第1回 「挨拶」は何のためにし、「笑顔」はどのような意味を持つか
- 第2回 「聴く」と「聞く」の違いを学ぶ
- 第3回 コミュニケーションにおけるポジショニング
- 第4回 やまびこのレッスン
- 第5回 声を出す、話すということ
- 第6回 医療関係者に言われて嫌だった言葉
- 第7回 〃 －グループでまとめ、発表する
- 第8回 人間の本能とコミュニケーション

■ 評価方法

小テスト20% 【科目試験（筆記試験）】70%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

2コマ目から成績判定のための小テストを実施しますので、授業内の内容を復習する（15分程度）こと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

演習は照れずに積極的に行うこと。臨床では対象者の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組むこと。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 大根茂夫（実務経験者）・中村靖子（実務経験者）・辻郁（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害及び嚥下障害の患者を担当した） 辻郁（作業療法士として病院や保健所で失語症や嚥下障害を有する障害者に介入した） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

- ・神経系の基礎を復習する。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害の基礎について学び、摂食嚥下障害の方への関わり方について学ぶ。中村靖子（実務経験者）

■ 到達目標

- ・神経系の基礎知識を身につける。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害に関する必要な基礎知識を身につけ、基本的な関わり方について理解する。中村靖子（実務経験者）

■ 授業計画

- 第1回 神経系の復習① 中枢神経系：大脳、間脳 大根茂夫（実務経験者）
- 第2回 神経系の復習② 中枢神経系：小脳、脳幹、脊髄 大根茂夫（実務経験者）
- 第3回 神経系の復習③ 末梢神経系：脳神経、脊髄神経、自律神経 大根茂夫（実務経験者）
- 第4回 神経系の復習① 練習問題：国家試験問題とその解説 大根茂夫（実務経験者）
- 第5回 摂食嚥下障害とは 中村靖子（実務経験者）
- 第6回 摂食嚥下障害：チームアプローチ、評価 中村靖子（実務経験者）
- 第7回 摂食嚥下障害：訓練、食事介助 演習含む 中村靖子（実務経験者）
- 第8回 摂食嚥下障害：口腔ケアの意義と方法 演習含む 中村靖子（実務経験者）

■ 評価方法

筆記試験80% 実技のレポート20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・復習を行うこと。
- ・空き時間を利用し実技練習を行うこと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション
著者名：稲川利光
出版社：学研メディカル秀潤社

■ 留意事項

摂食嚥下障害演習時の持ち物は追って連絡します。

■ 講義受講にあたって

臨床や国家試験に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ | | | | |
| 担当者 | 大西環（実務経験者）・平林容子（実務経験者）・大根茂夫（実務経験者） 中村靖子（実務経験者）・辻郁（実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 大西環／平林容子／大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害及び嚥下障害の患者を担当した） 辻郁（作業療法士として病院や保健所で失語症や嚥下障害を有する障害者に介入した） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。大西環／平林容子（実務経験者）
- ・講義のほか、言語障害の方との対話会も実施。大西環／平林容子／大根茂夫／中村靖子（実務経験者）

■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 失語症の基礎知識 失語症とは 言語障害の特徴と症状 平林容子（実務経験者）
- 第2回 失語症の基礎知識 失語症のタイプ分類 平林容子（実務経験者）
- 第3回 失語症状と失語症検査の概要 大西環（実務経験者）
- 第4回 模擬対話会 大西環、平林容子（実務経験者）
- 第5回 模擬対話会のフィードバックとコミュニケーションの工夫
対話会の準備について 大西環（実務経験者）
- 第6回 対話会 大西、平林、大根、中村（実務経験者）
- 第7回 対話会 大西、平林、大根、中村（実務経験者）
- 第8回 国家試験対策 中村靖子（実務経験者）

■ 評価方法

- 小テスト100%
- 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・授業後は復習を行うこと。
- ・グループでの準備や活動をしっかり行うこと。

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害
著者名：毛東真知子
出版社：学研

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

臨床や国家試験に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

| | | | | | |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|---------------|
| 授業科目 | 心理学 | | | | |
| 担当者 | 鈴木暁子(実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 大学病院や精神科病院で臨床心理士としての勤務経験を持つ。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | PT 選択 / OT 必修 |

■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 知能と記憶
- 第7回 学習①
- 第8回 学習②
- 第9回 動機づけと情動①
- 第10回 動機づけと情動②
- 第11回 社会心理学入門①
- 第12回 社会心理学入門②
- 第13回 人と音楽①
- 第14回 人と音楽②
- 第15回 臨床に活かすコーチング

■ 評価方法

【科目試験(筆記)】90% 授業態度10%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講師の指示に従ってください。

■ 教科書

書 名：改訂版 はじめて出会う心理学
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参考図書

書名：心理学概論

著者名：山内弘継・橋本宰監修

出版社：ナカニシヤ出版

■ 留意事項

配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。

■ 講義受講にあたって

登録が終了したら座席を決めますので、指定された席に座ってください。

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 言語学 | | | | |
| 担当者 | 松井 理直 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

医療ミスを引き起こす原因の1つとなる論理判断の錯誤について、言語学の立場から考察を行う。

■ 到達目標

医療現場におけるコミュニケーション・ミスについて理解を深めることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 導入：医療ミスを引き起こす原因について
- 第2回 ことばと論理の関係 (1)：連言判断における過誤
- 第3回 ことばと論理の関係 (2)：選言判断における過誤
- 第4回 ことばと論理の関係 (3)：排他的選言をめぐる過誤
- 第5回 ことばと論理の関係 (4)：含意判断における過誤
- 第6回 ことばと論理の関係 (5)：「言い換え」とトートロジー
- 第7回 ことばと確率：医療診断におけるエビデンス
- 第8回 擬陽性問題について
- 第9回 前提確率から見た患者の立場と治療者の立場の違い
- 第10回 仮説と錯誤
- 第11回 第一種のエラーと第二種のエラー
- 第12回 統計学の基礎
- 第13回 有意水準と第一種のエラー
- 第14回 検定力と第二種のエラー
- 第15回 授業のまとめと到達度の確認

■ 評価方法

授業内に毎回行うミニテスト：50% 【科目試験(筆記試験)】50%
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

基本的に授業中に全て理解することを目標とするが、復習に必要な時間として50分程度を目安とする。予習に関しては、特に必要としない。なお、授業内容に関しては教科書を用いず、適宜プリントを配布する。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

復習をきちんと行い、次回の授業までに全ての内容を理解できるようにしておくこと。

■ 講義受講にあたって

選択科目であるため、内容に十分に興味を持っていることを前提として授業を行う。本授業を選択するかどうかを決める際に、ものごとを論理的に判断することが要求され、国語の能力とともに、数学の能力が要求される点に十分留意されたい。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 医療英語 | | | | |
| 担当者 | 近藤 未奈 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、また、専門用語の単語の成り立ちを学びます。英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。以上を通じて、理学療法士・作業療法士として必要不可欠な国際的な学術論文を理解する土台を養います。

■ 到達目標

医学英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (受講にあたっての諸注意)
医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目 (1)
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目 (2)
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目 (3)
- 第10回 英文読解 (1) 症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識 (1) 論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解 (2) 論文の抄録 (アブストラクト) を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識 (2) 英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解 (3) カルテを読む
- 第15回 英文読解 (4) 症例を読む その2

■ 評価方法

受講態度 (予習や授業中の発表など:30%)、小テストおよびレポート課題 (30%)、【科目試験(筆記)】 (40%)の結果を総合的に評価します。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してこること。

■ 教科書

書名：音声と例文でおぼえる基本医療英語1000
著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき
出版社：南雲堂

■ 参考図書

書名：Dr. 押味の あなたの医学英語 なんとかします！
著者名：押味貴之
出版社：メジカルビュー

書名：医者も知りたい面白医学英語事典
著者名：木村専太郎
出版社：花乱社

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストの詳細は初回授業で説明します。
授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。
毎回配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。
成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合は必ず初回から出席してください。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 情報処理学 | | | | |
| 担当者 | 永井 文子 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

Microsoft Windows[®] および Microsoft Office[®] アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

■ 到達目標

- ・ 講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法と課題提出方法を理解し利用できる。
- ・ PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・ PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・ PC (Windows) 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。
- ・ 文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・ 表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・ プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授業計画

- 第 1 回 授業概要。ブラウザの利用①。学校メール(G-mail)利用開始(アドレス／パスワード設定)。eメール送受信。講義支援システム Moodle の利用開始 (ID /パスワード設定、ログイン／ログアウト)。PC キーボードのタイピング練習方法。
- 第 2 回 Windows10画面構成と基本操作確認。
ファイル管理。(フォルダ及びファイル作成と Moodle からの、ファイル取得と保存の練習。)ブラウザの利用②。G-mail における添付ファイルの扱い。Google ドライブへのファイル保存。情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)。
- 第 3 回 文書作成①
Word 上での日本語入力 (ローマ字入力と各種変換操作)。
Word 画面構成と基本操作。新規文書作成と既存文書更新。ファイル保存と管理。
- 第 4 回 文書作成②
文書作成／編集における書式設定 (文字書式、段落書式、ページ書式)。
Word で作成する表 (表罫線とセル内書式)
- 第 5 回 文書作成③
オブジェクト (図形、イラスト、画像) の扱い (挿入と加工／文字列との関係)。
- 第 6 回 文書作成課題 (Word 課題)
作成・提出。
- 第 7 回 表計算①
Excel 画面構成紹介。セル／シート／ブック、入力と四則計算 (自動再計算の利用)、セルの書式設定。
- 第 8 回 表計算②
集計表における数式 (四則計算、関数①)、絶対参照と相対参照。

- 第9回 表計算③
関数②。
グラフの作成と編集。
- 第10回 表計算④と文書作成④
分析機能（データベース機能）。
Office 連携（Excel → Word）と利用形式。
- 第11回 表計算課題（Excel 課題）
作成・提出。
- 第12回 プレゼンテーション①
プレゼンテーションと資料の関係。
PowerPoint 概要、スライドの作成①テキスト入力。スライドの追加と削除。
- 第13回 プレゼンテーション②
オブジェクト挿入と加工。
プレゼンテーション機能（スライド切替・アニメーション設定・スライドショー）。
- 第14回 プレゼンテーション③
Office 連携（Excel グラフと表の利用と形式）とプレゼンテーションファイル作成練習。
総合演習準備（総復習）。
- 第15回 総合演習課題
作成・提出。

■ 評価方法

提出課題（8～10回）40%、総合演習課題60%（但し、受講態度に著しく問題がある場合は減点対象とします）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

PC キーボードのタイピングスキルを各自時間と環境を工夫してトレーニングすることを時間外の学習として必須とする。

期初に案内する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。講義内で使用したファイルは、必要にクラウド上に保存可能ですが、外部メディア（USB メモリ等）に保存したい場合は自身で用意して持参すること。（USB メモリは各自が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書名：Office2016で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN：978-4-407-34060-0）

著者名：小野目如快

出版社：実教出版

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 医療情報学 | | | | |
| 担当者 | 周藤俊治 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として①デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか、②医療機関にどのようなシステムが導入・運用されているのか、③情報の収集や活用に関して講義を行なう。

■ 到達目標

- ①情報に関する計算ができる（情報量（A/D 変換），転送速度）。
- ②保健医療情報システムの概要や、関連法規について説明できる。
- ③データのとりまとめ（代表値，散布度）や統計資料について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報とは
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報量の計算について
- 第3回 情報学（Ⅲ） ネットワーク技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報セキュリティ
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅰ） 医用画像について
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅱ） 電子カルテについて
- 第7回 保健医療情報システム（Ⅲ） 施設内の情報システムについて
- 第8回 保健医療情報システム（Ⅳ） 施設間の情報システムについて
- 第9回 統計基礎（Ⅰ） 尺度・度数分布について
- 第10回 統計基礎（Ⅱ） 代表値について
- 第11回 統計基礎（Ⅲ） 散布度について
- 第12回 医療統計（Ⅰ） 病院の統計資料
- 第13回 医療統計（Ⅱ） 比と率と割合
- 第14回 医療統計（Ⅲ） 相対危険度
- 第15回 医療情報の倫理 医の倫理・情報の倫理・関連法規について

■ 評価方法

学習成果（提出課題や小テスト）で100%とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します

■ 講義受講にあたって

小テストは3回実施の予定です

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 統計学 | | | | |
| 担当者 | 周藤俊治 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につける必要がある。そこで、本講義では PC を利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

■ 到達目標

PC を用いて代表値や散布度などの指標を算出できる
 PC を用いてわかりやすい表・グラフを作成できる
 推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

- 第1回 記述統計（Ⅰ）度数分布表
- 第2回 記述統計（Ⅱ）度数分布図
- 第3回 記述統計（Ⅲ）代表値
- 第4回 記述統計（Ⅳ）散布度
- 第5回 推定（Ⅰ）大数の法則
- 第6回 推定（Ⅱ）中心極限定理
- 第7回 推定（Ⅲ）正規分布による推定
- 第8回 推定（Ⅳ）t 分布による推定
- 第9回 検定（Ⅰ）二標本 t 検定
- 第10回 検定（Ⅱ）一標本 t 検定
- 第11回 検定（Ⅲ）ウィルコクソンの符号順位検定
- 第12回 検定（Ⅳ）カイ二乗検定
- 第13回 検定（Ⅴ）多重比較法
- 第14回 判断分析（Ⅰ）感度・特異度
- 第15回 判断分析（Ⅱ）ROC 曲線

■ 評価方法

学習成果（提出課題や小テスト）で100%とする。
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します

■ 講義受講にあたって

PCを用いて授業を行います

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 文学 | | | | |
| 担当者 | 小林 信 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 (ex) 石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂，呼子と口笛，時代閉塞の現状」
（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論（意見の発表）
- 第5回 (1) 森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言，当流比較言語学，遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論。
- 第7回 (2) 夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化，イズムの功過，私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 (3) 芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記，或阿呆の一生，点鬼簿」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 (4) 永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞，新婦朝者日記，断腸亭日乗」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 (5) 坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論，続墮落論，日本文化私観」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

平常点 (50%)
発表レジュメ (50%)

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業に関係する作家の作品 (事前に配布) を読んで授業に臨むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

取り上げられている作家の作品を出来るだけ読んでおくこと

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 教育学 | | | | |
| 担当者 | 川村 光 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

教育とはどのようなものか、教育を行う指導者に求められるものはなにか、指導者が学生に教育を行う学校とはどのようなものなのか、さらには、学校を取り巻く社会とはどのようなものなのかということに関する基礎的な内容について学びます。

■ 到達目標

1. 教育の特徴、指導者に求められる力量、学校の機能、社会構造の変容について説明できる。
2. 授業で取り上げた内容について、自分の意見を主体的に述べることができる。

■ 授業計画

- 第1回 教育学の授業に関するオリエンテーション
- 第2回 話すことと聞くこと①（伝える技術の学修）
- 第3回 話すことと聞くこと②（伝える技術の実践）
- 第4回 教育することの特徴
- 第5回 教育とは何か①（事例をもとに検討）
- 第6回 教育とは何か②（ボノボの事例）
- 第7回 教育とは何か③（まとめ）
- 第8回 教育を取り巻く社会構造の変容
- 第9回 社会構造と家庭教育①（良妻賢母の登場）
- 第10回 社会構造と家庭教育②（昭和の教育ママ）
- 第11回 社会構造と家庭教育③（三歳児神話）
- 第12回 指導者の成長
- 第13回 隠れたカリキュラム
- 第14回 学校の機能
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

授業中に実施する小テスト：60点 小課題：4点×10回

※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：人にわかりやすく伝える方法と、人の話に耳を傾げるための方法について考えておくこと。また、必要に応じてそれらを表現できるように準備しておくこと。

復習：人に対してわかりやすく伝えることができたのか、人の話に耳を傾げることができたのかということについて振り返りを行うこと。また、必要に応じて振り返りを報告できるように準備しておくこと。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

グループワークを行ったり、意見を発表したりすることがあります。積極的、主体的に授業に参加してください。また、協働的な姿勢が必要になります。

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 法学概論 | | | | |
| 担当者 | 家 正治 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学 科 名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

「社会あるところに法あり」という法格言があります。社会規範には道德規範、宗教規範、習俗規範、法規規範などがありますが、それらの中で法規規範はどのような特徴を有するかを把握し、また今日の国内法と国際法が当面する主要問題と課題を考察します。

■ 到達目標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」、また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」について理解することを目指します。そして、その中で、リーガル・マインド、「法的ものの考え方」に接近することにいたします。

■ 授業計画

- 第1回 「法学」を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か — とくに法と道德について
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 憲法と国民主権主義
- 第6回 憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 憲法と平和主義
- 第8回 憲法と権力分立（三権分立）
- 第9回 法と裁判 — とくに裁判基準について
- 第10回 国内法と国際法の関係
- 第11回 戦争の違法化と安全保障の法体制
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）
- 第13回 国際経済のシステムと諸課題について
- 第14回 地球環境の保護の法体制
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】70%
出席を含む平常点 30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回授業の始めに若干の時間を割き、国内社会で生起している法的問題を取り上げて検討することいたします。一般新聞の、とくに政治、経済、社会面に留意しておいて下さい。

■ 教 科 書

書 名：法学入門〔最新版〕
著者名：末川博 編
出版社：有斐閣

■ 参考図書

書名：現代法学入門〔最新版〕
著者名：伊藤正己・加藤一郎 編
出版社：有斐閣

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 国際社会と日本 | | | | |
| 担当者 | 家 正治 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

国際社会の構造とその現状を理解し、現代の国際社会が当面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題などの全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察します。

■ 到達目標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範について理解し認識するとともに、現代国際社会において日本の占める位置と立場と係わりについて理解できるように努めます。

■ 授業計画

- 第1回 国際社会の成立とそこでの日本
- 第2回 国際社会の発展とそこでの日本の位置と係わり
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクターと日本
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決（日本の係わりを含めて）
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障体制へ（日本の係わりを含めて）
- 第6回 平和維持活動（PKO）の役割と日本の位置
- 第7回 軍縮の現状とその阻害要因および日本の役割
- 第8回 日米安全保障体制の展開と現状
- 第9回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 歴史的展開
- 第10回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 現状と実態
- 第11回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）と日本
- 第13回 難民問題とその庇護と保護および日本の対応
- 第14回 地球環境の保護と国際協力 -とくに日本の役割について-
- 第15回 今後の国際社会と日本

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（70%）
出席を含む平常点（30%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国際社会で生起している具体的な事例をとり上げながら、授業を行ないたいと思います。毎日、できるだけ一般新聞の国際面を読むように心掛けて下さい。

■ 教科書

書 名：国際関係〔全訂版〕
著者名：家正治／岩本誠吾／桐山孝信／戸田五郎／西村智郎／福島崇宏 著
出版社：世界思想社

■ 参考図書

書名：国際機構〔第四版〕
著者名：家正治／小畑郁／桐山孝信 編
出版社：世界思想社

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 物理学 | | | | |
| 担当者 | 石井田 啓太 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

症状を科学的に分析し、的確な治療法を決定するのに必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。特に、身体運動の基本を扱う力学を中心に扱う。

■ 到達目標

多様な症状に関係する物理の法則を見い出すことができる能力、更に医療法を改良したり、創造したりすることができる。また、能力の基となる知識を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 基本計算・基礎数学の確認（リメディアル理系の内容確認）
- 第2回 力とは 力の合成と分解
- 第3回 物体にはたらく力
- 第4回 質点にはたらく力のつりあい
- 第5回 第1回～第4回の内容について総復習・小テスト
- 第6回 剛体にはたらく力のつりあい
- 第7回 力のモーメントとは 力のモーメントの基本計算
- 第8回 力のモーメントのつりあい
- 第9回 力のモーメントに関する種々の問題
- 第10回 第5回～第9回の内容について総復習・小テスト
- 第11回 力学的エネルギー保存の法則
- 第12回 運動量保存の法則
- 第13回 圧力と浮力
- 第14回 電流と磁場 音波と電磁波
- 第15回 総合演習や復習、まとめ

■ 評価方法

小テスト2回（各15%）

【科目試験（筆記試験）】（70%）に加え、平常点を加味する。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習：講義内容の理解を深める為の演習プリントを完成させる
予習は課さないので復習に時間を割きましょう。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

運動学や治療学の基礎となる科目であるので、十分理解できるように取り組むこと。
無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 生物学 | | | | |
| 担当者 | 林 研 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

人体を理解するための、より基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。前半では生物を理解するために最も重要な「細胞」と「遺伝子」について解説します。後半では、それを踏まえた上で動物の身体の様々なたらきを見ていきます。日常的な身体のはたらきが細胞や遺伝子のレベルとそのままつながっていることを理解してください。

■ 到達目標

生物学の基礎的な概念や、用語をしっかりと身に着けることが目標となります。細胞や遺伝子について、またその生体内での具体的なはたらきについての概念を、単なる暗記ではなく、意味を理解した上で使いこなしていけることが望まれます。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞分裂と発生
- 第4回 細胞の分化と幹細胞
- 第5回 神経・筋・骨
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子の発現
- 第8回 ゲノム科学
- 第9回 酵素
- 第10回 エネルギーの生成
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 恒常性の調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（80%）、小テスト1回（20%）
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回配布する復習問題を、次の週までに解いておくこと。

■ 教科書

書 名：生物学 ヒトと環境の生命科学
著者名：川崎祥二・古庄律 編著
出版社：建帛社

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 福祉住環境論 | | | | |
| 担当者 | 山田 隆人 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 東大阪市住宅改造助成事業検証活動検証活動員 (NPO 法人への委託事業、平成 22 年 1 月～現在に至る) 「平成 26 年度 福祉用具・住宅改修研修会」, 講師 「住環境調整及び居住支援」研修会講師, 三重県作業療法士会研修会, 2018.10.20 専門作業療法士 (作業療法士協会) 二級建築士免許証 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

OT・PT の職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

■ 到達目標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する
高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する
障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

■ 授業計画

- 第 1 回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 2 回 介護保険制度の概要
- 第 3 回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 4 回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 5 回 福祉住環境とマネジメント
- 第 6 回 図面を見る読む
- 第 7 回 建築物の構造と留意点
- 第 8 回 体の大きさと寸法
- 第 9 回 福祉住環境整備の共通基本的技術
- 第10回 生活行為別福祉住環境整備の手法 玄関
- 第11回 生活行為別福祉住環境整備の手法 トイレ
- 第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法 浴室
- 第13回 生活行為別福祉住環境整備の手法 その他
- 第14回 住環境整備課題 1
- 第15回 住環境整備課題 2

■ 評価方法

課題提出 (100%), 出席状況 (無断欠席や遅刻は 1 回につき -5点)

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。
教科書は最新版を購入すること。

■ 教科書

書名：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト

著者名：東京商工会議所

出版社：東京商工会議所

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 自然科学概論 | | | | |
| 担当者 | 林 研 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

現代医療は科学であり、医療にたずさわるには、科学的なものの考え方や基本的な科学知識を身に付けておく必要があります。この科目では科学の基礎を押さえるために、①科学とは何かを歴史と哲学から学ぶ、②高校理科の重要なところを改めて確認する、③現代科学の様々な分野を見渡して多様なトピックを知る、という3つの角度からアプローチします。

■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につけることが目標となります。科学の各分野の知識を整理し、何か不明なことがあればすぐ調べて理解できる素地が作られることが望めます。また、特にひとつのテーマについてしっかり考えてまとめる論述をできるようになってもらいます。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史
- 第2回 科学の方法
- 第3回 ニュートンと力学
- 第4回 回転運動と仕事
- 第5回 宇宙と物理
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態
- 第8回 物質の変化
- 第9回 エネルギーと環境
- 第10回 進化と遺伝子
- 第11回 地球科学
- 第12回 人体理解の歴史
- 第13回 脳科学
- 第14回 シミュレーションの科学
- 第15回 科学と社会

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（100%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

補助資料で復習問題を出したときは、各自解いておくこと。

■ 教科書

書 名：使用しません。適宜プリントを配布します。

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 栄養学 | | | | |
| 担当者 | 仲村 祐江 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 基礎的な栄養素の知識に加え、管理栄養士として病院、クリニックでの栄養指導歴30年以上の経験を生かし、日本人の食生活の移り変わりを解説する。現代の生活習慣病予防のためライフステージごと食事摂取基準を理解する。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎を学ぶ。体内での栄養素の消化吸收、エネルギー利用や生体の構成材料利用など栄養素の役割と生理や代謝のしくみを学ぶ。

■ 到達目標

1. 栄養学の概念を理解する。
2. 人間が生活活動を維持するために必要な栄養素の役割を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 栄養の概念
- 第2回 タンパク質の栄養 1
- 第3回 タンパク質の栄養 2
- 第4回 タンパク質の栄養 3
- 第5回 糖質の栄養 1
- 第6回 糖質の栄養 2
- 第7回 糖質の栄養 3
- 第8回 脂質の栄養 1
- 第9回 脂質の栄養 2
- 第10回 脂質の栄養 3
- 第11回 消化吸收と栄養素 1
- 第12回 消化吸收と栄養素 2
- 第13回 ビタミン・ミネラル
- 第14回 食事摂取基準
- 第15回 高齢者の栄養 / まとめ

■ 評価方法

受講態度20%
【科目試験 (筆記試験)】80%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

栄養学は、専門用語が多いため授業前にテキストや配布資料に目を通して確認をしておいてください。復習も必ず行い授業内容の理解に努めてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：基礎栄養学
著者名：奥恒行・柴田克己編集
出版社：南江堂

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

各栄養素が自分の体内において相互作用しあい、健康維持されていることを理解しましょう。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 基礎ゼミナール | | | | |
| 担当者 | 専任教員・他 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

自分自身の療法士として将来像を具体化し、求められる態度、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、学習への態度と学習方法などについて、講義とグループ活動を通して学ぶ。

■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えをつくることができる
2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一歩でも近づくための方向付けを行うことができる
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収集し整理する力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを修得する
 - ①授業をしっかり聞いてノートがとれる
 - ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることができる
 - ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることができる

■ 授業計画

- 第1回 プレイメントテスト（これまでの学習状況を確認しよう）
- 第2回 オリエンテーション（基礎ゼミについて、大学生活に関わる内容について、など）
- 第3回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
- 第4回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第5回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第6回 現代社会と基礎経済を学ぼう
- 第7回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
- 第8回 先輩セラピストの話を聞いてみよう（ディスカッション・まとめ）
- 第9回 ハラスメントについて学ぼう
- 第10回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①
- 第11回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②（一次救急救命法 AED の使用方法）
- 第12回 障がいのある当事者の話 1
- 第13回 障がいのある当事者の話 1（ディスカッション・まとめ）
- 第14回 障がいのある当事者の話 2
- 第15回 障がいのある当事者の話 2（ディスカッション・まとめ）
- 第16回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第17回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第18回 興味あるテーマについて調べよう
- 第19回 興味あるテーマについて調べよう
- 第20回 障がいのある当事者の話 3
- 第21回 障がいのある当事者の話 3（ディスカッション・まとめ）
- 第22回 障がいのある当事者の話 4
- 第23回 障がいのある当事者の話 4（ディスカッション・まとめ）
- 第24回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう

- 第25回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第26回 人権研修
- 第27回 人権研修（ディスカッション・まとめ）
- 第28回 国家試験問題を解いてみよう / 目指すセラピスト像となすべきこと ディスカッション
- 第29回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション
- 第30回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション

■ 評価方法

ノートの内容、整理された図やテーマの内容、ディスカッションへの参加態度等を毎回10点満点で採点し、最終評価とする。

そのため、欠席するとその日の成績が0点となるため注意すること。

また、基礎ゼミナールの資料集や、講義に必要な資料は持参すること。不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料の準備不足など）は減点対象である。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「次回の課題」が提示された場合には、取り組んで授業に臨むこと

特に、ディスカッションの前には、自分に考えをまとめておく（各回考えておくべき事項を伝えます）

各授業終了後には、リアクションペーパーの作成により、授業内容を振り返る

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

積極的に参加し、取り組みましょう

講師の都合により日程を変更する可能性があります

授業に欠席した場合は、その日の評価は0点となります。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 医の倫理 | | | | |
| 担当者 | 桂ノ口結衣 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、その基本的な考え方および理学療法士・作業療法士の倫理綱領等を知る。そのうえで、現代社会における「医の倫理」の諸問題について、議論の要点を把握するとともに、多様な観点・立場から考察する。

■ 到達目標

1. 「医の倫理」の基本的な考え方について述べることができる。2. 理学療法士・作業療法士の職業倫理について述べるができる。3. 医療における倫理問題について、複数の論点を挙げるができる。4. 現代社会の医療における倫理問題について、対象者の立場ならびに医療者としての自らの立場を意識したうえで、理由とともに説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 「医の倫理」の歴史と、理学療法士・作業療法士の職業倫理
- 第2回 「医の倫理」の基礎理論
- 第3回 医療者-患者関係1：インフォームドコンセント、自己決定
- 第4回 医療者-患者関係2：弱さの尊重
- 第5回 小児医療と高齢者医療における倫理問題
- 第6回 終末期と死に関する倫理問題
- 第7回 医療と社会
- 第8回 筆記試験

■ 評価方法

毎回のコメントペーパー（6×7=42%）、【科目試験（筆記試験）】（58%）。コメントペーパーの課題は、各回の授業内で指示する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

〈第1回～第4回〉

予習：教科書第1章から第3章までをよく読んでおく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

〈第5回～第7回〉

予習：教科書第4章から第10章（特に第6章から第8章）、および第15章・第16章を精読しておく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

■ 教科書

書 名：テキストブック 生命倫理
 著者名：霜田求（編）
 出版社：法律文化社

■ 参考図書

書名：ケアの社会倫理学：医療・看護・介護・教育をつなぐ

著者名：川本隆史編

出版社：有斐閣

■ 留意事項

授業は、すべての受講者のためにあります。したがって、質問や意見は、ささいなものであれ挑戦的なものであれ、歓迎します。私語は、ほかの学生の学習を妨害することになるので、禁止します。

■ 講義受講にあたって

医療・福祉に関わる倫理的・社会的問題はメディアでもよく報道されています。日頃から問題意識をもってそうした情報を得るようにしましょう。また、いまひとつ問題意識がもちにくい場合、どこにその根があるのかを探ってみましょう。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | チーム医療論 | | | | |
| 担当者 | 井上悟・大西環・辻郁・中村靖子・齋藤典昭・岡崎満希子・大根茂夫・平林容子・林部美紀・足立一・吉田文（すべて実務経験者） | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | オムニバス形式の内、主担当の井上は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院に必須のチーム医療の実際の経験がある。特に医療安全、感染制御等のチームのリスク・マネージャーを経験していた。中村/大根/平林：言語聴覚士として病院などに勤務し、コミュニケーション障害及び嚥下障害の臨床経験がある。齋藤/岡崎：言語聴覚士として施設などに勤務し、小児領域の言語聴覚療法の臨床経験がある。作業療法士は各専門分野の臨床チーム実践が豊富にある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

今改めて、チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について紹介する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について紹介する。

■ 到達目標

チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について認識する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 PT：チーム医療とは？ 今更、なぜチーム医療が求められるのか？井上（実務経験者）
 第2回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（摂食嚥下障害）中村（実務経験者）
 第3回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（知的能力障害）齋藤（実務経験者）
 第4回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（発達障害）岡崎（実務経験者）
 第5回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（運動障害性構音障害）大根（実務経験者）
 第6回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（失語症）平林（実務経験者）
 第7回 OT：作業療法の専門性（辻）（実務経験者）
 第8回 OT：メイクアップを切り口としたチーム実践の実際（林部）（実務経験者）
 第9回 OT：スポーツを切り口としたチーム実践の実際（足立）（実務経験者）
 第10回 OT：動物介在を切り口としたチーム実践の実際（吉田）（実務経験者）
 第11回 OT：事例検討演習（辻）（実務経験者）
 第12回 PT：チームモデルとチーム医療の条件：井上（実務経験者）
 第13回 PT：チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御：井上（実務経験者）
 第14回 PT：チーム医療実践具体事例2：がん、呼吸・循環器：井上（実務経験者）
 第15回 PT：チーム医療実践具体事例3：リハビリテーション・チーム：井上（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験またはレポート）】 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 第2版
 著者名：毛東真知子
 出版社：Gakken 2376円

■ 参考図書

書名：チーム医療を成功させる10か条
著者名：福原麻希
出版社：中山書店, 2013年,3150円（最新版で）

■ 留意事項

オムニバスのため、各回の講義内容、順序・等については変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 障害者スポーツ入門 | | | | |
| 担当者 | 島 雅人 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・足立一 (実務経験者)・山田隆人 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会 スポーツ医・科学・情報サポート事業 バイオメカニクス担当 (公財) 日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員 (2015～) スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ (MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～)、スポーツコーチ (2017～)、ローカルトレーナー (2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立 一：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) ・山田隆人：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 自由選択 |

■ 内 容

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて、講義と実技実習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図る。本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。島 雅人 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)、足立一 (実務経験者)、山田隆人 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい者との交流をはかり、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

■ 授業計画

- 第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 1 (0.5)、障がい者スポーツの意義と理念 1 (1.0)：島 (実務経験者)
- 第2回 障がい者スポーツの意義と理念 (1.0)、文化としてのスポーツ (0.5)：島 (実務経験者)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (1.5)：足立 (実務経験者)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (0.5)：足立 (実務経験者)
(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度 (1.0)：足立 (実務経験者)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1.0) 安全管理 1 (0.5)：山田 (実務経験者)
- 第6回 安全管理 2 (0.5) ボランティア論 1 (1.0)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第7回 ボランティア論 2 (1.0)、スポーツと栄養 (0.5)：相原 (実務経験者)
- 第8回 スポーツと心理 (1.5)：足立 (実務経験者)
- 第9回 障がいの理解とスポーツ (身体、知的、精神、視覚など) (1.5)：山田 (実務経験者)
- 第10回 障がい者のスポーツ指導における留意点 1 (1.5)：山田 (実務経験者)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会の概要 (1.0) 島 (実務経験者)
全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (0.5) 島 (実務経験者)
- 第12回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第13回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第14回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者)
- 第15回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者)

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】50% 、 課題レポート50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>

著者名：(公財)日本障がい者スポーツ協会 編

出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書 名：よくわかる障がい者スポーツ

著者名：藤田紀昭

出版社：PHP

書 名：みんなちがってそれでいい

著者名：宮崎 恵理 重本 沙絵

出版社：ポプラ社

書 名：スポーツでひろげる国際理解 5 知ろう・やってみよう障がい者スポーツ

著者名：中西 哲生

出版社：文溪堂

書 名：パラリンピックとある医師の挑戦

著者名：三枝義浩（著）

出版社：講談社

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 障害者スポーツ指導論 | | | | |
| 担当者 | 島 雅人 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・足立一 (実務経験者) 山田隆人 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会スポーツ医・科学・情報サポート事業バイオメカニクス担当(公財)日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員(2015～)スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ(MATP 2010～、ユニファイドサッカー2016～)、スポーツコーチ(2017～)、ローカルトレーナー(2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立 一：(公財)スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ(2016～) ・山田隆人：(公財)スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ(2016～) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 自由選択 |

■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。

島 雅人 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)、足立一 (実務経験者)、山田隆人 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

■ 授業計画

- 第1回 文化としてのスポーツ (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1. 0)、全国障害者スポーツ大会の障害区分 (0. 5)：島 (実務経験者)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1. 5)：島 (実務経験者)

- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 水泳（1. 5）
：島（実務経験者）
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・足立（実務経験者）
- 第15回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・足立（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】50% 、 課題レポート50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編
出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書名：パラスポーツルールブック パラリンピックを楽しもう
著者名：陶山 哲夫（監修），コンデックス情報研究所（編著）
出版社：清水書院

書名：発達障がい児の感覚を目覚めさせる運動発達アプローチ タイプ別やる気スイッチが入る運動あそび
著者名：森嶋 勉
出版社：合同出版

書名：身体と動きで学ぶスポーツ科学 運動生理学とバイオメカニクスがパフォーマンスを変える
著者名：深代千之（著），内海良子（著）
出版社：東京大学出版会

書名：地域生活からみたスポーツの可能性：暮らしとスポーツの社会学
著者名：後藤貴浩
出版社：道和書院

書名：よくわかるスポーツマネジメント
著者名：柳沢 和雄（編著），清水 紀宏（編著），中西 純司（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。
欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-------------|
| 授業科目 | スポーツ医学 | | | | |
| 担当者 | 佐藤 睦美・他 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | PT:必修/OT:自由 |

■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学ぶ

■ 到達目標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ・指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論
- 第2回 スポーツと栄養
- 第3回 トレーニング
- 第4回 数字から見るスポーツ
- 第5回 アスレチックリハビリテーション
- 第6回 スポーツ現場におけるサポート①
- 第7回 スポーツ現場におけるサポート②
- 第8回 スポーツ現場におけるサポート③

■ 評価方法

講義内課題・レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義で学んだ内容をしっかりと復習すること

■ 教科書

書 名：教科書指定無し（配布資料で講義を行う）

■ 参考図書

書 名：やさしい学生トレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学
 著者名：メディカル・フィットネス協会（監修）
 出版社：嵯峨野書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、各自確認を怠らないこと

| | | | | | |
|----------|--|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | リハビリテーション概論 | | | | |
| 担当者 | 井上悟（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 担当者は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院におけるリハビリテーション医療の実際の経験がある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。リハビリテーション本来の理念を歴史的背景を含め紹介する。

■ 到達目標

リハビリテーション (rehabilitation) を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは？（講義オリエンテーション含）
- 第2回 リハビリテーションの概念・理念・定義
- 第3回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第4回 障害論（国際障害分類、国際生活機能分類）
- 第5回 廃用症候群とは
- 第6回 障害の心理と障害受容
- 第7回 リハビリテーションの過程（評価とは？ 評価学の重要性）
- 第8回 リハビリテーションの諸段階1：医学的・職業的リハビリテーション
- 第9回 リハビリテーションの諸段階2：社会的・教育的リハビリテーション
- 第10回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題
- 第11回 チーム・アプローチ（リハ専門職の役割、評価と記録の重要性）
- 第12回 ADL,QOL の概念と評価法
- 第13回 地域リハビリテーションと高齢者対策
- 第14回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律1
- 第15回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律2

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験またはレポート）】 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：リハビリテーション概論（第3版）
 著者名：上好秋孝・田島文博
 出版社：永井書店，2014年（最新版で）,3000円税別

■ 参考図書

■ 留意事項

指定の教科書は後期開講のリハビリテーション医学の参考書として利用可能。各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--------------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | リハビリテーション医学 | | | | |
| 担当者 | 非常勤講師 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医療機関において、医師として業務に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。主な対象となる疾患を紹介し、どのように目的を達成していくかを受講者とともに考えます。

■ 到達目標

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種の専門家をを目指すための明確な動機付けができることを期待しています。

■ 授業計画

- 第1回 障害の評価（主に神経学的所見の取り方・診かた）
- 第2回 脳卒中各論①（脳梗塞・診断）
- 第3回 脳卒中各論②（脳梗塞・治療）
- 第4回 脳卒中各論③（出血性脳卒中）
- 第5回 脳卒中各論④（脳卒中のリハビリテーションⅠ）
- 第6回 脳卒中各論⑤（脳卒中のリハビリテーションⅡ）
- 第7回 脊髄損傷①
- 第8回 脊髄損傷②
- 第9回 末梢神経障害
- 第10回 神経変性疾患
- 第11回 骨・関節疾患
- 第12回 内部疾患（循環器・呼吸器）
- 第13回 小児疾患
- 第14回 高齢者のリハビリテーション・まとめ①
- 第15回 まとめ②
- 第16回 <試験>

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】 80%、小テスト 20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後も、教科書（資料が配布された場合はその資料も）を参考にして復習すること。

■ 教科書

書名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版
著者名：三上真弘（監修）、出江紳一・加賀谷斉（編）
出版社：南江堂

■ 参考図書

書名：リハビリテーション概論 改訂第3版
著者名：上好昭孝、田島文博（編）
出版社：永井書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

私語や無断で席を離れるなど、他の受講者および講師の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。多職種での協力が大事である医療・福祉・介護分野で働くための最低限の常識やマナーを身につけて講義に臨んでください。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 介護概論 | | | | |
| 担当者 | 橋本 卓也 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 通所・訪問リハビリテーション及び福祉サービスを提供している福祉施設において障害当事者が安寧に、また自律（自立）して暮らせる介護・介助の実践や介護者に対する指導・助言等を行ってきた。特に重度障害者に対しては、自律の視点から、また、認知症高齢者についてはパーソンセンタードケアに基づいた介護・介助の在り方を実践・提供してきた | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

近年、重視されている「キュアからケアへ」という概念に内包されている「治療から全人間的ケアへ」「医学モデルから生活・社会モデルへの転換」という視点を共有するとともに、介護・介助実践におけるジレンマについても考察・言及する。また、重い障害をもつ人たちから提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアのあり方や自立（自律）支援を目指すケアについて理解を深める。さらに「認知症」800万人時代といわれている現代における認知症高齢者に対する「家族介護」「在宅介護」のあり方を考える。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護問題の実態及びその要因について理解することができる。
- ②利用者本位、当事者本位の視点にたった介護・介助のあり方について考察することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）
- 第2回 介護の原理性（介護の本質及び全人間的視点にたったケアのあり方について）
- 第3回 介護・介助実践を通して生起するジレンマについて
- 第4回 アシュリー事件を通して見えてくる重い障害をもつ人たちに対する介助のあり方・価値等について
- 第5回 感情労働としてのケアワークについて
- 第6回 「介助者手足論」という理論から見えてくる利用者本位の視点に立ったケアのあり方とは
- 第7回 グリーフケアについて
- 第8回 認知症高齢者に対する家族介護・在宅介護のあり方について（NHKの映像を通して）

■ 評価方法

授業中に課すレポート（3回）:100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：①母よ殺すな②アシュリー事件
著者名：①横塚晃一②児玉真美
出版社：①生活書院②生活書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。介護者－被介護者両者の視点から介護（介助）の在り方を学ぶこと

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|----------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 疫学・公衆衛生学 | | | | |
| 担当者 | 白井 文恵 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学習する。

■ 到達目標

健康に生活するとはどのようなことか、健康に生活することを保障する社会の仕組みについて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 衛生学・公衆衛生学序論
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回 主な疾病の予防、環境保健
- 第6回 母子保健、学校保健
- 第7回 高齢者の保健・医療・介護、精神保健
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後に教科書を読んでおくこと

■ 教科書

書 名：シンプル公衆衛生学2019
出版社：南江堂

■ 参考図書

書 名：厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2019/2020
出版社：厚生労働統計協会

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 障害者福祉論 | | | | |
| 担当者 | 橋本 卓也 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 知的障害児入所施設において4年（指導員）、通所リハ・訪問リハ系の総合福祉施設において17年間、医療・福祉的視点から作業療法士並びに社会福祉士として障害者の方々の地域生活・就労支援等を行ってきた。現在も「障害者自立生活支援センター（2カ所）」の運営委員・監事を行っている | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。

■ 到達目標

- ①障害者福祉の理念・価値及び障害をもつ人たちの生活実態を把握することができる。
- ②障害をもつ人たちの生活ニーズを解決するための制度・施策等を把握し、支援のあり方を考察することができる。
- ③障害者福祉に関する医学モデルと生活・社会モデルの差異を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
障害者福祉の理念及び価値
- 第2回 障害者の法的定義と日本の障害者の実態
- 第3回 日本の障害者福祉施策体系
- 第4回 障害者の雇用・就労の現状と課題
- 第5回 障害者の所得保障と経済的負担軽減
- 第6回 障害者制度・施策の変遷（支援費制度から障害者総合支援法へ）
- 第7回 障害者施設論（世界の情勢と課題及び地域移行について）
- 第8回 障害者の権利擁護と障害者虐待防止法（権利侵害の実態と要因）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：よくわかる障害者福祉
著者名：小澤 温（編）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

当該科目は、スポーツ指導員（初級）に必要な科目である。欠席すると取得が難しくなるため健康管理等に留意して欠席がないように心がけること。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 老人福祉論 | | | | |
| 担当者 | 橋本 卓也 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 通所・訪問系施設においてデイケア企画や訪問リハビリテーションを通じて要介護高齢等の生活支援を行ってきた。現在も介護保険研修の講師、地域ケア会議等のスーパーバイザーを行っている | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

現代日本の高齢者を取り巻く現状と福祉課題を考察するとともに介護保険制度、地域包括ケアシステムについて理解する。また、権利擁護の視点から高齢者に対する虐待・孤立死等の要因を探る。更に国の認知症施策としてある認知症祖初期集中支援チームについても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景、理念、目標等について理解することができる。
- ②介護保険を中心とする高齢者福祉施策と、それに基づいた様々な施策と具体的実践について説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本の高齢者の実態と高齢者を取りまく現状
- 第2回 介護保険制度について
- 第3回 地域包括ケアシステムについて
- 第4回 認知症の症状と日本の現状
- 第5回 認知症初期集中支援チームについて
- 第6回 孤独死・孤立死の現状について
- 第7回 セルフ・ネグレクトについて
- 第8回 地域における見守りネットワークについて

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】80% 小テスト20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：高齢者に対する支援と介護保険制度
著者名：岡田進一 橋本正明（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

授業に対して積極的な参加を望む（態度、発言、小テストへの取り組みなど）

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 感染症学 | | | | |
| 担当者 | 藤岡 重和 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として各種感染症を含む診療業務に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査と診断、治療、そして感染予防策について学習する。感染症は、リハビリテーション領域において、特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるように解説する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法を理解する
3. 院内感染および感染予防対策について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 感染症総論 (1) 微生物と感染症、感染防御機構
 第2回 感染症総論 (2) 感染症の検査と診断、感染症の治療
 第3回 感染症各論 (1) 呼吸器感染症、結核
 第4回 感染症各論 (2) 消化器感染症、食中毒、肝炎
 第5回 感染症各論 (3) 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症
 第6回 感染症各論 (4) 人獣共通感染症、寄生虫感染症、新興感染症、感染症トピックス
 第7回 感染制御学 (1) 院内感染、薬剤耐性菌、標準予防策、感染経路別予防策
 第8回 感染制御学 (2) リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)】 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：臨床微生物、医動物 (NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 3)
 著者名：矢野久子、安田陽子
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版
 著者名：藤本秀士
 出版社：南山堂

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 医療安全学 | | | | |
| 担当者 | 藤岡 重和 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として医療安全業務を含む診療業務に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療職を取りまく社会的環境を理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策について学習する。また、事故事例の分析を通して医療機関における安全対策のありかたについて考える。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
- 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
- 第3回 医療事故発生のメカニズム
- 第4回 医療事故分析、事故対策
- 第5回 医療機関における安全対策 (1)
- 第6回 医療機関における安全対策 (2)
- 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
- 第8回 リハビリテーション業務における安全対策

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)】70%、提出課題 30%、

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：医療安全 (NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2)
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン
 著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会
 出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 基礎解剖学 | | | | |
| 担当者 | 柴田 雅朗 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本的事項を系統的に学ぶ。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を身につけ、運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作ると同時に、専門科目を理解する際の礎になる。

■ 授業計画

第1回 解剖学総論

1. 細胞・組織・器官・系
2. 肉眼解剖と組織学
3. 系統解剖と局所解剖学
4. 発生学
5. 体表解剖学
6. 人体の正常・異常・個体差
7. 解剖学的姿勢
8. 基本的な解剖学用語

第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髄 3. 体腔

第3回 関節靭帯学総論

1. 線維性連結
2. 軟骨性連結
3. 滑膜性連結
4. 関節の一般構造（関節包、滑膜、滑液）
5. 関節の特殊構造（関節円板、関節半月、関節靭帯、関節唇）

第4回 筋学総論

1. 筋の分類（平滑筋と横紋筋）
2. 随意筋と不随意筋
3. 骨格筋の基本形態
4. 腱と腱膜
5. 筋の付着（起始と停止）
6. 筋の作用（屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋）
7. 主動筋、拮抗筋、協力筋
8. 骨格筋の補助装置（筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘）

第5回 神経学総論1

1. 中枢神経系と末梢神経系
2. 求心性神経と遠心性神経
3. 白質と灰白質
4. 神経細胞（神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘）
5. 神経線維と神経

第6回 神経学総論2

1. 脊髄の白質と灰白質（前柱、後柱、前索、側索、後索）
2. 脊髄の区分（頸髄～尾髄）
3. 脊髄髄節と脊髄神経（髄節、前根と後根、前枝と後枝）

第7回 組織および胚葉

1. 組織（上皮組織、支持組織）
2. 胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）
3. 三層性胚盤と器官・組織形成

第8回 循環器系総論

1. 血管系の役割
2. 血管（動脈・毛細血管・静脈の構造）
3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血
4. 吻合
5. 終動脈

第9回 心臓

1. 心筋細胞
2. 心臓の位置
3. 心臓を包む膜
4. 心臓の内腔（心房と心室）
5. 肺循環と体循環

第10回 心臓（続き）

1. 房室弁（腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁）
2. 動脈弁（肺動脈弁・大動脈弁）
3. 心臓の血管（冠状動脈、冠状静脈洞）

第11回 動脈系

1. 大動脈
2. 大動脈弓（腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈）
2. 頭頸部に分布する動脈
3. 上肢帯と上肢に分布する動脈
4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

第12回 動脈系 (続き)

1. 脳の動脈

第13回 胎児循環

1. 胎盤 2. 臍静脈と臍動脈 3. 静脈管(アランチウス管) 4. 卵円孔 5. 動脈管(ボタロー管) リンパ系 1. リンパ管とリンパ節 2. 胸管 3. 右リンパ本幹 4. 脾臓

第14回 総復習 1

復習のための練習問題 (国家試験形式) とその解説

第15回 総復習 2

復習のための練習問題 (国家試験形式) とその解説

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 100%】

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業を受けた内容について、板書したノート、配布資料、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ考えてみて、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名 : PT・OT・ST のための解剖学

著者名 : 渡辺正仁 監修

出版社 : 廣川書店

書 名 : ネッター解剖学アトラス

著者名 : 相磯貞和 訳

出版社 : 南江堂

書 名 : 消して忘れない解剖学要点整理ノート

著者名 : 井上 馨・松村譲児 編集

出版社 : 羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

授業中は私的な会話は厳禁です。

■ 講義受講にあたって

色鉛筆やマーカーなど色分けできる筆記用具を毎回、持ってきて下さい。色は4色あれば十分です。

| | | | | | |
|----------|---------------|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 解剖学基礎実習 | | | | |
| 担当者 | 相原一貴・柳千磨・津村宜秀 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

上下肢の骨・関節・筋、体幹の骨・関節・筋について、骨標本や体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類：
全身骨格・軸骨格・付属骨格の分類、全身骨格の組み立て
- 第2回 上肢帯骨と体表解剖学：肩甲骨と鎖骨の理解
- 第3回 自由上肢と体表解剖学：
上腕骨・橈骨・尺骨・手指骨・手根骨の理解
- 第4回 上肢の関節と靭帯：
肩関節・腕尺関節・腕頭関節・橈尺関節・手関節・手根中手関節・中手指節関節・指節間関節の理解
- 第5回 胸郭と体表解剖学：
胸骨・肋骨と肋軟骨の理解
- 第6回 脊柱と胸郭の連結：
椎骨間の連結・椎間板・環軸関節・胸郭の連結の理解
- 第7回 下肢帯骨と骨盤：
寛骨・腸骨・坐骨・恥骨の理解
- 第8回 自由下肢骨：
大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・足の骨の理解
- 第9回 股関節と仙腸関節：
股関節・仙腸関節の構造と動きの理解
- 第10回 膝関節、脛腓関節と足関節：
膝関節・脛腓関節・足関節の構造と理解
- 第11回 脊柱と体表解剖学：
椎骨の基本、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の理解
- 第12回 頭蓋骨①： 頭蓋骨を構成する骨とその連結
- 第13回 頭蓋骨②： 眼窩・鼻腔・副鼻腔・側頭下窩・翼口蓋窩・顎関節の理解
- 第14回 総まとめ
- 第15回 実技試験

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）40%】 小テスト（40%） 実技試験（20%）

正当な理由のない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）

また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年次に学んだ運動器系の解剖学の内容が大半を占めています。実際の骨標本を使用し理解を深めるためにも、予習として運動器系の解剖学での内容を振り返り講義に臨んでください。また、毎回講義内容の定着度を測る為、次の講義の冒頭に小テストに臨んでもらいます。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：標準理学療法学・作業療法学【解剖学】

著者名：（編）野村 巖

出版社：医学書院

書名：プロメテウス解剖学アトラス【解剖学総論運動器系】

著者名：（監訳）坂井 建雄，松村 讓兒

出版社：医学書院

■ 留意事項

身体の触知等を行うため、身体を触り易い服装で臨んでください。

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

| | | | | | |
|----------|----------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 運動器系の解剖学 | | | | |
| 担当者 | 田中 稔 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解する基礎を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論：人体の大要・構成
- 第2回 骨学各論：上肢の骨
- 第3回 上肢の関節と靭帯
- 第4回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋
- 第5回 筋学各論：前腕、手の筋
- 第6回 骨学各論：下肢の骨
- 第7回 下肢の関節と靭帯
- 第8回 筋学各論：下肢帯の筋
- 第9回 筋学各論：大腿の筋
- 第10回 筋学各論：下腿、足の筋
- 第11回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
- 第12回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
- 第13回 筋学各論：頭頸部の筋
- 第14回 筋学各論：胸腹部の筋
- 第15回 筋学各論：背部の筋

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：編集：野村 巖

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学 第6版

著者名：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

全ての基礎になる学習領域である。運動学、評価学等の先の講義につながるように知識の積み重ねを意識して講義に臨むこと。

| | | | | | |
|----------|-------------|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 神経系の解剖学 | | | | |
| 担当者 | 柴田 雅朗・赤松香奈子 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ。

■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

■ 授業計画

- 第1回 髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、クモ膜下腔、各脳室、脳脊髄液、腰椎穿刺（赤松）
- 第2回 脊髄：各部の名称、前根、後根
大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質 3. ブロードマン野（赤松）
- 第3回 大脳（続き）：1. 運動野 2. 体性感覚野 3. 優位半球 4. 神経線維の種類（赤松）
- 第4回 大脳（続き）：1. 大脳基底核（機能、構造、障害） 2. 内包（構造、血管分布、脳卒中）（赤松）
- 第5回 大脳（続き）：1. 扁桃核
間脳：1. 視床 2. 視床下部（赤松）
- 第6回 中脳：1. 中脳蓋 2. 中脳被蓋 3. 大脳脚（赤松）
- 第7回 橋：1. 橋底部 2. 橋被蓋
延髄：1. オリーブ 2. 錐体交叉 3. 網様体
小脳：1. 構成[区分] 2. 皮質と髄質 3. 小脳脚（赤松）
- 第8回 末梢神経系：1. 脊髄神経とは 2. 脊髄神経前枝 3. 脊髄神経後枝（赤松）
- 第9回 末梢神経系：(脊髄神経の説明) 1. 腕神経叢の構成 2. 腕神経叢の障害 3. 自律神経系（柴田）
- 第10回 末梢神経系（続き）：1. 脳神経の総論 2. 脳神経の各論（第I～XII脳神経）（柴田）
- 第11回 下行性伝導路：1. 錐体路（皮質脊髄路、皮質核路） 2. 錐体外路 3. 反射路（柴田）
- 第12回 上行性伝導路：1. 温痛覚（外側脊髄視床路） 2. 粗大触圧覚（前脊髄視床路）
3. 精細触圧覚・意識にのぼる深部感覚（長後索路） 4. 無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・副楔状束小脳路（柴田）
- 第13回 上行性伝導路（続き）：特殊感覚の伝導路
総復習のための練習問題配布（柴田）
- 第14回 総復習1：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説（柴田）
- 第15回 総復習2：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説（柴田）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業を受けた内容について、板書したノート、配布資料、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ考えてみて、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書名：(基礎解剖学で購入済み) PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：(基礎解剖学で購入済み) ネット解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

書名：「消して忘れない解剖学要点整理ノート」

著者名：井上 馨：松村譲児

出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

授業中は私的な会話は厳禁です。

■ 講義受講にあたって

色鉛筆やマーカーなど色分けできる筆記用具を毎回、持ってきて下さい。色は4色あれば十分です。

| | | | | | |
|----------|--------------|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 内臓系の解剖学 | | | | |
| 担当者 | 赤松 香奈子・今野 雅允 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。
適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器
テスト前総復習

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺 正仁
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版

著者名：F.H.Netter

出版社：南江堂

■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと

■ 講義受講にあたって

解剖学は今後学ぶ科目の基礎科目である。ここで理解できていないとのちに学ぶ科目の理解が困難となること間違いなし。単なる暗記にとどまらず、人間全体の生活や疾病と合わせて、人体への学びを深めていけるようにする。

| | | | | | |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 生理学 I | | | | |
| 担当者 | 木村 晃大 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境 (総論)
- 第2回 筋肉 1 (筋、運動)
- 第3回 筋肉 2 (筋肉)
- 第4回 神経 1 (神経)
- 第5回 神経 2 (神経)
- 第6回 末梢神経 (神経)
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経 1 (神経、運動)
- 第9回 中枢神経 2 (神経)
- 第10回 中枢神経 3 (感覚)
- 第11回 中枢神経 4 (感覚)
- 第12回 中枢神経 5 (言語)
- 第13回 代謝 1 (栄養・代謝)
- 第14回 代謝 2 (体温調節)
- 第15回 前期総括

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 復習プリントの提出 10% 各講義後の小テスト 10% 本試験前のプレテスト 10%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

| | | | | | |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 生理学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 木村 晃大 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 血液1 (血液)
- 第2回 血液2 (免疫)
- 第3回 循環器1 (循環)
- 第4回 循環器2 (循環)
- 第5回 呼吸器1 (呼吸)
- 第6回 呼吸器2 (呼吸)
- 第7回 腎臓1 (排尿)
- 第8回 腎臓2 (排尿・呼吸 (酸・塩基平衡))
- 第9回 消化器1 (消化・吸収)
- 第10回 消化器2 (咀嚼・嚥下・排便)
- 第11回 内分泌1
- 第12回 内分泌2
- 第13回 内分泌3 (内分泌・生殖)
- 第14回 性と生殖 (生殖)
- 第15回 後期総括

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 復習プリントの提出 10% 各講義後の小テスト 10% 本試験前のプレテスト 10%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

| | | | | | |
|----------|-----------------|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 生理学Ⅲ | | | | |
| 担当者 | 田坂厚志・牧之瀬一博・相原一貴 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

本科目では1年次科目である「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容を基盤として、リハビリテーションを実践する際に必要となる知識を重点的に学習し、理解を深めます。

■ 到達目標

1. 身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について理解する。
2. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について理解する。
3. 感覚の生理学的働きや、身体運動との関係について理解する。
4. 身体運動と呼吸・循環・代謝機能の働きについて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 中枢神経1 牧之瀬一博
- 第2回 中枢神経2 牧之瀬一博
- 第3回 中枢神経3 牧之瀬一博
- 第4回 筋肉と末梢神経1 牧之瀬一博
- 第5回 筋肉と末梢神経2 牧之瀬一博
- 第6回 末梢神経（脳神経と自律神経） 牧之瀬一博
- 第7回 感覚器と感覚 相原一貴
- 第8回 腎臓 相原一貴
- 第9回 循環器1 田坂厚志
- 第10回 循環器2 田坂厚志
- 第11回 循環器3 田坂厚志
- 第12回 呼吸器1 田坂厚志
- 第13回 呼吸器2 田坂厚志
- 第14回 代謝 田坂厚志
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

(田 坂)【科目試験(筆記試験) 30%】小テスト及び提出課題10%

(牧之瀬)【科目試験(筆記試験) 30%】小テスト及び提出課題10%

(相 原)【科目試験(筆記試験) 20%】

正当な理由の無い欠席(-4点)、遅刻(-2点)は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習すること。

小テストに向けた学修や提出課題に真摯に取り組むこと。

■ 教科書

書名: 標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学(第4)

著者名: 岡田 隆夫・長岡 正範

出版社: 医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

欠席した場合には必ず担当教員を訪ね、講義資料を受け取ること。

■ 講義受講にあたって

2年次後期から学ぶ評価学や治療学を理解するための基礎となる生理学を本講義でしっかりと学修する。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 生理学Ⅳ | | | | |
| 担当者 | 伊禮まり子 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

身体運動において、生体内の各種機構がどのように働いているかを講義する。

■ 到達目標

運動生理学の基礎的な知識および考え方を身につけ、運動時の生体内の変化、およびトレーニング効果について説明できることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 運動と筋骨格系 (1)
- 第3回 運動と筋骨格系 (2)
- 第4回 運動と神経系 (1)
- 第5回 運動と神経系 (2)
- 第6回 運動と神経系 (3)
- 第7回 運動と呼吸 (1)
- 第8回 運動と呼吸 (2)
- 第9回 運動と循環 (1)
- 第10回 運動と循環 (2)
- 第11回 運動と代謝
- 第12回 運動と栄養
- 第13回 運動学習とトレーニング
- 第14回 運動と発育・発達・加齢
- 第15回 総括

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）90%】、小テスト10%に授業態度を併せて評価する。
 欠席・遅刻・早退は減点の対象とする（欠席：-4点、遅刻・早退：-2点）。
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間のみでは理解は深まりません。授業後には講義内容をまとめる、小テストの復習をする等、自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書名：運動生理学20講 第2版

著者名：勝田 茂

出版社：朝倉書店

書名：リハビリテーション運動生理学

著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）

出版社：メジカルビュー社

書名：運動生理学の基礎と発展

著者名：春日規克・竹倉宏明

出版社：フリースペース

書名：改訂 身体活動と体力トレーニング

著者名：藤原勝夫・外山寛

出版社：日本出版サービス

書名：身体機能の調節性

著者名：池上晴夫

出版社：朝倉書店

書名：姿勢制御の神経生理機構

著者名：藤原勝夫

出版社：杏林書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、運動生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の生理学や、2年次の生理学実習とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。

| | | | | | |
|----------|------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 生理学実習 | | | | |
| 担当者 | 木村 晃大 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。木村 晃大 (実務経験者)

■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 講義・機器取扱い実施確認1
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認3
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認4
- 第6回 実習1
- 第7回 実習2
- 第8回 実習3
- 第9回 実習4
- 第10回 実習5
- 第11回 解説(講義)
- 第12回 解説(講義)

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)50%】実習レポート(50%)

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決する事が出来る様になる事”を一つの目標にしています。

また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

同学年、前年度の物を問わず、レポートのコピーはカンニングと同様の行為であり、一切認められません。発覚した場合には厳罰をもって対応します。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

書名：標準生理学(第7版)

著者名：小澤 滸司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

出席や実習中の態度も成績評価に含みます。レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭にして、真剣に取り組むこと。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 運動学総論 | | | | |
| 担当者 | 境 隆弘 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 2 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。

■ 到達目標

運動学用語を理解し、使用できるようになる。

運動力学を理解する。

上肢の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス
講義の進め方、評定方法の他、理学療法士にとっての運動学の重要性を学ぶ
- 第2回 運動学（Kinesiology）総説
解剖学・生理学ならびに運動療法学との関連、Kinematics と Kinetics について学ぶ
- 第3回 身体運動①基本
運動学を学ぶにあたって必要な身体における運動面と軸について学ぶ
- 第4回 身体運動②名称
運動学を学ぶにあたって必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
- 第5回 身体運動③演習
①②で学んだ身体運動について、演習を行い理解を深める
- 第6回 運動を構成する要素と器官①
ヒトの運動を生む器官のうち、骨と関節について学ぶ
- 第7回 運動を構成する要素と器官②
ヒトの運動を生む器官のうち、筋について学ぶ
- 第8回 運動を構成する要素と器官③
①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める
- 第9回 力学の基礎①
運動学を学ぶにあたって必要なニュートン力学について学ぶ
- 第10回 力学の基礎②
運動学を学ぶにあたって必要な身体とてこについて学ぶ
- 第11回 力学の基礎③
運動学を学ぶにあたって必要なモーメント（トルク）について学ぶ
- 第12回 力学の基礎④
運動学を学ぶにあたって必要な生体における力とモーメントについて学ぶ
- 第13回 構えと姿勢①
ヒトの運動にかかわる構えと姿勢の名称について学ぶ

- 第14回 構えと姿勢②
①で学んだ構えと姿勢について、演習を行い理解を深める
- 第15回 上肢の関節運動学①
肩甲帯に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第16回 上肢の関節運動学演習①
肩甲帯の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第17回 上肢の関節運動学②
肩関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第18回 上肢の関節運動学演習②
肩関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第19回 上肢の関節運動学③
肘関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第20回 上肢の関節運動学演習③
肘関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第21回 上肢の関節運動学④
前腕に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第22回 上肢の関節運動学演習④
前腕の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第23回 上肢の関節運動学⑤
手関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第24回 上肢の関節運動学演習⑤
手関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第25回 上肢の関節運動学⑥
手指に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第26回 上肢の関節運動学演習⑥
手指の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第27回 実技試験
学んだ関節運動学について実技試験を実施する
- 第28回 実技試験のフィードバック
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括①
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う
- 第30回 総括②
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】

小テスト・実技テスト20%（学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点）
講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。
毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてもらうこと。
例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてもらう。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書名：身体運動学 関節の制御と筋機能

著者名：市橋則明

出版社：メジカルビュー

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

理学療法の基礎学問として重要な科目であり、2年生に進んで、運動学各論、運動学実習、臨床運動学と引き続き勉強なのでしっかり学んでほしい。

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 運動学各論 | | | | |
| 担当者 | 境 隆弘 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

下肢、体幹・頭頸部の機能解剖に立脚した運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学的分析と筋出力、運動学習について学ぶ。

■ 到達目標

下肢、体幹・頭頸部の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。
姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学を理解し、観察や分析が出来るようになる。

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス
講義の進め方、評定の他、前期に学んだ運動学総論、後期に学ぶ運動学実習との関連性を学ぶ
- 第2回 下肢の関節運動学①
股関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第3回 下肢の関節運動学演習①
股関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第4回 下肢の関節運動学②
膝関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第5回 下肢の関節運動学演習②
膝関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第6回 下肢の関節運動学③
足関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第7回 下肢の関節運動学演習③
足関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第8回 体幹の関節運動学
体幹に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第9回 体幹の関節運動学演習
体幹の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第10回 頭頸部・顔面の関節運動学
頭頸部・顔面に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第11回 頭頸部・顔面の関節運動学演習
頭頸部・顔面の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第12回 四肢と脊柱の運動連鎖
開放性運動連鎖（OKC）と閉鎖性運動連鎖（CKC）について学ぶ
- 第13回 四肢と脊柱の運動連鎖演習
OKCとCKCに関する演習を行い、理解を深める
- 第14回 筋トルク
様々な収縮形態により発揮される筋トルクについて学ぶ

- 第15回 筋トルク演習
実際に筋トルクを計測し、理解を深める
- 第16回 姿勢制御の神経機構
ヒトの姿勢反応について学ぶ
- 第17回 姿勢制御の神経機構演習
ヒトの姿勢反応について、演習を行い理解を深める
- 第18回 運動戦略
ヒトの運動戦略(ストラテジー)について学ぶ
- 第19回 運動戦略演習
ヒトの運動戦略(ストラテジー)について、演習を行い理解を深める
- 第20回 歩行の運動学①
歩行の運動学について、概論を学ぶ
- 第21回 歩行の運動学②
歩行の運動学的分析について学ぶ
- 第22回 歩行の運動学③
歩行の運動力学的分析について学ぶ
- 第23回 運動学習
ヒトの運動学習機能について学ぶ
- 第24回 運動学習演習
ヒトの運動学習について、演習を行い理解を深める
- 第25回 実技試験(口頭試験含む)①
学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
- 第26回 実技試験(口頭試験含む)②
学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
- 第27回 実技試験(口頭試験含む)のフィードバック①
実技試験の解説、講評を行う
- 第28回 実技試験(口頭試験含む)のフィードバック②
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括① 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う
- 第30回 総括② 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)80%】

小テスト・実技テスト20%(学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点)
講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

(予習)

運動学は、解剖学、生理学、物理学(力学)の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学(力学)の復習をしていくこと。

例：股関節の授業の前は、股関節の解剖の復習をしていく。

(復習)

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書名：身体運動学 関節の制御と筋機能

著者名：市橋則明

出版社：メジカルビュー

■ 留意事項

初講時に説明する、受講時の服装や必要品を忘れないようにすること

■ 講義受講にあたって

理学療法の基礎学問として運動学総論から続く重要な科目であり、更に運動学実習、臨床運動学と引き続き勉強なのでしっかり学んでほしい。

| | | | | | |
|----------|-----------|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 運動学実習 | | | | |
| 担当者 | 島 雅人・津村宜秀 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察し分析するといった実習を行うことで、理学療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作・歩行を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定方法、その他
 基礎実習① 姿勢の観察とランドマークの触知
 島
- 第2回 基礎実習② 姿勢の観察とランドマークの触知
 島
- 第3回 基礎実習③ 筋力・筋持久力の測定と結果の解釈（徒手筋力計、等速度運動測定器などを用いて）
 島
- 第4回 基礎実習④ 重心の求め方 重心の移動と姿勢制御（重心動揺の計測と結果の解釈）
 島
- 第5回 動作観察と分析① スクワット動作の分析（関節運動、筋活動、条件による違い） 島
- 第6回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村
- 第7回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村
- 第8回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村・島
- 第9回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析：津村
- 第10回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析：津村
- 第11回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析：津村・島
- 第12回 動作観察と分析④ 寝返り、起き上がりの観察と分析、総まとめ : 島・津村

■ 評価方法

【筆記試験70%、発表・提出課題30%】 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で実施する内容に必要なと思われる運動学の知識をしっかりと確認、補充し授業に臨んでください。
 各回に該当する内容について、授業前に教科書で確認し授業に臨んでください。
 実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。
 課題レポートは提出期限に間に合うよう、計画的にすすめてください。
 観察・分析内容を相手へ伝える機会を設定します。指定された時間内に、分析した内容を伝えられるよう、事前練習を行ってください。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習
著者名：石川 朗、種村留美、小島 悟、小林麻衣
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床
著者名：小柳 磨毅 ほか
出版社：金原出版

書名：基礎運動学
著者名：中村隆一、斎藤宏
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

各課題に対しては、各自がしっかりと理解し、説明できるように取り組んでください。

提出物は、提出期限を必ず守ること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む為、指定された日は学校指定のジャージを着用すること。
PCでプレゼンテーション資料を作成するため、各自PCを用意しておくこと。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 運動学実習 | | | | |
| 担当者 | 島 雅人 (実務経験者)・津村宜秀 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 島雅人：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 津村宜秀：理学療法士として、病院等にて実務経験あり。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察し分析するといった実習を行うことで、理学療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。島 (実務経験者)、津村 (実務経験者)

■ 到達目標

基本動作・歩行を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定方法、その他
 基礎実習① 姿勢の観察とランドマークの触知
 島 (実務経験者)
- 第2回 基礎実習② 姿勢の観察とランドマークの触知
 島 (実務経験者)
- 第3回 基礎実習③ 筋力・筋持久力の測定と結果の解釈 (徒手筋力計、等速度運動測定器などを用いて)
 島 (実務経験者)
- 第4回 基礎実習④ 重心の求め方 重心の移動と姿勢制御 (重心動揺の計測と結果の解釈)
 島 (実務経験者)
- 第5回 動作観察と分析① スクワット動作の分析 (関節運動、筋活動、条件による違い) 島 (実務経験者)
- 第6回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村 (実務経験者)
- 第7回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村 (実務経験者)
- 第8回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 : 津村・島 (実務経験者)
- 第9回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析: 津村 (実務経験者)
- 第10回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析: 津村 (実務経験者)
- 第11回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析: 津村 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第12回 動作観察と分析④ 寝返り、起き上がりの観察と分析、総まとめ : 島 (実務経験者)・津村 (実務経験者)

■ 評価方法

【筆記試験70%、発表・提出課題30%】 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各回で実施する内容に必要なと思われる運動学の知識をしっかりと確認、補充し授業に臨んでください。
 各回に該当する内容について、授業前に教科書で確認し授業に臨んでください。
 実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。
 課題レポートは提出期限に間に合うよう、計画的にすすめてください。
 観察・分析内容を相手へ伝える機会を設定します。指定された時間内に、分析した内容を伝えられるよう、事前練習を行ってください。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習
著者名：石川 朗、種村留美、小島 悟、小林麻衣
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床
著者名：小柳 磨毅 ほか
出版社：金原出版

書名：基礎運動学
著者名：中村隆一、斎藤宏
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

各課題に対しては、各自がしっかりと理解し、説明できるように取り組んでください。

提出物は、提出期限を必ず守ること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む為、指定された日は学校指定のジャージを着用すること。
PCでプレゼンテーション資料を作成するため、各自PCを用意しておくこと。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 生涯人間発達学 | | | | |
| 担当者 | 藪中良彦（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで5年の実務経験） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法士として必要な子どもの発達の知識を、運動発達を中心に学習する。

■ 到達目標

子どもの機能獲得の仕組みを知ること、子どもの治療だけでなく、成人の治療にも発達の知識を利用できるようにすることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 発達概念
- 第2回 II. 発達理論
- 第3回 III. 発達検査
- 第4回 IV. 姿勢反射 / 反応
- 第5回 IV. 姿勢反射 / 反応
- 第6回 V. 運動発達（0～3ヶ月）、VI. 運動発達（4～6ヶ月）
- 第7回 VII. 運動発達（7～9ヶ月）、VIII. 運動発達（10～12ヶ月）
- 第8回 IX. 運動発達（13～18ヶ月）、
- 第9回 X. 姿勢反射 / 反応と6歳までの発達
- 第10回 目と手の協調、上肢機能の発達
- 第11回 食事の発達
- 第12回 排泄の発達
- 第13回 更衣の発達
- 第14回 遊びの発達
- 第15回 高齢期

■ 評価方法

出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）

【科目試験（筆記試験）50％】小テスト・予習課題 50％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出する。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト（20問程度の穴埋め問題）を行い、授業の復習を促す。

予習質問課題と小テストを合わせて、50点の配点とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 教科書

書 名：イラストでわかる人間発達学

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学

著者名：福田恵美子

出版社：中外医学社

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学

著者名：岩崎清隆, 花熊暁, 吉松靖文

出版社：医学書院

書名：乳児の発達 写真でみる0歳児

著者名：高橋孝文

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：機能的姿勢 - 運動スキルの発達

著者名：高橋智宏

出版社：協同医書出版社

書名：写真でみる乳児の運動発達

著者名：木本孝子、中村勇

出版社：協同医書出版社

書名：乳幼児の運動発達検査 AIMS アルバータ乳幼児運動発達検査法

著者名：上杉雅之、嶋田智明、武政誠一

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法

著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：赤ちゃんの運動発達 絵でみる治療アプローチ

著者名：芝田利生、櫻庭修

出版社：協同医書出版社

書名：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法—九州大学小児科改訂新装版

著者名：遠城寺宗徳

出版社：慶應義塾大学出版会

書名：新版 K 式発達検査法2001年版—標準化資料と実施法

著者名：新版 K 式発達検査研究会

出版社：ナカニシヤ出版

書名：KIDS 乳幼児発達スケール

著者名：三宅和夫

出版社：発達科学研究教育センター

書名：1987年全訂版田中ビネー知能検査法

著者名：田中教育研究所

出版社：田研出版

書名：WISC-IV の臨床的利用と解釈

著者名：上野 一彦

出版社：日本文化科学社

書名：日本版デンバー式発達スクリーニング検査—JDDST と JPDQ

著者名：上田 礼子

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：DENVER II - デンバー発達判定法

著者名：Frankenburg WK 著, 日本小児保健協会編

出版社：日本小児医事出版社

書名：・ABC アセスメントと指導—解釈の進め方と指導の実際

著者名：前川 久男

出版社：丸善メイツ

書名：グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック

著者名：小林重雄

出版社：三京房

書名：日本版フロスティック視知覚発達検査

著者名：飯鉢和子、鈴木陽子、茂木茂八

出版社：日本文化科学社

書名：日本版ミラー乳児発達スクリーニング検査と JMAP 簡易版

著者名：土田玲子、岩永竜一郎

出版社：パシフィックサプライ株式会社

書名：乳幼児精神発達診断法—0才～3才まで

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書名：乳幼児精神発達質問紙 (1～3才まで)

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書名：乳幼児精神発達診断法—3才～7才まで

著者名：津守 真、磯部景子

出版社：大日本図書

書名：乳幼児精神発達質問紙 (3～7才まで)

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書名：視覚機能の発達障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：手の発達機能障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ 講義受講にあたって

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」で学ぶ身体障害のある子どもたちへの理学療法治療を理解するための基礎となる小児期の正常発達を、「生涯人間発達学」でしっかりと学習する。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 臨床心理学 | | | | |
| 担当者 | 非常勤講師 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 「医療および福祉・教育現場で勤務し、心理的課題のあるクライアントやその関係者を対象とした臨床心理学的支援を行なっている」 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理査定 (1)：意義と方法 (観察、面接、検査)
- 第3回 臨床心理査定 (2)：発達検査・知能検査
- 第4回 臨床心理査定 (3)：人格検査 (概要)
- 第5回 臨床心理査定 (4)：人格検査
- 第6回 こころの構造 (1)：人格構造論の観点から
- 第7回 こころの構造 (2)：発達論的観点から
- 第8回 精神病理 (1)：統合失調症、気分障害
- 第9回 精神病理 (2)：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第10回 患者・障害者の心理
- 第11回 臨床心理面接 (1)：目的、基本的技法
- 第12回 臨床心理面接 (2)：来談者中心療法
- 第13回 臨床心理面接 (3)：精神分析
- 第14回 臨床心理面接 (4)：学習理論と行動療法
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 講義への参加・貢献 (レスポンスシート等) 30%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

特になし

■ 参考図書

適宜紹介します

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 病理学概論 | | | | |
| 担当者 | 野土 希実 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医師として総合病院病理診断科に勤務し病理組織診断を行っている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを学ぶ。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。病気に関わる専門用語の定義が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 病理学の目的と概要、病因論：内因、外因の概念、疾病の分類
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変及び進行性病変、再生と創傷の治癒
- 第3回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、主に炎症の経時的変化について
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、主に免疫応答の仕組みについて
- 第5回 炎症・感染症：感染による疾患、主に感染経路と病態、病原微生物の種類について
- 第6回 国試対策を含めた試験演習①
- 第7回 毒性病理入門
- 第8回 循環障害：循環系の構造と機能、主に局所循環障害について
- 第9回 老化：老化と寿命、主に老化に伴って増加する疾患について
- 第10回 代謝異常：代謝障害による疾患、主に脂質代謝異常症、糖質代謝異常、ビリルビン代謝について
- 第11回 放射線障害：放射線の副作用のため出現する病変
- 第12回 先天異常・奇形： 先天異常の概念と分類や代表的な先天異常、特に染色体異常について
- 第13回 腫瘍①：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第14回 腫瘍②：腫瘍発生の原因、国試対策のための臓器別の腫瘍
- 第15回 国試対策を含めた試験演習②

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは講義中でも遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 一般臨床医学 | | | | |
| 担当者 | 藤岡重和（実務経験者） 岡本文雄（実務経験者） 福山智子（実務経験者） 福原雅之（実務経験者） 竹原友貴（実務経験者） 神納光一郎（実務経験者） 福矢吹裕栄 | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である 岡本、竹原、福原、藤岡は、医療機関において医師として診療業務に、福山は看護師として従事した経験がある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。
3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

| | | |
|------|--------------------------|--------------|
| 第1回 | 救急医学総論 (1) | 岡本文雄（実務経験者） |
| 第2回 | 救急医学総論 (2) | 岡本文雄（実務経験者） |
| 第3回 | 救急医学各論 (1) ショック、心肺停止 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第4回 | 救急医学各論 (2) 意識障害、吐血、下血と腹痛 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第5回 | 救急医学各論 (3) 外傷、環境障害 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第6回 | 産科学 | 福山智子（実務経験者） |
| 第7回 | 婦人科学 | 福山智子（実務経験者） |
| 第8回 | 皮膚科学 | 竹原友貴（実務経験者） |
| 第9回 | 皮膚科学 | 竹原友貴（実務経験者） |
| 第10回 | 皮膚科学 | 竹原友貴（実務経験者） |
| 第11回 | 眼科学 | 福原雅之（実務経験者） |
| 第12回 | 眼科学 | 福原雅之（実務経験者） |
| 第13回 | 耳鼻咽喉科学 | 矢吹裕栄 |
| 第14回 | 耳鼻咽喉科学 | 矢吹裕栄 |
| 第15回 | 総復習（国家試験対策） | 藤岡重和（実務経験者） |

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための一般臨床医学

著者名：明石 謙

出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：救急診療指針 改訂第4版

著者名：日本救急医学会監修

出版社：へるす出版

■ 留意事項

試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|------------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 内科学 I | | | | |
| 担当者 | 藤岡 重和 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査 (画像、生理機能検査、血液検査を含む)、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 内科学総論
 第2回 循環器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
 第3回 循環器疾患 (1) 高血圧、虚血性心疾患
 第4回 循環器疾患 (2) 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
 第5回 循環器疾患 (3) 心不全、不整脈、その他
 第6回 循環器疾患 (4) 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
 第7回 呼吸器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
 第8回 呼吸器疾患 (1) 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
 第9回 呼吸器疾患 (2) 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
 第10回 呼吸器疾患 (3) 肺腫瘍、肺循環障害
 第11回 呼吸器疾患 (4) 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
 第12回 腎、泌尿器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
 第13回 腎、泌尿器疾患 (1) 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
 第14回 腎、泌尿器疾患 (2) 腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
 第15回 総復習 (国家試験対策)

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 80%】 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：大成浄志
出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します

| | | | | | |
|----------|------------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 内科学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 藤岡 重和 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患の代表的内科疾患について、病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】小テスト 20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書名：ナースの内科学 第10版

著者名：奈良信雄

出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します

| | | | | | |
|----------|--|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 整形外科学 I | | | | |
| 担当者 | 田中稔・山本展生 (実務経験者)・境 隆弘・佐藤睦美・中村憲正 (実務経験者) | | | (オムニバス) | |
| 実務経験者の概要 | 山本 展生, 中村 憲正 (医師として, 臨床現場において整形外科疾患の患者に対して, 診察・治療に従事している.) | | | | |
| 学 科 名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動機能障害から日常生活動作を障害する原因となる, 整形外科疾患について病因, 病態生理, 診断, 治療法, 予後について学習する.

■ 到達目標

まず, 運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で, 各分野ごと, それぞれの疾患について, 病因, 病態生理, 治療法を理解する.

さらに, その知識を理学療法士としてどのように臨床につなげていくか理解する.

■ 授業計画

- 第1回 炎症性関節疾患 (関節リウマチとその類縁疾患・慢性関節疾患等) 田中 稔
- 第2回 骨端症・骨壊死・骨・軟部腫瘍 田中 稔
- 第3回 先天性疾患・骨系統疾患 田中 稔
- 第4回 神経・筋疾患, 代謝性疾患 田中 稔
- 第5回 肩・肘・手関節と手 田中 稔
- 第6回 頸・胸・腰椎 田中 稔
- 第7回 股・膝・足関節と足 田中 稔
- 第8回 外傷 (骨折) 佐藤 睦美
- 第9回 整形外科とは 山本 展生 (実務経験者)
- 第10回 整形外科診断総論 山本 展生 (実務経験者)
- 第11回 外傷 (捻挫, 脱臼) 佐藤 睦美
- 第12回 整形外科治療総論 山本 展生 (実務経験者)
- 第13回 整形外科疾患総論 山本 展生 (実務経験者)
- 第14回 外傷 (脊椎・脊髄損傷, 末梢神経損傷) 境 隆弘
- 第15回 整形外科領域における再生医療について 中村 憲正 (実務経験者)

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 80%】 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業開始時に知識の確認テストを実施する. そのため, 事前に前回授業の復習をしておくこと.

■ 教 科 書

書 名: 標準整形外科学

著者名: 監修: 内田淳正, 編集: 中村利孝ら

出版社: 医学書院

書 名: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学

著者名: 立野勝彦

出版社: 医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

本講義は1年次の運動器系の解剖学および生理学の知識を踏まえた講義内容となっている。また、本講義内容は運動器障害に関する評価学や治療学を理解するうえで必要となる。

| | | | | | |
|----------|------------|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 整形外科学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 佐藤 睦美・境 隆弘 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

整形外科学Ⅰで学んだ内容をもとに、治療場面でよく扱う疾患を中心に理解を深める

■ 到達目標

疾患についての基礎的知識を確実にする

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス : 佐藤 睦美
- 第2回 骨折総論: 佐藤 睦美
- 第3回 肩関節の疾患①: 境 隆弘
- 第4回 肩関節の疾患②, 末梢神経障害: 境 隆弘
- 第5回 肘関節・前腕・手関節の疾患①: 佐藤 睦美
- 第6回 肘関節・前腕・手関節の疾患②, 関節リウマチ: 佐藤 睦美
- 第7回 脊椎の疾患①: 佐藤 睦美
- 第8回 脊椎の疾患②: 佐藤 睦美
- 第9回 中間まとめ: 佐藤 睦美
- 第10回 股関節の疾患①: 佐藤 睦美
- 第11回 股関節の疾患②: 変形性関節症: 佐藤 睦美
- 第12回 膝関節の疾患①: 佐藤 睦美
- 第13回 膝関節の疾患②: 佐藤 睦美
- 第14回 下腿・足関節・足部の疾患①: 佐藤 睦美
- 第15回 下腿・足関節・足部の疾患②: 佐藤 睦美

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験) 80%】 課題 20%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各講義で扱う疾患について、整形外科学Ⅰの講義資料および教科書(標準整形外科学)を確認しておくこと。

■ 教科書

書 名: 標準整形外科学 第13版

著者名: 中村利孝・松野丈夫(監修)

出版社: 医学書院

書 名: 病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科

著者名: 医療情報科学研究所(編)

出版社: メディックメディア

書 名: PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名: 百島祐貴(著)

出版社: 医学教育出版社

■ 参考図書

書名：リハで読むべき運動器画像

著者名：塩野寛大(監), 瀧田勇二(著)

出版社：メジカルビュー社

書名：Visual NAVI 整形外科学

著者名：岡田恭司(著)

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

Moodle の科目ページを適宜確認すること。

■ 講義受講にあたって

本講義の内容は、3年生の運動器障害理学療法治療学に繋がっていきます。

各疾患の概要と整形外科的治療を理解して下さい。

| | | | | | |
|----------|---------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 臨床神経学 I | | | | |
| 担当者 | 岩田 篤 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違って脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムについて解説します。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学の基礎
- 第2回 神経機能解剖1：大脳皮質の機能局在
- 第3回 神経機能解剖2：皮質脊髓路
- 第4回 神経機能解剖3：皮質基底核ループ
- 第5回 神経機能解剖4：小脳回路網
- 第6回 神経機能解剖5：感覚路系
- 第7回 神経機能解剖6：視床
- 第8回 神経機能解剖7：末梢神経系
- 第9回 神経機能解剖8：脳神経
- 第10回 運動麻痺のメカニズムと臨床症状（筋紡錘の役割および腱反射のメカニズム）
- 第11回 錐体外路徴候のメカニズムと臨床症状
- 第12回 運動失調のメカニズムと臨床症状
- 第13回 意識障害／認知機能障害のメカニズムと臨床症状
- 第14回 自律神経障害／嚥下障害のメカニズムと臨床症状
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

【定期試験（筆記試験）80％】小テスト20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回の講義内容がどの程度理解できているか、次の講義の開始時に小テストを行いますので、前回の講義内容の復習を必ず行っておいてください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経
 著者名：医療情報科学研究所 / 編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：神経解剖学講義ノート

著者名：寺島俊雄

出版社：金芳堂

書名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭 / 訳

出版社：医学書院

書名：脳卒中ビジュアルテキスト

著者名：高木康行・他

出版社：医学書院

書名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書名：神経内科学テキスト

著者名：江藤文夫・他 / 編

出版社：南江堂

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。

また、「臨床神経学Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

| | | | | | |
|----------|-----------|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 臨床神経学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 岩田 篤・津村宜秀 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では、臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について解説します。

■ 到達目標

神経内科疾患の概要を理解し、特徴的な臨床症状がなぜ生じるのかを、神経機能解剖学的に説明できる。さらに、理学療法と関連し、どのようなメカニズムで障害が改善するのかも考察できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学の基礎
岩田 篤
- 第2回 脳梗塞の病理
岩田 篤
- 第3回 脳梗塞の神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第4回 脳内出血の病理
岩田 篤
- 第5回 脳内出血の神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第6回 くも膜下出血の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第7回 頭部外傷／てんかん／脳腫瘍の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第8回 多発性硬化症の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第9回 筋萎縮性側索硬化症の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第10回 パーキンソン病およびその他の錐体外路疾患の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第11回 脊髄小脳変性症の病理と神経症候のとりえ方
岩田 篤
- 第12回 末梢神経障害の検査法
津村 宜秀
- 第13回 ギランバレー症候群の病理と神経症候のとりえ方
津村 宜秀
- 第14回 重症筋無力症の病理と神経症候のとりえ方
津村 宜秀

第15回 筋疾患およびその他ニューロパチーの病理と神経症候のとりえ方
津村 宜秀

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回の講義内容がどの程度理解できているか、次の講義の開始時に小テストを行いますので、前回の講義内容の復習を必ず行っておいてください。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経
著者名：医療情報科学研究所 / 編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：神経解剖学講義ノート
著者名：寺島俊雄
出版社：金芳堂

書名：脳の機能解剖と画像診断
著者名：真柳佳昭 / 訳
出版社：医学書院

書名：脳卒中ビジュアルテキスト
著者名：高木康行・他
出版社：医学書院

書名：メディカルスタッフのための神経内科学
著者名：河村満 / 編著
出版社：医歯薬出版

書名：神経内科学テキスト
著者名：江藤文夫・他 / 編
出版社：南江堂

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

DPとCPの関係は、ポリシーを参照してください。

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ」の科目の理解が重要である。

また、「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

| | | | | | |
|----------|------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 精神医学 | | | | |
| 担当者 | 高橋 清武 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 現在、精神病院で勤務し、精神障害者の治療の経験を有する者 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

主な精神疾患の症状・診断・治療について学習し、国家試験に対応でき、臨床に役立つ知識を習得する。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に活かせるよう習得することを目指します。臨床の現場で精神症状を呈する患者を担当しても落ち着いて対応できる知識の習得を目指します。

■ 授業計画

- 第1回 精神医学総論 精神医学とは 精神疾患の分類
- 第2回 精神医学総論 診断・検査
- 第3回 精神医学総論
- 第4回 統合失調症
- 第5回 気分障害
- 第6回 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害
- 第7回 パーソナリティ障害
- 第8回 アルコール、薬物関連障害
- 第9回 器質性精神障害
- 第10回 児童青年期精神障害：精神遅滞、発達障害
- 第11回 摂食障害
- 第12回 てんかん
- 第13回 睡眠障害
- 第14回 治療
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】（ただし無断欠席や遅刻はマイナス評価）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当日受講した該当項目については、テキストを読んだり配布資料を見直すなどして、より理解を深めておくこと
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください
 授業の前日までに、教科書の講義予定該当ページを読んでおくこと

■ 教科書

書 名：精神医学マイテキスト
 著者名：西川隆・中尾和久・三上章良
 出版社：金芳堂

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。授業中の私語は、まじめに講義を受けようとする生徒の邪魔になるため厳禁です。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 臨床運動学 | | | | |
| 担当者 | 島 雅人 | | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。

■ 到達目標

1. 疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
2. 障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
3. 機能障害と能力障害の関連を理解できる

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定の他、これまでに学んだ基礎運動学との関連性を学ぶ
関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第6回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第7回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第8回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第9回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第10回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第11回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第12回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第13回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第14回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】 小テスト20%

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2回～第5回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。

第6回～11回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。

第12回～14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。

小テストを実施し、定期的に理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。

実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床

著者名：小柳 磨毅 ほか

出版社：金原出版

■ 参考図書

書名：臨床運動学

著者名：小林麻衣、小島悟

出版社：中山書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

既に学習した運動学の知識を用いる為、運動学の知識が十分でない場合は自ら補うこと。

分からないことがあれば質問して解決すること。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 臨床薬理学 | | | | |
| 担当者 | 名徳 倫明 (実務経験者)・中嶋秀人 (実務経験者)・池田宗一郎 (実務経験者)・ 下村裕章 (実務経験者)・藤岡重和 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である中嶋、池田、下村、藤岡は、医療機関において内科医師として診療業務に従事している。名徳は医療機関において薬剤師として業務に従事していた。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

リハビリテーション医療は、医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療であり、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識が必要とされる。本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。特に、理学療法士、作業療法士の実地臨床上、重要である神経、筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬等については、症例提示により実践的知識の修得を目指す。東洋医学の基礎、漢方薬についても学習する。

■ 到達目標

1. 薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。
2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。

■ 授業計画

| | | | |
|-----|-------------|---|---------------|
| 第1回 | 臨床薬理学総論 (1) | 薬剤の体内動態 | 名徳倫明 (実務経験者) |
| 第2回 | 臨床薬理学総論 (2) | 頻用薬剤の薬理作用、副作用 | 名徳倫明 (実務経験者) |
| 第3回 | 臨床薬理学各論 (1) | 脳卒中と治療薬 | 中嶋秀人 (実務経験者) |
| 第4回 | 臨床薬理学各論 (2) | 神経疾患と治療薬 | 中嶋秀人 (実務経験者) |
| 第5回 | 臨床薬理学各論 (3) | 呼吸器疾患と治療薬 | 池田宗一郎 (実務経験者) |
| 第6回 | 臨床薬理学各論 (4) | 各種感染症と治療薬 | 池田宗一郎 (実務経験者) |
| 第7回 | 臨床薬理学各論 (5) | 循環器疾患、生活習慣病の治療薬 下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者) | |
| 第8回 | 臨床薬理学各論 (6) | 東洋医学の基礎、漢方薬、国試対策 下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者) | |

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 100%】

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：臨床薬理学 (NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 2)
著者名：古川裕之
出版社：MC メデイカ出版

■ 留意事項

試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-------------|
| 授業科目 | 臨床検査医学 | | | | |
| 担当者 | 藤岡重和（実務経験者） 津田泰宏（実務経験者） 和田晋一（実務経験者） 石倉隆（実務経験者） 久田洋一（実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である藤岡，津田・久田は、医療機関において医師として診療業務に従事している。和田は臨床検査技師として、石倉はPTとして病院勤務をしている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | PT 必修 OT 選択 |

■ 内 容

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRIの検査方法と画像診断を学習する。生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

■ 到達目標

1. X線、CT、MRIの検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

■ 授業計画

| | | |
|-----|--------------------------------------|-------------|
| 第1回 | 生理機能検査学総論、生理機能検査学各論（1）心電図、運動負荷検査 | 藤岡重和（実務経験者） |
| 第2回 | 生理機能検査学各論（2）心電図、運動負荷心電図演習（不整脈、心筋虚血等） | 藤岡重和（実務経験者） |
| 第3回 | 生理機能検査学各論（3）呼吸機能検査、血液ガス検査 | 和田晋一（実務経験者） |
| 第4回 | 生理機能検査学各論（4）脳波検査、筋電図検査 | 和田晋一（実務経験者） |
| 第5回 | 放射線医学総論、画像診断各論（1）胸部X線、CT検査 | |
| 第6回 | 画像診断各論（2）頭部X線、CT、MRI検査、脳血管造影検査 | 石倉隆（実務経験者） |
| 第7回 | 画像診断各論（3）頭部CT、MRI読影演習 | 石倉隆（実務経験者） |
| 第8回 | 画像診断各論（4）腹部X線、CT、超音波検査 | 津田泰宏（実務経験者） |

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】小テスト20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための画像診断マニュアル
著者名：百島祐貴
出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書名：生理機能検査学
著者名：大久保善朗
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 小児科学 | | | | |
| 担当者 | 早島禎幸（実務経験者）・藪中良彦（実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 早島禎幸（小児科医として14年の実務経験） 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで5年の実務経験） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
- 第2回 II. 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
- 第3回 III. 発達障害について（早島禎幸）
- 第4回 IV. 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
- 第5回 V. 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
- 第6回 VI. 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
- 第7回 VII. 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
- 第8回 VIII. 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】 予習課題・小テスト 20％

授業態度、出席状況（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出することで予習を促す。また、随時小テストを行い、復習を促す。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 小児科学

著者名：富田豊

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：最新育児小児病学

著者名：黒田泰弘

出版社：南江堂

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ 講義受講にあたって

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ，Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習する。

| | | | | | |
|----------|--|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 老年医学 | | | | |
| 担当者 | 藤岡重和（実務経験者）・大中玄彦（実務経験者）・藤本宜正（実務経験者）・森田婦美子（実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当である藤岡、大中、藤本は、医療機関において医師として老年期疾患の診療業務に従事している。森田は看護師としての実務経験を持つ。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療の基礎的な学習する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生活機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療を説明できる。

■ 授業計画

| | | | |
|------|---|-----------------------------------|--------------|
| 第1回 | 老年医学総論 (1) | 老化と老年病の考え方 | 藤岡重和（実務経験者） |
| 第2回 | 老年医学総論 (2) | 加齢に伴う生活機能変化 | 藤岡重和（実務経験者） |
| 第3回 | 老年医学総論 (3) | 高齢者に多い症候とそのアセスメントについて | 森田婦美子（実務経験者） |
| 第4回 | 老年医学総論 (4) | 老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ | 森田婦美子（実務経験者） |
| 第5回 | 老年医学総論 (5) | 高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア | 森田婦美子（実務経験者） |
| 第6回 | 老年医学各論 (1) | 精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他） | 森田婦美子（実務経験者） |
| 第7回 | 老年医学各論 (2) | 心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害、その他） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第8回 | 老年医学各論 (3) | 呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患、その他） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第9回 | 老年医学各論 (4) | 消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌、その他） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第10回 | 老年医学各論 (5) | 腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病、その他） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第11回 | 老年医学各論 (6) | 加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症 | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第12回 | 老年医学各論 (7) | 骨、運動機能の老化と疾患（骨粗鬆症、骨折他）、感覚機能の老化と疾患 | 藤岡重和（実務経験者） |
| 第13回 | 泌尿器科総論（解剖と生理、診断と検査法）、代表的な泌尿器疾患（尿路感染症、尿路結石症） | | 藤本宜正（実務経験者） |
| 第14回 | 代表的な泌尿器疾患（尿路・生殖器の腫瘍、神経因性膀胱） | | 藤本宜正（実務経験者） |
| 第15回 | 総復習（国家試験対策） | | 藤岡重和（実務経験者） |

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】小テスト 20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。

■ 教科書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版
著者名：大内尉義
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：新老年学 第3版
著者名：大内尉義、秋山弘子、折茂肇
出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

老年医学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学、内科学Ⅰをよく理解しておく必要があります。
授業の前に十分復習をしておいてください。

| | | | | | |
|----------|-------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 高次脳機能障害学 I | | | | |
| 担当者 | 林部 美紀 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として病院に勤務していた | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要
- 第2回 注意障害の特徴と評価？リハビリテーション
- 第3回 半側空間無視の特徴と評価？リハビリテーション
- 第4回 その他の失認の特徴と評価？リハビリテーション
- 第5回 記憶障害の特徴と評価？リハビリテーション
- 第6回 失行の特徴と評価？リハビリテーション
- 第7回 失語の特徴と評価？リハビリテーション
- 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害の特徴と評価？リハビリテーション

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）60%】小テスト20% レポート・報告20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業の復習をすること。20分以上は必要である。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
著者名：石合 純夫
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ①基礎知識のエッセンス
著者名：山鳥 重, 早川裕子ら
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席はしないように。

■ 講義受講にあたって

毎回小テストを実施する。

| | | | | | |
|----------|-------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 高次脳機能障害学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 林部 美紀 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として病院に勤務していた | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶ。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高機能機能障害の特徴を理解できる。
4. 高次脳機能障害について、理学療法中の注意事項が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・認知機能検査の実際と解釈
 第2回 注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項、半側空間無視の評価の実際
 第3回 半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項、記憶障害の評価の実際
 第4回 記憶の評価の解釈・記憶障害における理学療法中の注意事項
 第5回 行為の評価の実際、行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項
 第6回 失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失語症における理学療法中の注意事項
 第7回 その他の評価の実際と解釈
 第8回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験(レポート)60%】発表 20%、筆記試験20% 授業中の居眠り、私語をするごとに?5点を減点する。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

高次脳機能障害学Ⅰの復習をしておくように。1回につき20分以上かかる。レポートに表せるように文献を読むこと。

■ 教科書

書名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ③リハビリテーション評価
 著者名：鈴木孝治, 早川裕子ら
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に注意するように。

■ 講義受講にあたって

本授業は選択制であり、高次脳機能障害学 I の応用編となる。授業中の積極的な態度が必要である。実践へも応用できるようにする授業である。

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|---------|------|
| 授業科目 | スタディースキル I | | | | |
| 担当者 | 境隆弘 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・津村宜秀 (実務経験者) | | | (オムニバス) | |
| 実務経験者の概要 | 境 (理学療法士としての臨床経験があり、現在もスポーツ整形分野の病院に携わっている) 相原 (理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている) 津村 (急性期及び生活期病院での理学療法業務に従事しており、神経機能解剖学に基づく理学療法の検討を行っている) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

大学における各科目の学習が円滑に進められるように、学習の計画や方法について実践を通じて学ぶ。グループ学習や実技を行い、基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。

・境・相原・津村 (実務経験者)：

第9～13、19～26、28～30回の講義やそれに関する実技指導を担当する。

■ 到達目標

- ・学習習慣を身に着ける。
- ・基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。
- ・理学療法士の役割、職域についての興味や関心、知識を深める。

■ 授業計画

- 第1回 大学での学びについて - ガイダンス -
- 第2回 基礎学力確認①
- 第3回 基礎学力確認②、授業ノート、ファイルの作成について
- 第4回 レポートの書き方、学習計画の作成
- 第5回 グループ学習：理学療法士の職域、役割について
- 第6回 生理学の復習①
- 第7回 生理学の復習②
- 第8回 生理学の復習③
- 第9回 運動器系の解剖学の復習①
- 第10回 運動器系の解剖学の復習②
- 第11回 運動器系の解剖学の復習③
- 第12回 運動器系の解剖学の復習④
- 第13回 運動器系の解剖学の復習⑤
- 第14回 1年次の実習に向けて①
- 第15回 1年次の実習に向けて②
- 第16回 理学療法概論実習の振り返り
- 第17回 生理学・運動器系の解剖学の総復習①
- 第18回 生理学・運動器系の解剖学の総復習②
- 第19回 運動学の復習①
- 第20回 運動学の復習②
- 第21回 神経系の解剖学の復習①
- 第22回 神経系の解剖学の復習②
- 第23回 神経系の解剖学の復習③
- 第24回 神経系の解剖学総復習①
- 第25回 神経系の解剖学総復習②
- 第26回 理学療法評価学の復習①
- 第27回 年末および年度末に向けての学習計画
- 第28回 理学療法評価学の復習②

第29回 理学療法評価学の復習③

第30回 理学療法評価学の復習④

■ 評価方法

講義内提出物（レポート、自主学習スケジュール等）50%、講義内テストで50%とする。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

・授業内で取り扱う内容は、事前に学習している内容である。そのため授業内で取り扱った内容は、必ず教科書で読み返し復習することを推奨する。

・学習習慣をつけるため、提示された課題以外に自主的な調べ学習を行うことを強く推奨する。

■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯定和 訳

出版社：南江堂

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学

著者名：岡田隆夫、長岡正範

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | スタディースキルⅡ | | | | |
| 担当者 | 藪中良彦, 牧之瀬一博, 田中稔 (すべて実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦 (理学療法士として, 肢体不自由施設で20年間, 小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験) 牧之瀬一博 (理学療法士として慢性期医療施設, 通所リハ, 訪問リハなどで10年の実務経験) 田中稔 (理学療法士として整形外科クリニック, デイケアでの実務経験) 講義は毎時間, 3名の担当者が担当する。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法士として欠かせない徒手筋力検査・関節可動域検査に関わりが深い, 筋の起始・停止, 作用, 触診に関わる学習を行う。これらの学習成果は実技を通して確認する。同様に, 関節可動域検査, 徒手筋力検査についても習得を目指す。

また, 国家試験の頻出箇所である解剖・生理に関する学習も同時に進める。

■ 到達目標

- ・理学療法技術の習得に向けて, 計画的に学習に取り組むことが出来る。
- ・MMTとROM測定に関わる主要な筋群を理解する。
- ・それらの筋の起始・停止を明示し, 作用を説明できる。更には, 正確な触診が行える。
- ・ROM検査を正確に行うことができる。
- ・MMTを正確に行うことが出来る。
- ・解剖・生理学の知識を身につけ, 頻出箇所は8割以上の正答出来る。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 1 (肩甲帯周囲)
- 第3回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 2 (肩関節)
- 第4回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 3 (肘関節)
- 第5回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 4 (前腕前面)
- 第6回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 5 (前腕後面)
- 第7回 上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 6 (手関節)
- 第8回 下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 1 (股関節)
- 第9回 下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 2 (大腿前面)
- 第10回 下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 3 (大腿後面)
- 第11回 下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 4 (下腿前面)
- 第12回 下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 5 (下腿後面)
- 第13回 体幹筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 1 (体幹前面)
- 第14回 体幹筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 2 (体幹後面)
- 第15回 頭頸部・顔面筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について 1 (頭頸部・顔面)
- 第16回 オリエンテーション
- 第17回 ROM検査 (体幹・下肢) 1 体幹屈曲/伸展, 側屈, 回旋
国家試験基礎部分の復習 1
- 第18回 ROM検査 (体幹・下肢) 2 股関節屈曲/伸展, 外転/内転, 外旋/内旋
国家試験基礎部分の復習 2
- 第19回 ROM検査 (体幹・下肢) 3 膝関節屈曲/伸展, 足関節底屈/背屈, 足部外がえし/内がえし
国家試験基礎部分の復習 3
- 第20回 MMT (体幹・下肢) 1 体幹伸展, 屈曲, 回旋
国家試験基礎部分の復習 4

| | | | | |
|------|-------------|---|--|----|
| 第21回 | MMT (体幹・下肢) | 2 | 股関節屈曲, 屈曲外転外旋, 伸展 (分離含む), 伸展 (仰臥位での別法) 国家試験基礎部分の復習 | 5 |
| 第22回 | MMT (体幹・下肢) | 3 | 股関節外転, 屈曲位外転, 内転, 膝関節屈曲, 伸展 国家試験基礎部分の復習 | 6 |
| 第23回 | MMT (体幹・下肢) | 4 | 足関節底屈, 背屈内がえし, 内がえし, 底屈外がえし 国家試験基礎部分の復習 | 7 |
| 第24回 | ROM 検査 (上肢) | 1 | 肩甲骨屈曲 / 伸展, 挙上 / 引き下げ, 肩関節屈曲 / 伸展, 国家試験基礎部分の復習 | 8 |
| 第25回 | ROM 検査 (上肢) | 2 | 肩関節外転 / 内転, 外旋 / 内旋 (1st / 2nd どちらも), 水平屈曲 / 水平伸展 国家試験基礎部分の復習 | 9 |
| 第26回 | ROM 検査 (上肢) | 3 | 肘関節屈曲 / 伸展, 前腕回内 / 回外, 手関節掌屈 / 背屈, 橈側 / 尺屈 国家試験基礎部分の復習 | 10 |
| 第27回 | MMT (上肢) | 1 | 肩甲骨外転・上方回旋, 挙上, 内転, 下制と内転, 内転と下方回旋 国家試験基礎部分の復習 | 11 |
| 第28回 | MMT (上肢) | 2 | 肩甲骨下制, 肩関節屈曲, 伸展, 外転 国家試験基礎部分の復習 | 12 |
| 第29回 | MMT (上肢) | 3 | 肩関節水平内転, 水平外転, 肩関節外旋, 内旋 国家試験基礎部分の復習 | 13 |
| 第30回 | MMT (上肢) | 4 | 肘関節屈曲, 伸展, 前腕回内, 回外, 手関節屈曲, 伸展 国家試験基礎部分の復習 | 14 |

■ 評価方法

学習成果 (実技の確認や科目試験 [筆記試験], 提出課題) で100%とする。

出席：正当な理由のない欠席や遅刻については減点する (欠席：-4点、遅刻：-2点)

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

授業参加態度：授業への参加態度に問題があり、警告を与えた後も問題が持続する場合は、減点対象とする (1回：-1点)

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

理学療法士に必須の知識・技術である。

紙面上の知識についてはテキストの該当ページを用いて予習を行ってこよう。該当箇所は都度提示する。

技術の習得には授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。上記の学習計画に基づき、以下の状況で講義に参加すること。

- ・それぞれの筋の起始・停止を明示出来る、作用を説明出来る、正確な触診が行える。
- ・ROM 検査も同様に測定肢位、基本軸・移動軸、注意点などを理解し、正しく測定が行える。
- ・MMT では、関係する筋群、測定肢位、運動方向、抵抗位置、注意点などを理解し、正しい測定が行える。

■ 教科書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢

著者名：青木隆明（監修），林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹

著者名：青木隆明（監修），林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編

著者名：ヒントレ研究所

出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

この科目内容を理解・定着するためには、「解剖学」「生理学」「運動学」「評価学」などの科目の理解が重要である。

| | | | | | |
|----------|--|------|-----|---------|------|
| 授業科目 | 理学療法概論 | | | | |
| 担当者 | 藪中良彦, 佐藤睦美, 岩田篤 (すべて実務経験者) | | | (オムニバス) | |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦 (理学療法士として, 肢体不自由施設で20年, 小児訪問リハビリテーションで5年の実務経験) 佐藤睦美 (理学療法士として, 大学附属病院等での実務経験あり) 岩田篤 (理学療法士として神経疾患を多く有する慢性期病院での実務経験あり) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法士になる事を目標に入学してきてはいるが、理学療法のわずかな部分の知識しかない学生に対して、今後4年間学ぶ理学療法の大枠を示す。

■ 到達目標

理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握する。

■ 授業計画

- 第1回 当大学の理学療法学専攻のカリキュラムの解説。
理学療法の歴史, 理学療法の定義, 理学療法を構成する各種技術の概要, 理学療法とリハビリテーション。
- 第2回 理学療法と障害, 医学の領域, 理学療法の対象。
- 第3回 理学療法の流れ (理学療法過程), クリニカルパス, 理学療法における診療ガイドラインの適用。
- 第4回 理学療法士の使命と倫理, 理学療法士に関する法律, 理学療法士に求められる資質, 接遇・コミュニケーション
- 第5回 理学療法士が働く現場
- 第6回 理学療法士の職能
- 第7回 理学療法 (士) 教育
- 第8回 中枢神経疾患理学療法概論
- 第9回 骨関節疾患理学療法概論 (スポーツリハビリテーションを含む)
- 第10回 小児理学療法概論
- 第11回 感染予防
- 第12回 理学療法研究
- 第13回 理学療法士と報酬
- 第14回 医療事故
- 第15回 理学療法記録とまとめ方, 臨床実習において学生に求められるもの

■ 評価方法

出席 [欠席-4点、遅刻/早退-2点、居眠り-1点]

小テスト+予習課題 [50点]

科目試験 (筆記試験) [50点]

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出する。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト（20問程度の穴埋め問題）を行い、授業の復習を促す。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 教科書

書名：理学療法概論テキスト（理学療法入門テキスト 改訂第3版）
著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁
出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ 講義受講にあたって

「理学療法概論」において4年間の理学療法学の学習の大枠を理解することで、各専門基礎科目および各理学療法専門科目を目的をしっかりと理解して学習することができるようになる。

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|---------|------|
| 授業科目 | 理学療法概論実習 | | | | |
| 担当者 | 榎 千磨 (実務経験者)・相原 一貴 (実務経験者)・津村 宜秀 (実務経験者) | | | (オムニバス) | |
| 実務経験者の概要 | 実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

専任教員と共に国内医療施設で見学実習を行う。事前にオリエンテーションと演習を行う。また、見学後も、演習を実施する。

■ 到達目標

現在の国内医療施設における理学療法の概観を理解する。特に理学療法士の仕事を理解することと、対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになることが具体的な目標である。

■ 授業計画

学内演習：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

学外実習：

実習施設 協力医療機関

実習形態 協力医療機関において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、患者と直接に対応する。専任教員は学生の臨床現場を観察し、学生の臨床実習に臨む態度などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 理学療法概論で学んだ問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などを実際の臨床現場で体験し、理解を深める。実習の進め方は、臨床現場の見学と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。

■ 評価方法

実習態度、実習評価、デイリーノート、学内発表の内容を基に判定する。尚、学内演習・学外実習とも欠席は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする。(無断欠席-6、遅刻-2、受講中の注意指導-2点)また、提出物の提出遅れ・内容不備も減点とする。身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

学内演習で学んだコミュニケーションに関する知識を整理し、問診の練習を積んで臨むこと。本実習終了後は、自身の課題を整理し、次の実習に繋げることができるよう心がけておくこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

■ 講義受講にあたって

この実習で得られる「理学療法士についての職業理解」「対象者・スタッフとのコミュニケーション経験」は、2年生以降の臨床実習に繋がっていくので、できるだけ沢山の経験を積むようにしてください。

| | | | | | |
|----------|--------------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法障害学 | | | | |
| 担当者 | 伊禮まり子 | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、慢性期病院、老人保健施設での勤務経験あり。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法と障害について学ぶ。国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について学び、ICFに基づく障害の捉え方を理解する。理学療法において対象となる障害について、障害像・原因・評価・アプローチの概要を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法と障害について理解する。国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の違いを理解し、ICFに基づいた障害の捉え方を体験する。理学療法において対象となる障害について、障害像・原因・評価・アプローチの概要を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・理学療法と障害
- 第2回 国際生活機能分類（ICF）
- 第3回 障害各論（関節可動域制限、筋力低下）
- 第4回 障害各論（運動麻痺、筋緊張異常）
- 第5回 障害各論（協調運動障害）
- 第6回 障害各論（感覚障害）
- 第7回 障害各論（バランス障害）
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）【80%】、小テスト・課題【20%】、欠席・遅刻・早退は減点の対象（欠席：-4点、遅刻・早退：-2点）

なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内での学習経験が重要です。指示されたことは必ず考えたりやってみて授業の後には振り返ってみて下さい。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書名：リハビリテーションビジュアルブック

著者名：落合慈之監修 稲川利光編集

出版社：学研

書名：ビジュアルレクチャー 基礎理学療法学

著者名：大橋ゆかり 編集

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：機能障害学入門

著者名：沖田実, 松原貴子, 森岡周 編集

出版社：神陵文庫

書名：ICF の理解と活用

著者名：上田敏

出版社：きょうされん

■ 留意事項

授業内での学習経験が重要です。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

■ 講義受講にあたって

授業内で考えることが概念の理解に繋がります。しっかり授業に取り組んで下さい。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 総合理学療法学Ⅰ | | | | |
| 担当者 | 田坂厚志（実務経験者）、岩田 篤（実務経験者）、柳 千磨（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志（理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり） 岩田 篤（理学療法士として、病院などで実務経験あり） 柳 千磨（理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

総合臨床実習Ⅰ（評価実習）の準備として、知識及び実技の総復習を行う。

■ 到達目標

総合臨床実習Ⅰ（評価実習）に必要な知識と技能を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習1
- 第2回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習2
- 第3回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習3
- 第4回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習4
- 第5回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習5
- 第6回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習6
- 第7回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習7
- 第8回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習8
- 第9回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習9
- 第10回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習10
- 第11回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習11
- 第12回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習12
- 第13回 臨床実習に向けた取り組み1
- 第14回 臨床実習に向けた取り組み2
- 第15回 臨床実習に向けた取り組み3
- 第16回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習13
- 第17回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習14
- 第18回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習15
- 第19回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習16
- 第20回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習17
- 第21回 理学療法の基本的な知識及び技術の復習18
- 第22回 国家試験模試の準備1
- 第23回 国家試験模試の準備2
- 第24回 国家試験模試の準備3
- 第25回 国家試験模試の準備4
- 第26回 国家試験模試の準備5
- 第27回 総合臨床実習に向けた取り組み1
- 第28回 総合臨床実習に向けた取り組み2
- 第29回 総合臨床実習に向けた取り組み3
- 第30回 総合臨床実習に向けた取り組み4

■ 評価方法

知識を問う試験（40％）：国家試験模試（1回）、小テスト（提出物の確認を含む）

実技試験（60％）：臨床実習Ⅱ前実技テスト、OSCE（2回）

正当な理由の無い欠席（4点）、遅刻（2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

不真面目な受講態度についても減点対象とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学習してきた理学療法評価技術等に関しては自主練習等で復習をすること。

過去の資料を整理し、知識の定着に結び付けられるような準備をすること。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：随時紹介します。

■ 留意事項

提出を求められた場合は確実に提出する。

■ 講義受講にあたって

総合臨床実習や国家試験で求められる知識及び技術を本講義で総括的に学修する。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法研究法 | | | | |
| 担当者 | 伊禮まり子（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、慢性期病院、老人保健施設での勤務経験があり、リハビリテーション分野における基礎研究に従事している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について学ぶ。また、本専攻教員のこれまでの研究活動および現在の研究テーマやゼミでの活動に触れ、今までの学習内容などに基づく興味と合わせて、特別演習において希望する分野について整理する。

■ 到達目標

- ・理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。
- ・今までの学習内容および教員の研究活動などに基づいて、自分の興味のある分野について考え、希望する研究テーマについて整理することができる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法研究の必要性（EBM・EBPT、診療ガイドライン）
- 第2回 研究デザイン
- 第3回 研究計画・研究倫理
- 第4回 データの尺度
- 第5回 データ特性の表現（代表値）
- 第6回 データ特性の表現（ばらつき）
- 第7回 データ特性の表現（Excel 演習）
- 第8回 文献検索
- 第9回 推測統計①
- 第10回 推測統計②
- 第11回 教員研究活動紹介①
- 第12回 教員研究活動紹介②
- 第13回 教員研究活動紹介③
- 第14回 教員研究活動紹介④
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

- ・講義内提出物（レポート、講義ノート等）100%。
- ・正当な理由のない欠席や遅刻・早退については減点とする。（欠席：-4点、遅刻・早退：-2点）
- ・提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・各回で提示する課題に真摯に取り組むこと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書名：はじめての研究法 コメディカルの研究法入門

著者名：千住秀明・玉利光太郎

出版社：神陵文庫

書名：標準理学療法学専門分野 理学療法研究法

著者名：内山 靖 編集

出版社：医学書院

書名：PT・OTのための臨床研究はじめての一步

著者名：山田 実 編集

出版社：羊土社

書名：15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学

著者名：対馬栄輝・木村雅彦 編集

出版社：中山書店

書名：医療系研究論文の読み方・まとめ方

著者名：対馬栄輝

出版社：東京図書

書名：保健・医療のための研究法入門

著者名：Diana M. Bailey 著 朝倉隆司監訳

出版社：協同医書出版社

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

国家試験の範囲でもあるため、内容および用語の理解が必要である。

| | | | | | |
|----------|---------------------------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 理学療法評価学 I | | | | |
| 担当者 | 今井公一（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 今井公一（病院などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 1 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、代表的な内容を学習する。様々な領域（実務経験をふまえて）を踏まえた知識や技術の必要性について講義します。

■ 到達目標

1. 生活機能について説明できる 2. 理学療法評価の過程について説明できる 3. ADL とその評価について説明できる 4. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法、神経系の検査の概要について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 生活機能と理学療法評価
- 第2回 理学療法プロセス
- 第3回 全体像把握
- 第4回 日常生活活動と評価
- 第5回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第6回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第7回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (1)
- 第8回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (2)
- 第9回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (3)
- 第10回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (1)
- 第11回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (2)
- 第12回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (3)
- 第13回 神経系障害の評価 神経系の検査 (1)
- 第14回 神経系障害の評価 神経系の検査 (2)
- 第15回 総括

■ 評価方法

提出物10% 単元毎筆記試験30% 科目試験(筆記試験)60% なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料は時系列に整理しファイルしておいて下さい。必ず授業当日に一度は配布資料やテキストを見直し復習して下さい。単元毎の試験及び到達度試験を行います。

■ 教科書

書名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋 編

出版社：医歯薬出版

書名：リハビリテーション評価マニュアル

著者名：正門由久

出版社：医歯薬出版

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

■ 参考図書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢／下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

書名：ROM ナビ (DVD)

著者名：青木主税 他

出版社：Round Flat

■ 留意事項

授業中の指示については必ず従ってください

■ 講義受講にあたって

骨解剖や筋の作用など、評価学を理解して行くためには必要となる事前知識があります。
必要に応じて復習し授業に臨んで下さい。

| | | | | | |
|----------|---------------------------------------|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 今井公一（実務経験者）、相原一貴（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 今井公一（総合などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、総論的な内容を学習した後、評価法の各論を学びます。各論の個々の内容は目標を参照。様々な領域（実務経験）を踏まえた視点や技術の必要性について講義をします。

■ 到達目標

1. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法について説明できる 2. 神経機能（意識・知能・高次脳機能、運動麻痺、協調障害、感覚障害、反射・反応、筋緊張）の評価について説明できる 3. 内部障害の評価の概要について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 神経系障害の評価 神経系の検査（1）
- 第2回 神経系障害の評価 神経系の検査（2）
- 第3回 呼吸・循環・代謝障害の評価（1）
- 第4回 呼吸・循環・代謝障害の評価（2）
- 第5回 呼吸・循環・代謝障害の評価（3）
- 第6回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第7回 筋骨格系の評価 ROM測定（1）
- 第8回 筋骨格系の評価 ROM測定（2）
- 第9回 筋骨格系の評価 筋力検査法（1）
- 第10回 筋骨格系の評価 筋力検査法（2）
- 第11回 筋骨格系の評価 筋力検査法（3）
- 第12回 筋骨格系の評価 筋力検査法（4）
- 第13回 運動器疾患の評価の実際（1）
- 第14回 運動器疾患の評価の実際（2）
- 第15回 総括（臨床思考の実際）

■ 評価方法

提出物10% 単元毎筆記試験30% 科目試験（筆記試験）60% なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料は時系列に整理しファイルしておいて下さい。必ず授業当日に一度は配布資料やテキストを見直し復習して下さい。単元毎の試験及び到達度試験を行います。

■ 教科書

書名：理学療法評価学Ⅱ

著者名：石川 朗

出版社：中山書店

書名：リハビリテーション評価マニュアル

著者名：正門由久

出版社：医歯薬出版

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

■ 参考図書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢／下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

書名：ROMナビ (DVD)

著者名：青木主税 他

出版社：Round Flat

■ 留意事項

授業中の指示については必ず従ってください

■ 講義受講にあたって

1年生で学習した内容に加えて対象となる領域が増えていきますが、基本的には1年生の学習内容の延長です。理解が難しいときは1年生の内容を復習してみてください。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅲ | | | | |
| 担当者 | 田坂厚志（実務経験者）、藪中良彦（実務経験者）、岩田篤（実務経験者）、津村宜秀（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志（理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり） 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験あり） 岩田 篤（理学療法士として、病院などで実務経験あり） 津村宜秀（理学療法士として、病院などで実務経験あり） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、呼吸循環代謝疾患、小児疾患、中枢神経疾患に関する病態と障害に対する評価法について学びます。

■ 到達目標

1. 代表的な呼吸循環代謝疾患の病態とその評価法について説明することができる。
2. 臨床像と年齢を基に適切な小児期の理学療法評価法を選択できるようになる。
3. 各種神経症状における評価の実施方法を理解し説明することができる。

■ 授業計画

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 呼吸器理学療法評価Ⅰ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第2回 | 呼吸器理学療法評価Ⅱ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第3回 | 循環器理学療法評価Ⅰ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第4回 | 循環器理学療法評価Ⅱ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第5回 | 循環器理学療法評価Ⅲ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第6回 | 代謝疾患に対する理学療法評価 田坂厚志（実務経験者） |
| 第7回 | 呼吸循環代謝疾患に対する理学療法評価のまとめ 田坂厚志（実務経験者） |
| 第8回 | 小児期理学療法評価Ⅰ 藪中良彦（実務経験者） |
| 第9回 | 小児期理学療法評価Ⅱ 藪中良彦（実務経験者） |
| 第10回 | 片麻痺患者の評価Ⅰ 岩田篤（実務経験者） |
| 第11回 | 片麻痺患者の評価Ⅱ 岩田篤（実務経験者） |
| 第12回 | 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅰ 岩田篤（実務経験者） |
| 第13回 | 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅱ 岩田篤（実務経験者） |
| 第14回 | 脳神経の評価Ⅰ 津村宜秀（実務経験者） |

第15回 脳神経の評価Ⅱ
津村宜秀（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%、小テスト20%で評価する。

学生の心得に記載の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学習すること。

提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

書名：理学療法学テキスト 理学療法評価学Ⅱ

著者名：石川 朗 総編集，森山英樹 責任編集

出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：GMFM - 粗大運動能力尺度

著者名：近藤 和泉、福田 道隆、青山 香

出版社：医学書院

書名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88) User's Manual 2nd Edition

著者名：Dianne J. Russell、Peter L. Rosenbaum、Lisa M. Avery、Marilyn Wright

出版社：Mac Keith Press

書名：Gross Motor Function Measure (GMFM) Self-Instructional Training CD-ROM

著者名：Mary Lane、Dianne Russell

出版社：Mac Keith Press

書名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表

著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア - The Chailey Approach to Postural Management

著者名：今川忠男

出版社：三輪書店

書名：EBOT 時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004

出版社：三輪書店

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦

出版社：南山堂

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 理学療法評価学演習 | | | | |
| 担当者 | 牧之瀬一博, 田坂厚志, 相原一貴 (すべて実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 牧之瀬一博 (理学療法士として慢性期医療施設, 通所リハ, 訪問リハなどで10年の実務経験) 田坂厚志 (理学療法士として, 病院や介護保健施設等での実務経験あり) 相原一貴 (理学療法士として, 病院や介護保健施設等での実務経験あり) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

3年後期で行う理学療法評価学演習は、臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程、評価技能の理解を目指す。特に、代表的な疾患に対する病態の理解から評価の選択などの臨床思考過程を学び、症例像に合わせた実技までを体系的に学ぶ。

また、実際の症例の動画を用いて、動作観察・分析の思考過程をトレーニングする。

これらの実施を通して、総合臨床実習に向けた臨床思考能力及び評価方法をトレーニングする場とする。

■ 到達目標

- ・代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。
- ・動作の観察から逸脱動作を複数抽出できる。
- ・逸脱動作から複数の機能障害を推測する事ができる。
- ・総合臨床実習に向けた基本的な評価内容を理解し説明できる。
- ・グループでの学修を通して、協同的な活動に参加し、クラス全体の能力向上に寄与することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法評価学演習の目指すところ (症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング)
理学療法評価の思考過程 (Top down 評価と Bottom up 評価)
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第2回 脳血管症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第3回 脳血管症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第4回 神経変性疾患 (パーキンソン病など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第5回 神経変性疾患 (パーキンソン病など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第6回 運動器疾患 (腰椎ヘルニアなど) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
田坂厚志 (実務経験者)
- 第7回 運動器疾患 (腰椎ヘルニアなど) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
田坂厚志 (実務経験者)
- 第8回 運動器疾患 (大腿骨頸部骨折など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
相原一貴 (実務経験者)
- 第9回 運動器疾患 (大腿骨頸部骨折など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
相原一貴 (実務経験者)
- 第10回 動作観察・分析① (逸脱動作を抽出する)
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第11回 動作観察・分析② (逸脱動作から機能障害を推論する)
牧之瀬一博 (実務経験者)

- 第12回 動作観察・分析③（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第13回 動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第14回 総合臨床実習に向けた演習①（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第15回 総合臨床実習に向けた演習②（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）
牧之瀬一博（実務経験者）

■ 評価方法

提出課題（30%）、科目試験〔筆記試験〕（70%）

出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法評価学演習は理学療法評価学の総まとめである。この科目を履修し終える頃には、評価過程を独力で実施出来る状態となることが求められる。その為、授業時間外の学修にも真摯に臨むこと。

予習に関しては都度必要な内容について提示する。

第2～9回の講義においては、それぞれの疾患の病態や臨床症状についての理解が求められる。臨床神経学や整形外科学での講義内容について復習して講義に臨むこと。また、講義後の復習課題などについても真摯に取り組むこと。

第10～13回の講義については、教科書『観察による歩行分析』を用いた学習を行った上で受講して下さい。歩行時の関節運動がイメージ出来、また筋活動が説明できるようになる事が大切です。異常歩行についてもその成り立ちを含めて説明できるようになって下さい。特に、こういった運動分析が苦手な学生は、まず基本的な解剖（筋の走行）・運動学（筋の作用）について理解度を確認する必要がある。これらの基本が押さえられていれば、繰り返しの思考のトレーニングが必要である。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ

著者名：鶴見隆正，辻下守弘（編集）

出版社：医学書院

書名：3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者名：中山恭秀（編集）

出版社：南江堂

書名：観察による歩行分析

著者名：月城慶一，他（訳）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田 慎一郎／上村 忠正／永井 絢也／長谷川 真人／村上 京子／守澤 幸晃

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法評価学実習 | | | | |
| 担当者 | 牧之瀬一博（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで10年の実務経験） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法士作業療法士国家試験出題基準における、Ⅱ理学療法評価学内の1-A、2-C/E/F/G、3?A/C/E/F、5-Bなどに対応している。

「理学療法評価学」で学んだ基本的な検査測定手技（各種神経学的検査／片麻痺運動機能テスト／感覚検査／MMT/ROM測定／痛みの評価／形態測定）に関する講義・演習・実技を行う。

各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。また、それぞれの検査測定結果の臨床的な意義について解説する。

その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について講義・演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。

■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で正確に実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価における解剖学・運動学・生理学に基づいた身体運動を理解する。
- ・ペーパーペイシエントの障害像から評価すべき項目を挙げるができる。
- ・ペーパーペイシエントの障害構造について説明することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学実習の目指すところ
関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第2回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第3回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義と演習、実習
- 第4回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習①
- 第5回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習②
- 第6回 神経学的検査（腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト）
中枢性麻痺と末梢性麻痺の理解
- 第7回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習③
- 第8回 徒手筋力検査 筋力測定の実技（下肢）
まとめと実技試験
- 第9回 神経学的検査（腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト）
神経学的検査の実技
- 第10回 感覚の評価
感覚検査の意義と病態との兼ね合い／感覚検査の実技
- 第11回 痛みの基本的評価、形態測定
- 第12回 カルテ情報の診方：情報収集とコミュニケーション演習
バイタルサインの診方（測定実技）
- 第13回 ペーパーペイシエントを用いた脳血管障害の障害像の理解
- 第14回 ペーパーペイシエントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第15回 バイタルサインの測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種基本的検査法
まとめと実技

■ 評価方法

提出課題 (30%), 実技試験 (30%), 科目試験 [筆記試験] (40%)

出席: 学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する (欠席: -4点、遅刻: -2点)

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度 (提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど) は減点対象 (1回につき -5点) とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

予習に関しては都度必要な内容について細かく提示する。大まかには以下の通りである。

- ・第2回講義には、ROM 測定における基本軸・移動軸を理解し説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第3-5、7回講義には、下肢筋の走行と作用を理解した上で、それぞれの MMT について概略が説明できる状態で講義に臨むこと。また、個別に課題を課すため、それを行って参加すること。第4回講義には、グループ内で学生同士での教え合いを行うため、それぞれの担当課題について説明できる状態で講義に臨むこと。第7回講義では、前回のグループ内での教え合いの内容を全員が理解した状態で参加する事。
- ・第9回講義には、中枢神経・末梢神経、錐体路・伸張反射の経路について説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第10回講義には、感覚の経路 (温痛覚の脊髓視床路、深部感覚の後索路) について説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第12回講義には、上腕動脈と橈骨動脈の走行と触知部位について復習し、自身の身体で触知できる状態で講義に臨むこと。
- ・第13・14回講義では、それぞれの症例の臨床像を理解するための課題を個別に課すため、それらについて説明できる状態で講義に臨むこと。

■ 教科書

書名: 理学療法評価学

著者名: 松澤正, 江口勝彦

出版社: 金原出版

書名: 臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き (実践リハ評価マニュアルシリーズ)

著者名: 隈元庸夫

出版社: ヒューマン・プレス

書名: 新・徒手筋力検査法

著者名: 津山直一, 他 (訳)

出版社: 共同医書出版

書名: 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名: 鈴木則宏 (編集)

出版社: メジカルレビュー社

書名: ベッドサイドの神経の診かた

著者名: 田崎 義昭

出版社: 南山堂

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱと関連が深い科目である。また、この科目の履修後には臨床実習Ⅰがあり、実際の対象者に検査測定を実施することになります。

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 運動療法学 I | | | | |
| 担当者 | 榑 千磨 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 当該科目の実務経験者は、病院・介護保険施設等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本科目においてもそれらの知見・経験を基に授業を進める予定。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を学ぶ。
解剖学・運動学・生理学などの基礎科目に立脚した学びを通して、運動療法を理解する。

■ 到達目標

疾患・症状に対応する各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解出来る。
各種運動療法を解剖・生理・運動学に基づいて理解し、論理的に解説できる。
関節拘縮の様々な因子について理解し、それらに対する関節可動域運動を説明することができる。
筋力調節・増強に関わる因子について理解し、整理して論理的に解説する事が出来る。
筋力増強運動の原則について理解し、適切な筋力増強運動について思考することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 運動療法の概念：定義や目的、対象疾患、方法、EBM
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法：関節の構造と運動
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法：関節拘縮・関節可動域運動
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法：モビライゼーション、ストレッチング
- 第5回 筋力低下に対する運動療法：筋の構造・収縮様式
- 第6回 筋力低下に対する運動療法：筋張力の規定因子、筋力増強の原則
- 第7回 筋力低下に対する運動療法：筋力増強の効果、エネルギー機構
- 第8回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）
- 第9回 運動と呼吸・循環・代謝
- 第10回 協調性障害に対する運動療法：運動の協調性 / バランス障害
- 第11回 運動学習を目的とした運動療法
- 第12回 基本動作練習、歩行練習
- 第13回 痛みに対する運動療法、治療体操、各種の治療手技
- 第14回 組織の病態生理と修復
- 第15回 その他（全身調整運動、筋再教育、感覚・知覚再教育）

■ 評価方法

小テスト：70% レポート：30% 無断欠席－8点 遅刻－4点 受講中の注意指導－2点
小テスト時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行うようにしてください。2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってまいります。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

基本的に座学ですが、随時実技も織り交ぜて授業を進めていきます。

■ 講義受講にあたって

本科目で運動療法の基本的な知識・技術を学んでもらい、「運動療法学Ⅱ」でさらに発展的に実践してもらう形になります。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 運動療法学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 島雅人（実務経験者）、牧之瀬一博（実務経験者）、田坂厚志（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 島雅人：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 牧之瀬一博：理学療法士として、病院等にて実務経験あり。 田坂篤：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動療法学Ⅰで学んだ知識をもとに、学生間での実技演習を通して各運動療法の基本的な技術を身につける。また、障害を有する対象者に対して、どのようにリスクを管理しながら効果的な運動療法を実施していくかを思考し模擬的に実施する。そのため、本学の履修においては、運動療法の原則や疾患の知識を復習しながら学んでいく。

島雅人（実務経験者）、牧之瀬一博（実務経験者）、田坂篤（実務経験者）

■ 到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学の知識及び運動療法の原則について理解を深める
2. 学生同士で各運動療法技術を実施することができる
3. 各運動療法技術を障害のある対象者に実施する際の注意点（リスク）を理解できる
4. 各障害を想定した運動療法を模擬的に実施できる

■ 授業計画

- 第1回 コースガイダンス
運動療法の種類、方法、運動療法に必要な四肢・体幹の触知：島（実務経験者）
- 第2回 運動療法に必要な四肢・体幹の触知：島（実務経験者）
- 第3回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第4回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第5回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第6回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第7回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：島（実務経験者）
- 第8回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：島（実務経験者）
- 第9回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第10回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第11回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第12回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第13回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第14回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第15回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第16回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第17回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第18回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第19回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第20回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第21回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第22回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第23回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第24回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第25回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第26回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）

- 第27回 全身調整運動（介護予防・健康増進を含む）：田坂（実務経験者）
第28回 全身調整運動（介護予防・健康増進を含む）：田坂（実務経験者）
第29回 実技の到達度確認：島（実務経験者）、田坂（実務経験者）、牧之瀬（実務経験者）
第30回 実技の到達度確認：島（実務経験者）、田坂（実務経験者）、牧之瀬（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）60% 提出ノート 20% 実技の到達度 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業前には該当する運動療法学の知識を復習して臨んでください。
運動療法の技術を習得するためには、実技の練習を何回も繰り返して行う必要があります。授業中に実技に真剣に取り組むことはもちろん、授業後も技術を習得するための自主練習を行い、理学療法士の主要な治療技術の基本を身につけてください。
毎回の講義に関して、まとめノートを作成すること。まとめノートは講義期間中に2回提出してもらいます。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版
著者名：シリーズ監修：奈良 勲 編集：吉尾 雅春
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：最新運動療法大全 I 基礎編 第6版
著者名：キャロリン・キスナー / リン・アラン・コルビー 他
出版社：ガイアブックス

■ 留意事項

運動療法の技術を身につけるため、繰り返し練習を行うこと。

理解できなかった部分や、実施方法が分からなかった場合は必ず質問に来ること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含むため、学校指定のジャージを着用すること

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 小児期理学療法治療学 | | | | |
| 担当者 | 藪中良彦 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦 (理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで5年の実務経験) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

正常発達と共に各疾患別の発達を理解し、小児理学療法評価法を学び、各小児疾患別の治療プログラム立案について学習する。

■ 到達目標

脳性麻痺や二分脊椎や筋ジストロフィー等の小児理学療法対象疾患のある子ども達に対して、適切な評価・治療が行えるようになること。

■ 授業計画

- 第1回 姿勢反射 / 反応と6歳までの発達
- 第2回 脳性麻痺概論
- 第3回 脳性麻痺概論
- 第4回 脳性麻痺概論
- 第5回 脳性麻痺 痙直型両麻痺
- 第6回 脳性麻痺 痙直型四肢麻痺
- 第7回 脳性麻痺 痙直型片麻痺
- 第8回 脳性麻痺 アテトーゼ型
- 第9回 脳性麻痺 アテトーゼ型
- 第10回 小児整形疾患
- 第11回 小児整形疾患
- 第12回 デュシェンヌ型筋ジストロフィー
- 第13回 重症心身障害
- 第14回 子どもの呼吸障害
- 第15回 低出生体重児・ハイリスク児

■ 評価方法

出席 [欠席-4点、遅刻/早退-2点、居眠り-1点]

小テスト+予習課題 [40点]

科目試験 (筆記試験) [60点]

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出することで予習を促す。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト (20問程度の穴埋め問題) を行い、授業の復習を促す。

■ 教科書

書名：イラストでわかる小児理学療法
著者名：上杉雅之 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：発達障害児の新しい療育 こどもと家族とその未来のために
著者名：今川忠男
出版社：三輪書店

書名：モーターコントロール 原著第4版 運動制御の理論から臨床実践へ
著者名：田中 繁、高橋 明
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：乳児の発達 写真でみる0歳児
著者名：高橋孝文
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：GMFM -粗大運動能力尺度
著者名：近藤 和泉、福田 道隆、青山 香
出版社：医学書院

書名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88)
User's Manual 2nd Edition
著者名：Dianne J. Russell、Peter L. Rosenbaum、Lisa M. Avery、Marilyn Wright
出版社：Mac Keith Press

書名：Gross Motor Function Measure (GMFM) Self-Instructional Training CD-ROM
著者名：Mary Lane、Dianne Russell
出版社：Mac Keith Press

書名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表
著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア - The Chailey Approach to Postural Management
著者名：今川忠男
出版社：三輪書店

書名：脳損傷による異常姿勢反射活動
著者名：梶浦 一郎
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性麻痺の運動障害 原著第2版
著者名：梶浦 一郎
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性麻痺の類型別運動発達
著者名：梶浦 一郎
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：脳性まひ児の家庭療育 原著第4版
著者名：上杉雅之監訳
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：赤ちゃんの運動発達 絵でみる治療アプローチ
著者名：芝田利生、櫻庭修
出版社：協同医書出版社

書名：誕生から1歳まで 機能的姿勢－運動スキルの発達

著者名：高橋智宏

出版社：協同医書出版社

書名：アテトーゼ・失調・低緊張の評価と治療：子どもへの感覚運動入力の実際

著者名：調 誠也、調 信子、鈴木 ほがら

出版社：協同医書出版社

書名：ボバース概念の実戦ハンドブック

著者名：紀伊克昌

出版社：パシフィックサプライ株式会社

書名：子育てと健康シリーズ17 子どもの障害をどう受容するか

著者名：中田 洋二郎

出版社：大月書店

書名：子育てと健康シリーズ21 医療的ケアハンドブック

著者名：横浜「難病児の在宅療育」を考える会

出版社：大月書店

書名：240動画でわかる赤ちゃんの発達地図－胎児・新生児期から歩行するまでの発達のつながりが理解できる

著者名：木原 秀樹

出版社：メディカ出版

書名：ネオネイタルケア2009年秋季増刊新生児発達ケア実践マニュアル(ネオネイタルケア 09年秋季増刊)

著者名：木原 秀樹

出版社：メディカ出版

書名：新生児理学療法

著者名：大城昌平、木原秀樹

出版社：メディカルプレス

書名：視覚機能の発達障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：手の発達機能障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：EBOT時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004

出版社：三輪書店

書名：上肢-上部体幹の機能改善－評価と治療アプローチ

書名：発達障害と作業療法(実践編)

著者名：岩崎 清隆、岸本 光夫、鎌倉 矩子、山根 寛

出版社：三輪書店

書名：脳性麻痺のクリニカルリーズニングアプローチ－理学療法・作業療法評価と治療

著者名：上杉雅之、成瀬進

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：重症心身障害療育マニュアル

著者名：江草 安彦、岡田 喜篤、鈴木 康之、末光 茂

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：重症児のQOL(クオリティー・オブ・ライフ)－「医療的ケア」ガイド

著者名：藤岡 一郎

出版社：クリエイツかもがわ

書名：こどもの整形外科疾患の診かた―診断・治療から患者家族への説明まで

著者名：亀ヶ谷 真琴

出版社：医学書院

書名：脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第2版

著者名：日本リハビリテーション医学会

出版社：医学書院

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ 講義受講にあたって

「生涯人間発達学」で学んだ小児の正常発達の知識を基に、身体障害のある子どもたちへの理学療法治療を学習する。また、正常発達を基にした各小児疾患患児への理学療法治療の知識は、成人の身体障がい者への治療に応用可能である。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 呼吸器障害理学療法治療学 | | | | |
| 担当者 | 野村 卓生（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 平成12年から6年間にわたり大学病院で勤務し、呼吸器疾患や代謝疾患に対する理学療法経験を有している。また、平成19年5月から現在に至るまで施設にての研修員として、糖尿病や肝疾患を有する患者を対象とした研究を継続している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

「呼吸と運動」に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸器疾患の病態およびその基本治療を学ぶ。酸素化能障害や換気能力障害などの呼吸器の障害に対する評価と理学療法について、その禁忌やリスク管理をふまえて講義し、実技実習を行う。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 呼吸器系の障害を有する患者の運動耐容能を評価できる。
- 4) 呼吸器系の障害を有する患者に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の呼吸器系の適応について説明できる。
- 6) 呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 呼吸器系の障害を有する患者の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 「呼吸理学療法総論」「科目オリエンテーション」
内部障害の範囲と特徴を理解する。呼吸器系の解剖学・運動学を復習しつつ、呼吸器系の役割と運動時の適応、呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。
- 第2回 「呼吸器系の生理学、呼吸不全の病態と呼吸器疾患」
酸素化能障害、換気能力障害の基本的概念をふまえて理解する。酸素化能、換気能力の基本的な評価法について学習する。呼吸不全を呈する代表的な疾患について学習する。
- 第3回 「呼吸理学療法における評価①」
医療面接、フィジカルアセスメントの基本となる胸部の観察、呼吸困難の評価方法、打診、聴診の実際を実技をふまえて学習する。
- 第4回 「呼吸理学療法における評価②」
呼吸機能、運動耐容能、栄養状態、ADL および QOL の評価方法について、その実際を学習する。また、代表的な呼吸器疾患の画像所見の評価について学習する。
- 第5回 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法」
COPD における障害、呼吸器疾患患者の ADL および QOL 低下の特徴を理解し、特有の評価方法について学習する。他部門からの情報、理学療法評価結果に基づいた理学療法を学習する。
- 第6回 「拘束性肺疾患、外科手術後、その他呼吸器疾患の理学療法」
疾患、病態の特徴を理解し、特有の評価方法、理学療法について学習する。外科手術が生体に与える影響を理解し、術前後および急性増悪例への理学療法を学習する。
- 第7回 「呼吸器理学療法基本手技」
呼吸理学療法におけるコンディショニングや排痰法の目的とその適応、徒手的および体位肺痰法の実際を学習する。
- 第8回 「酸素療法、人工呼吸療法、吸引」
酸素療法および人工呼吸療法の目的と実際、呼吸理学療法との関連について学習する。吸引プロトコル第2版（日本理学療法士協会）に沿って吸引のための基礎知識、実際の概要を学習する。

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)：60%

国家試験出題形式に準じた筆記試験(マークシート)

平常評価：40%

国家試験ドリル1・2 各5%(計10%)

運動負荷試験(フィールドテスト)体験レポート 5%

仮想症例を用いた臨床推論レポート 5%

実技および臨床思考 20%

*減点対象：1回の授業欠席につき5点減点、3分以上の遅刻は3点減点、肺解剖 T シャツ未完成・不適切の場合、5点減点。肺モデルの未完成・不適切の場合、3点減点。レポート課題の未提出は1つにつき5点減点。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

以下のキーワードを参考に、事前・事後の学習に取り組むこと。指定教科書にそった内容で、また、参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を必ず行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

学習キーワード：呼吸運動の調節中枢、肺・気道の解剖学、酸素化能、閉塞性換気障害を呈す疾患、拘束性換気障害を呈す疾患、呼吸機能検査(スパイロメトリー)、肺気量分画、フローボリューム曲線、健常人の呼吸量、健常人の呼吸パターンと呼吸数、肺気腫患者の呼吸機能、肺気腫患者の臨床症状、動脈血液ガス、胸部 X 線像の特徴、PaO₂ と SPO₂ の関連、換気能力の評価、肺・胸郭コンプライアンス、肺呼吸モデル(ペットボトルと風船を使用して作成し実習した内容)、酸素搬送系とその障害、呼吸器疾患患者の運動障害の要因、呼吸器疾患患者の運動耐容能、呼吸器疾患患者の栄養障害、標準体重、%標準体重、低体重・低栄養の判定、理学療法の専門的内容、呼吸理学療法における他部門からの情報収集、F-H-J 分類、MRC 息切れスケール、カルボーネン式、Borg scale、修正 Borg scale、フィールドテスト、6 分間歩行テスト(実施手順を含む)、シャトルウォーキングテスト、運動負荷試験、運動負荷試験の絶対的禁忌、中止基準、評価指標、体位排痰法の排痰姿勢と痰貯留部位、体位排痰法の禁忌、COPD の呼吸機能検査の特徴、呼吸器疾患患者の ADL の特徴、呼吸器疾患患者への理学療法(運動療法)、生活指導、開胸腹前後の呼吸理学療法、人工呼吸器からの離脱(ウィーニング)、人工呼吸器の換気モード、人工呼吸器装着患者の理学療法、標準予防策(standard precaution)、吸引

■ 教科書

書名：内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版

著者名：細田多穂 監、山崎裕司・川俣幹雄・丸岡 弘 編集

出版社：南江堂

書名：動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版

著者名：高橋仁美・塩谷隆信・宮川哲夫

出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版

著者名：高橋哲也 編集

出版社：医歯薬出版

書名：PDCA 理論で学ぶ内部障害理学療法 呼吸器疾患編

著者名：森沢知之 野村卓生 編集

出版社：ヒューマンプレス

書名：ここで差がつく 背景疾患別 理学療法 Q&A

著者名：高橋哲也 編集

出版社：医学書院

書名：呼吸・心臓リハビリテーション ビジュアル実践リハ

著者名：高橋哲也・間瀬教史

出版社：羊土社

書名：理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版

著者名：石川朗・玉木 彰

出版社：中山書店

書名：DVD で学ぶ呼吸理学療法テクニック 呼吸と手技のタイミングがわかる動画91

著者名：玉木 彰

出版社：南江堂

書名：リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術

著者名：美津島 隆・山内克哉 監修

出版社：メディカルビュー社

書名：内部障害リハのための胸部・腹部画像 読影のすすめ

著者名：美津島 隆・山内克哉 監修

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

■ 講義受講にあたって

内部障害は、現代の日本において理学療法の主要な対象疾患となっています。非常に内容の濃い8コマとなりますので、居眠りや授業と関係のない作業を行わず、授業に集中してください。授業中は注意をしますが、減点しますので、この点は十分に留意してください。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 代謝障害理学療法治療学 | | | | |
| 担当者 | 野村 卓生 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 平成12年から6年間にわたり大学病院で勤務し、呼吸器疾患や代謝疾患に対する理学療法経験を有している。また、平成19年5月から現在に至るまで施設にての研修員として、糖尿病や肝疾患を有する患者を対象とした研究を継続している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

「代謝と運動」に関する生理学・生化学的な基本知識を整理し、代表的な代謝障害である糖尿病の病態およびその基本治療を学ぶ。長期にわたる糖代謝障害によって発症する糖尿病特有の合併症や足病変への理学療法、理学療法士の関わりについて講義し、実技実習を行う。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域（ここでは「がん」を含める）における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動耐容能を評価できる。
- 4) 代謝疾患（とくに糖尿病）に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の代謝系の適応について説明できる。
- 6) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 代謝疾患（とくに糖尿病）の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 「代謝障害理学療法総論」「科目オリエンテーション」
代謝障害に対する理学療法において何を学ばなければならないかを示したうえで、運動時における代謝系の適応、代謝系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。
- 第2回 「代謝疾患総論と糖尿病理学療法」
糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症等について、日本における患者数、疾患の概要と診断基準等の概略について学習する。とくに糖尿病の理学療法について理解を深める。
- 第3回 「糖尿病合併症」
低血糖に代表される急性合併症、糖尿病特有の慢性合併症（網膜症・腎症・神経障害）について学習する。
- 第4回 「糖尿病管理」
糖尿病の基本的治療法、とくに運動療法についてその概要を学習する。また、自己管理を支援するための患者教育の重要性を理解する。
- 第5回 「糖尿病理学療法1（導入編）」
一般的な糖尿病患者、および糖尿病合併症を有する患者への理学療法、理学療法士の関わりについて、その具体を演習形式で学習する。
- 第6回 「糖尿病理学療法2（実践編）」
実際に自己血糖測定を行い、理学療法を効果的かつ安全に進める上で必要な血液生化学的データの理解を深める。
- 第7回 「糖尿病理学療法3（応用編）」
振動覚検査、アキレス腱反射など糖尿病神経障害の簡易診断基準の一つともなる身体評価について演習形式で学習する。また、その結果を如何に患者教育に活用するかについて学習する。
- 第8回 「糖尿病理学療法4（総合演習）」
仮想症例を提示し、問題点の抽出、プログラムの作成から効果判定をどのように行うかまでの一連の理学療法介入の思考プロセスを経験する。

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)：60%

国家試験出題形式に準じた筆記試験(マークシート)

平常評価：40%

国家試験ドリル1・2 各5%(計10%)

血糖値自己測定体験レポート 5%

仮想症例を用いた臨床推論レポート 5%

実技および臨床思考：20%

*減点対象 1回の授業欠席につき5点減点、3分以上の遅刻は3点減点、課題の未提出は1つにつき5点減点。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

以下のキーワードを参考に、事前・事後の学習に取り組むこと。指定教科書にそった内容で、また、参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を必ず行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

学習キーワード：生活習慣病の定義、脂質異常症診断基準、メタボリックシンドローム診断基準、BMI(Body Mass Index)判定基準(日本肥満学会)、肥満症診断基準、肥満症の概要、糖尿病診断基準とコントロール指標 * HbA1cのJDS値およびNGSP値に注意、糖尿病の概要 * 全ての糖尿病患者が持つ糖尿、病連携手帳に記載されている内容は必須、糖尿病の急性合併症、糖尿病の慢性合併症、低血糖の症状(交感神経症状、中枢神経症状)、糖尿病神経障害の分類、糖尿病自律神経障害の症状、糖尿病多発神経障害の簡易診断基準 * 臨床上も重要なのでしっかりと覚えておくこと、糖尿病足病変の定義、糖尿病足病変の予防と管理方法の概要、糖尿病網膜症の概要と管理、糖尿病腎症の概要と概要、糖尿病合併症(動脈硬化性疾患)、糖尿病合併症(手の病変・歯周病)、ヒトの代謝(運動時を含む)の概要、筋繊維別での代謝特性、脂肪と消費カロリー、糖尿病の運動療法、運動の種類とMETs、エクササイズガイド2006、アクティブガイド、Non-exercise activity thermogenesis (NEAT)

その他(日本理学療法士協会 コアカリキュラム関連)

学習キーワード：がん、がんのリハビリテーション

■ 教科書

書名：糖尿病治療における理学療法 戦略と実践

著者名：野村卓生

出版社：文光堂

書名：身体機能・歩行動作からみたフットケア

著者名：野村卓生、河辺信秀 編集

出版社：文光堂

■ 参考図書

書名：糖尿病の理学療法

著者名：清野 裕・門脇 孝・南條輝志男 監修、大平雅美・石黒元康・野村卓生 編集

出版社：メジカルビュー社

書名：よくわかる内部障害の運動療法

著者名：上月正博 編著

出版社：医歯薬出版

書名：考える理学療法 内部障害編 評価から治療手技の選択

著者名：丸山仁司・竹井 仁・黒澤和生 常任編集、石黒友康・高橋哲也 ゲスト編集

出版社：文光堂

書名：糖尿病療養指導ガイドブック2019

著者名：日本糖尿病療養指導士認定機構 編著

出版社：メディカルレビュー社

書名：腎臓リハビリテーション

著者名：上月正博 編著

出版社：医歯薬出版

書名：腎臓リハビリテーションガイドライン

著者名：日本腎臓リハビリテーション学会 編集

出版社：南江堂

書名：がんのリハビリテーションガイドライン

著者名：日本リハビリテーション医学会 / がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会 編集

出版社：金原出版

書名：がんのリハビリテーションベストプラクティス

著者名：日本がんリハビリテーション研究会 編集

出版社：金原出版

■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

■ 講義受講にあたって

糖尿病は、現代の日本において増加の一途を辿り、理学療法対象疾患にも高率に合併します。非常に内容の濃い8コマとなりますので、居眠りや授業と関係のない作業を行わず、授業に集中してください。授業中は注意をしますが、減点しますので、この点は十分に留意してください。

| | | | | | |
|----------|-----------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 循環器障害理学療法治療学 | | | | |
| 担当者 | 田坂厚志（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

代表的な循環器疾患の病態、症状、運動機能評価、理学療法プログラムについて学修します。不整脈の種類や心電図を用いた不整脈の判読手順を解説し、リスク管理について学修します。また、理学療法を進める際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説します。

■ 到達目標

1. 循環器疾患の病態について説明できる。
2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈、リスク管理について説明できる。
3. 心臓リハビリテーション（特に運動療法）について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 心臓リハビリテーションの概念
- 第2回 心臓の解剖・生理
- 第3回 運動と循環応答
- 第4回 心電図の診かた
- 第5回 運動負荷試験による運動処方
- 第6回 循環器疾患の病態・検査と治療
- 第7回 循環器疾患に対する理学療法評価
- 第8回 循環器疾患に対する理学療法

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%、提出物もしくは小テスト20%

正当な理由の無い欠席（4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

不真面目な受講態度についても減点対象とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学修して下さい。

提出を求められた場合は確実に提出して下さい。

■ 教科書

書 名：理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版

著者名：石川 朗 総編集，木村雅彦 責任編集

出版社：中山書店

書 名：病気がみえる vol.2 循環器 第4版

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

欠席した場合には必ず担当教員を訪ね、講義資料を受け取ること。

■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。

| | | | | | |
|----------|--|------|-----|---------|------|
| 授業科目 | 神経障害理学療法治療学 I | | | | |
| 担当者 | 岩田 篤 (実務経験者)、植田翔介 (実務経験者) | | | (オムニバス) | |
| 実務経験者の概要 | 岩田 篤 (理学療法士として、慢性期病院での 15 年間の実務経験あり) 植田翔介 (理学療法士として、脊髄損傷患者専門施設での実務経験あり) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

脳血管障害患者および脊髄損傷患者の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

岩田 篤 (実務経験者)、植田翔介 (実務経験者)

■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患に対する理学療法の方向性を理解すべく、脳損傷の病態および症状が理解できる。

■ 授業計画

- 第 1 回 神経障害理学療法を科学的に行うために～目標設定の重要性～
- 第 2 回 神経系の基礎知識
- 第 3 回 脊髄損傷の理学療法 1
- 第 4 回 脊髄損傷の理学療法 2
- 第 5 回 脊髄損傷の理学療法 3
- 第 6 回 脊髄損傷の理学療法 4
- 第 7 回 脳血管障害後 急性期の病態と理学療法
- 第 8 回 脳血管障害後 急性期の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第 9 回 脳血管障害後 回復期／維持期の病態と理学療法
- 第 10 回 脳血管障害後 回復期／維持期の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第 11 回 片麻痺患者の歩行障害と理学療法
- 第 12 回 片麻痺患者の歩行障害と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第 13 回 片麻痺患者の麻痺の回復と運動学習
- 第 14 回 片麻痺患者の麻痺の回復と運動学習 (国家試験対策含む)
- 第 15 回 まとめ

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験) : 80%、小テストおよび提出課題 : 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

講義は基本的には教科書の章立てに合わせた形で行います。理解度を促進するために、次の講義で小テストを行いますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教科書

書 名 : 15 レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学 I
著者名 : 石川 朗 (総編集)
出版社 : 中山書店

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 神経理学療法学

著者名：吉尾雅春・他（編集）

出版社：医学書院

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：脳卒中ビジュアルテキスト 第2版

著者名：高木康行

出版社：医学書院

書名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭

出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。

また、「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

| | | | | | |
|----------|-----------------------------|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 神経障害理学療法治療学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 岩田 篤 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、慢性期病院での15年間の実務経験あり | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムについて解説します。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 脳血管障害患者の症例検討1
- 第2回 脳血管障害患者の症例検討2
- 第3回 姿勢定位障害（Pusher 現象）と半側空間無視の病態と理学療法
- 第4回 姿勢定位障害（Pusher 現象）と半側空間無視の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第5回 脳血管障害患者の症例検討3
- 第6回 脳血管障害患者の症例検討4
- 第7回 パーキンソン病の病態と理学療法
- 第8回 パーキンソン病の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第9回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法
- 第10回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第11回 多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症／その他神経疾患の病態と理学療法
- 第12回 多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症／その他神経疾患の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第13回 神経疾患患者の症例検討1
- 第14回 神経疾患患者の症例検討2
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）：80%、小テストおよび提出課題：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義は基本的には教科書の章立てに合わせた形で行います。理解度を促進するために、次の講義で小テストを行いますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ
 著者名：石川 朗（総編集）
 出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 神経理学療法学

著者名：吉尾雅春・他（編集）

出版社：医学書院

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：脳卒中ビジュアルテキスト 第2版

著者名：高木康行

出版社：医学書院

書名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭

出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」の科目の理解が重要である。

また、「総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ」へとつながる内容である。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 老年期理学療法治療学 | | | | |
| 担当者 | 今井公一、田坂厚志、新家寿貴、文野勝利、奥野泰介（すべて実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 今井公一（病院などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり）、田坂厚志（総合病院、老人保健施設、クリニックでの勤務経験あり）、新家寿貴（慢性期病院 リハ部門長）、奥野泰介（急性期、回復期リハ病院所属）、文野勝利（介護保険領域での部門管理者） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

老年期における心身機能をふまえて理学療法による治療について学びます。今井、田坂については自身の実務経験をふまえて老年期の理学療法全般に関わる内容について講義します。新家先生、奥野先生、文野先生についてはそれぞれの実務経験に即した領域について講義します。

■ 到達目標

1. 老年期の心身機能の特長について説明できる
2. 生活期の理学療法について説明できる
3. 急性期・回復期における老年期理学療法について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 老年期理学療法の背景 今井（実務経験者）
 第2回 老年期の身体機能（呼吸・循環・代謝機能を中心に）(1) 田坂（実務経験者）
 第3回 老年期の身体機能（呼吸・循環・代謝機能を中心に）(2) 田坂
 第4回 老年期理学療法の実際 (1) 未定（実務経験者）
 第5回 老年期における生活期理学療法の実際 (2) 新家（実務経験者）
 第6回 老年期における急性期・回復期の理学療法の実際 奥野（実務経験者）
 第7回 予防的理学療法の実際 文野（実務経験者）
 第8回 総括 今井

■ 評価方法

提出物30% 科目試験(筆記試験)70% なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

当該授業内容については授業のあった日に必ず復習をして下さい。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

■ 参考図書

書名：高齢者理学療法学テキスト

著者名：山田和政 他

出版社：南江堂

書名：高齢者理学療法学

著者名：島田 裕之 他

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

日本ではこれから対象の増える領域です。しっかり考え方や実際に身につけましょう。

■ 講義受講にあたって

年齢を区分とした理学療法の考え方を学ぶ授業です。年齢による特性をしっかりと理解するように心がけて下さい。

| | | | | | |
|----------|---------------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 運動器障害理学療法治療学 I | | | | |
| 担当者 | 佐藤 睦美 (実務経験者) | | | | |
| 実務経験者の概要 | 医療機関での運動器障害に対する理学療法 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動器障害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

運動器障害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，骨折の理学療法①
- 第2回 骨折の理学療法②
- 第3回 肩関節障害の理学療法①
- 第4回 肩関節障害の理学療法②
- 第5回 肘・前腕・手関節障害の理学療法①
- 第6回 肘・前腕・手関節障害の理学療法②
- 第7回 脊椎疾患の理学療法①
- 第8回 脊椎疾患の理学療法②
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 股関節障害の理学療法①
- 第11回 股関節障害の理学療法②
- 第12回 膝関節障害の理学療法①
- 第13回 膝関節障害の理学療法②
- 第14回 足関節・足部障害の理学療法①
- 第15回 足関節・足部障害の理学療法②

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%， 小テスト・講義内課題 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科 II で学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I

著者名：河村廣幸 (責任編集)

出版社：中山書店

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 II

著者名：河村廣幸 (責任編集)

出版社：中山書店

書 名：実践 PT ノート 第2版

著者名：小柳磨毅 (編)

出版社：三輪書店

■ 参考図書

書名：標準整形外科学 第13版
著者名：中村利孝・松野丈夫(監修)
出版社：医学書院

書名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所(編)
出版社：メディックメディア

書名：整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹
著者名：整形外科リハビリテーション学会(編)
出版社：メジカルビュー社

書名：整形外科運動療法ナビゲーション 下肢
著者名：整形外科リハビリテーション学会(編)
出版社：メジカルビュー社

書名：運動器疾患の治療後リハビリテーション
著者名：島田洋一・高橋仁美(編)
出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 講義受講にあたって

実技演習も併せて行うので、動きやすい服装で出席すること。
講義に関わる連絡は全て moodle と通じて行うので、適宜確認すること。

| | | | | | |
|----------|----------------------------|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 運動器障害理学療法治療学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 佐藤 睦美・境 隆弘・高木 啓至（すべて実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 医療機関での運動器障害に対する理学療法 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

スポーツ傷害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

スポーツ傷害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，熱傷
佐藤睦美（実務経験者）
- 第2回 スポーツ傷害総論
佐藤睦美（実務経験者）
- 第3回 下肢のスポーツ外傷①
佐藤睦美（実務経験者）
- 第4回 下肢のスポーツ外傷②
佐藤睦美（実務経験者）
- 第5回 下肢のスポーツ外傷③
佐藤睦美（実務経験者）
- 第6回 下肢のスポーツ外傷④
佐藤睦美（実務経験者）
- 第7回 下肢のスポーツ障害①
佐藤睦美（実務経験者）
- 第8回 下肢のスポーツ障害②
佐藤睦美（実務経験者）
- 第9回 がんのリハビリテーション①
高木啓至（実務経験者）
- 第10回 がんのリハビリテーション②
高木啓至（実務経験者）
- 第11回 中間まとめ
佐藤睦美（実務経験者）
- 第12回 上肢のスポーツ外傷・障害①
佐藤睦美（実務経験者）
- 第13回 上肢のスポーツ外傷・障害②
佐藤睦美（実務経験者）
- 第14回 上肢のスポーツ障害[投球障害]①
境隆弘（実務経験者）
- 第15回 上肢のスポーツ障害[投球障害]②
境隆弘（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%，小テスト・講義内課題 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科学 II で学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 II

著者名：河村廣幸（責任編集）

出版社：中山書店

書名：実践 PT ノート 第2版

著者名：小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

書名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書名：標準整形外科学 第13版

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書名：スポーツ膝の臨床（第2版）

著者名：史野根生

出版社：金原出版

書名：理学療法 MOOK 9 スポーツ傷害の理学療法 第2版

著者名：福井勉・小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

書名：復帰を目指す スポーツ整形外科

著者名：宗田大（編）

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

実技演習も併せて行うので、動きやすい服装で出席すること。

講義に関わる連絡は全て moodle と通じて行うので、適宜確認すること。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 運動器障害理学療法治療学Ⅲ | | | | |
| 担当者 | 井上悟・加藤直樹（全て実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 担当者は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院における疼痛性疾患、関節リウマチのリハビリテーション医療の経験が豊富にある。また院内の疼痛医療センターに所属する兼任理学療法士でもある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

疼痛性疾患・関節リウマチのPT治療の現在の臨床について解説する。

■ 到達目標

疼痛性疾患・関節リウマチのPT治療の実際を知る。

■ 授業計画

- 第1回 疼痛性疾患1（加藤）（実務経験者）
- 第2回 疼痛性疾患2（加藤）（実務経験者）
- 第3回 疼痛性疾患3：腰痛
- 第4回 疼痛性疾患4：肩痛
- 第5回 関節リウマチ1
- 第6回 関節リウマチ2
- 第7回 関節リウマチ3
- 第8回 関節リウマチ4

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：骨関節理学療法学
 著者名：吉尾雅春・小柳磨毅
 出版社：医学書院，2013年，4800円（最新版で）

■ 参考図書

書 名：運動器疾患の理学療法テクニック
 著者名：林 義孝
 出版社：南江堂

■ 留意事項

各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 物理療法学 | | | | |
| 担当者 | 田中 稔 (実務経験者)、柳 千磨 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 田中 稔, 柳 千磨 (理学療法士として, 臨床現場において物理療法機器を用いた治療に従事していた.) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

まずは, 物理療法機器によってもたらされる身体への生理学的作用を理解する. その上で, それに伴うリスク・適応・禁忌などを考える. 実際の機器の操作は, 物理療法学実習で体験する. 田中 稔 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する.
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する.
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる.
4. 生理学的作用, リスクを勘案して, 適切な物理療法機器の選択ができるようになる.
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する.

■ 授業計画

- 第1回 物理療法の意義・位置づけ 田中 稔 (実務経験者)
- 第2回 生理学的作用 田中 稔 (実務経験者)
- 第3回 炎症・痛みに対する理学療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第4回 温熱療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第5回 寒冷療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第6回 光線療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第7回 光線療法・電磁波療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第8回 超音波療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第9回 電気刺激療法① 田中 稔 (実務経験者)
- 第10回 電気刺激療法② 田中 稔 (実務経験者)
- 第11回 その他の電気療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第12回 牽引療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第13回 マッサージ 田中 稔 (実務経験者)
- 第14回 水治療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第15回 リスク管理その他 田中 稔 (実務経験者)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験) : 80%, 小テスト : 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業開始時に知識の確認テストを実施する. そのため, 事前に前回授業の復習をしておくこと.

■ 教科書

■ 参考図書

書 名 : 物理療法学 第4版 (標準理学療法学 専門分野)
 著者名 : 奈良 勲
 出版社 : 医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

実際の物理療法機器を使用する物理療法学実習につながる講義である。まずは生理学的作用とリスク管理に焦点を当て実際に機器使用するにあたり必要な知識を身に付ける。

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 物理療法学実習 | | | | |
| 担当者 | 田中 稔 (実務経験者), 柳 千磨 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 田中 稔, 柳 千磨 (理学療法士として, 臨床現場において物理療法機器を用いた治療に従事していた.) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

物理療法学実習では, 実際に物理療法機器を操作し, 生体の反応を体感する. 実際の機器操作前には, 出力や温度などの物理療法機器の設定, 適応・禁忌などのリスク管理などを重点的に学習する. また, 実際の機器操作時には, それを扱うに足る知識があることを確認した後に機器操作の許可を出す. 実習はグループに分かれ, 各物理療法機器をローテーションで実施する. 田中 稔 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する.
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する.
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる.
4. 生理学的作用, リスクを勘案して, 適切な物理療法機器の選択ができるようになる.
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する.

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (①ホットパック, ②パラフィン, ③寒冷療法, ④極超短波)
田中 稔 (実務経験者)
- 第2回 オリエンテーション (⑤超音波, ⑥低周波, ⑦干渉波, ⑧ S-D 曲線, ⑨間欠的空気圧迫療法)
田中 稔 (実務経験者)
- 第3回 オリエンテーション (⑩牽引 [頸椎・腰椎], ⑪水治療法 [渦流浴], ⑫マッサージ)
田中 稔 (実務経験者)
- 第4回 実習 第1回目 指定された各班が, ローテーションで物理療法治療介入の実習を行う。
その結果・考察などをレポートにまとめ翌週の授業開始時に提出する。2回目以後も同様とする。
田中 稔 (実務経験者)
- 第5回 実習 第2回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第6回 実習 第3回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第7回 実習 第4回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第8回 実習 第5回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第9回 実習 第6回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第10回 実習 第7回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第11回 実習 第8回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第12回 実習 第9回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第13回 実習 第10回目 田中 稔 (実務経験者)
- 第14回 実技テスト 田中 稔 (実務経験者)
- 第15回 症例提示 田中 稔 (実務経験者)

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)30% 実技テスト10% レポート60%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

1. 「実習の手引き」をあらかじめ十分に熟読・予習し、実習開始後速やかに行動ができるようにする。
2. 実習第1回目から第10回目までのグループ実習では、10回の実習項目について全員がレポートを提出する。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：物理療法学 第4版(標準理学療法学 専門分野)
著者名：奈良 勲
出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

実際に物理療法機器を使用することにより知識と技術を身に付ける講義である。物理療法学における知識の積み重ねなく参加することは事故につながる危険性があるため、リスク管理の知識は必須である。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 義肢装具学 | | | | |
| 担当者 | 井上悟（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 担当者は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院におけるリハビリテーション医療、義肢装具の処方・臨床適用の経験が豊富にある。日本義肢装具学会員でもある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。
臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業計画の概要と成績判定方法の説明）
義肢学1 切断総論1
- 第2回 義肢学2 切断総論2
- 第3回 義肢学3 義足総論1
- 第4回 義肢学4 義足総論2
- 第5回 義肢学5 下腿切断と下腿義足1（ソケット）
- 第6回 義肢学6 下腿義足2（足部、足継手）
- 第7回 義肢学7 下腿義足3（適合とアライメント）
- 第8回 義肢学8 大腿切断と大腿義足1（ソケット）
- 第9回 義肢学9 大腿義足2（ソケットと懸垂）
- 第10回 義肢学10 大腿義足3（膝継手）
- 第11回 義肢学11 大腿義足4（適合とアライメント）
- 第12回 装具学1 装具総論（下肢装具を中心に）
- 第13回 装具学2 下肢装具の基本構造
- 第14回 装具学3 下肢装具のアライメント
- 第15回 装具学4 靴と靴型装具（FO）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：義肢装具学（第4版）
著者名：川村次郎・他編
出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第2版）
著者名：澤村誠志
出版社：医歯薬

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 義肢装具学実習 | | | | |
| 担当者 | 井上悟・高木啓至・西野誠一（全て実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 担当は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院におけるリハビリテーション医療、義肢装具の処方・臨床適用の経験豊富にある。日本義肢装具学会員でもある。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。
臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 義肢学実習1 股関節離断と股義足
- 第2回 義肢学実習2 膝離断と膝義足
- 第3回 義肢学実習3 サイム切断とサイム義足
- 第4回 義肢学実習4 足部切断と足部義足
- 第5回 義肢学実習5 切断者の理学療法1
- 第6回 義肢学実習6 切断者の理学療法2
- 第7回 義肢学実習7 切断者の理学療法3
- 第8回 義肢学実習8 切断者の理学療法4：実技指導含
- 第9回 義肢学実習9 切断者の理学療法5（異常歩行とその対策）
- 第10回 装具学実習1 疾患・障害別装具1 CVA片麻痺、頸随損傷の装具
- 第11回 装具学実習2 疾患・障害別装具2 対麻痺、二分脊椎の装具（足装具含）
- 第12回 装具学実習3 疾患・障害別装具3 体幹・頸椎装具、側弯症装具
- 第13回 装具学実習4 疾患・障害別装具4 小児疾患用装具、整形外科的治療用装具、その他
- 第14回 装具学実習5 がんリハビリテーションと義肢装具（高木PT）（実務経験者）
- 第15回 装具学実習6 義肢・装具の最新情報（最新の支給制度含む）（西野PO）（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：義肢装具学（第4版）
著者名：川村次郎・他編
出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第2版）
著者名：澤村誠志
出版社：医歯薬

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 日常生活活動学 | | | | |
| 担当者 | 相原一貴（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

日常生活活動学では、我々が普段意識することなく行っている日常生活が、理学療法において重要な評価・介入対象であることを学びます。そして、理学療法士として専門的な視点における日常生活の捉え方を学びます。

主な疾患や病態における日常生活の特徴並びに介助方法や指導方法について学習します。

■ 到達目標

- ・日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な自助具や福祉機器について理解する。
- ・各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。
- ・疾患や障害と日常生活との関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動（ADL）の概念と範囲
- 第2回 基本的 ADL と生活の質（QOL）
- 第3回 ADL の評価①（代表的な評価方法について：Barthel Index）
- 第4回 ADL の評価②（代表的な評価方法について：FIM）
- 第5回 ADL の評価③
- 第6回 福祉機器や生活環境
- 第7回 片麻痺患者の ADL
- 第8回 整形疾患患者の ADL

■ 評価方法

科目試験〔筆記試験〕（70%）、小テスト（15%）、提出課題（15%）
 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）
 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
 理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL
 著者名：柴喜崇、下田信明／著
 出版社：羊土社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）

著者名：鶴見隆正編

出版社：医歯薬出版

書名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－

著者名：伊藤利之、江藤文夫／著

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 日常生活活動学実習 | | | | |
| 担当者 | 相原一貴（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

日常生活活動学実習では、姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活に関わる動作を理解し、それらの介助方法を学びます。また、各疾患の特性を踏まえ、対象者に対して適切な、動作指導や介助技術を学びます。

■ 到達目標

- ・ ADL 指導に必要な基本的動作について理解できる。
- ・ 動作指導・運動学習の視点から適切な介助法を理解し、安全に実践することができる。
- ・ 各疾患患者に対する介助方法を理解し、模倣することができる。
- ・ 各疾患患者に対する動作指導を理解し、説明することができる。
- ・ 車椅子や歩行補助具の特性を理解し、安全に操作することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：姿勢と動作の基本知識
- 第2回 理学療法士としての日常生活活動への関わり
- 第3回 起居動作の理解と介助法
- 第4回 立ち上がり・移乗動作の理解と介助法
- 第5回 車椅子操作法
- 第6回 歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助法
- 第7回 各論 片麻痺患者の ADL 指導①
- 第8回 各論 片麻痺患者の ADL 指導②
- 第9回 各論 関節リウマチ患者、人工股関節置換術後患者の ADL 指導
- 第10回 各論 パーキンソン病患者の ADL 指導
- 第11回 各論 神経筋疾患患者、難病疾患患者の ADL 指導
- 第12回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導①
- 第13回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導②
- 第14回 各論 呼吸循環器系疾患患者の ADL 指導
- 第15回 トランスファー等の介助方法の実技確認

■ 評価方法

提出課題（30%）、実技試験（35%）、小テスト（35%）
 正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。
 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この科目は、座学の日常生活活動学との深く関係しています。そのため、日常生活活動学の講義で学んだ内容を必ず復習し講義に参加してください。講義で学習した介助技術の熟練のため、自主的に学生同士で実技練習をすることを推奨します。疾患によって生じる臨床症状に合わせた動作介助方法・指導方法を学ぶため、各疾患の病態について復習し、講義を受けることが望ましいです。

■ 教科書

書名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL
著者名：柴喜崇、下田信明／著
出版社：羊土社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）
著者名：鶴見隆正編
出版社：医歯薬出版

書名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著
出版社：医歯薬出版

書名：姿勢と動作 －ADL その基礎から応用まで－（第3版）
著者名：齋藤宏、矢谷令子・他／著
出版社：医歯薬出版 メヂカルフレンド社

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。
動作介助に関する実技を行うので、動きやすい服装・靴で参加してください。（上下ジャージ等）

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 地域理学療法学 | | | | |
| 担当者 | 田中仁（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として地域理学療法を実践している。また訪問看護ステーション（訪問リハビリ）や通所リハビリ、訪問リハビリを併設する診療所を経営している。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

地域リハビリテーションに関わる理学療法を、患者（利用者）を取り巻く生活圏に視点をおいて考える。その中の制度、システムを学び、地域、在宅領域における理学療法士の役割を学ぶ。

■ 到達目標

地域理学療法における医療保険、介護保険の現行制度を理解する。
 在宅を中心とした理学療法の専門性を理解する。
 地域理学療法の実践を知る。
 地域リハビリテーションにおける理学療法士の今後の展開を推察する。

■ 授業計画

- 第1回 地域リハビリテーションと地域理学療法について
- 第2回 医療保険制度と介護保険制度について
- 第3回 日本の社会保障について
- 第4回 地域包括ケアシステムについて
- 第5回 地域理学療法と介護保険制度について
- 第6回 地域理学療法と介護保険制度におけるリハビリテーションについて
- 第7回 地域理学療法と福祉用具と住宅改修について
- 第8回 地域リハビリテーションと地域理学療法における今後の展開

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）：100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回、資料を配布する。
 その内容を、講義中に質疑する。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学 地域理学療法学 第4版
 著者名：牧田光代、金谷さとみ
 出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|------|
| 授業科目 | 生活環境論 | | | | |
| 担当者 | 相原一貴（実務経験者） | | | | |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

生活環境論では、リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学びます。理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、またどのように考えるのかを学びます。

■ 到達目標

- ・医療保険制度と介護保険制度を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な自助具や福祉機器について理解する。
- ・疾患や障害と生活環境の関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日本の社会保障の概論
- 第2回 医療保険制度と介護保険制度①
- 第3回 医療保険制度と介護保険制度②
- 第4回 日本のリハビリテーションと地域包括ケアシステム
- 第5回 居住環境：移乗移動関係
- 第6回 居住環境：寝具関係
- 第7回 居住環境：入浴・排泄関係
- 第8回 住宅改修について

■ 評価方法

科目試験[筆記試験] (70%)、小テスト (30%)
 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。(欠席：-2点、遅刻：-1点)
 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象 (1回：-5点) とする。
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
 理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：生活環境論 - 生活支援の視点と方法 - 第6版
 著者名：木村哲彦 監修
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：生活場面から見た福祉用具活用法
著者名：浅井憲義、大熊明、奈良篤史 編著
出版社：中央法規

書名：福祉用具専門相談員研修テキスト
著者名：一般社団法人シルバーサービス振興会 編集
出版社：中央法規

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

| | | | | | |
|----------|-------------------|---------|-------|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法研究特別演習 (卒業研究) | | | | |
| 担当者 | PT 専任教員 | (オムニバス) | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年～4年 | 総単位数 | 3単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

理学療法研究特別演習 (卒業研究) は、「基礎教育分野の共通部分」と「卒業研究」から構成されている。

【共通部分】

- ・ 臨床医学の知識定着を図る。
- ・ 適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【卒業研究】

- ・ 理学療法に関する研究を通じて、研究手法や現象に対する考察の手順を学ぶ。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・ 臨床医学領域の国家試験問題について、頻出項目を把握できる。
- ・ 単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理・運動学の知識を用いて臨床医学を理解することができる。(深い理解：他者へ説明できるレベル)
- ・ 頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。(知識の定着)
- ・ 理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。(主体的で協同的な学習)

【卒業研究】

- ・ 研究手法の基礎を理解し、自ら考察する力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法 (学習の意図, 進め方)
- 第2回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習 1
- 第3回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習 2
- 第4回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習 3
- 第5回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第6回 循環器領域の臨床医学に関する学習 1
- 第7回 循環器領域の臨床医学に関する学習 2
- 第8回 循環器領域の臨床医学に関する学習 3
- 第9回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第10回 神経系領域の臨床医学に関する学習 1
- 第11回 神経系領域の臨床医学に関する学習 2
- 第12回 神経系領域の臨床医学に関する学習 3
- 第13回 神経系領域の臨床医学に関する学習 4
- 第14回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第15回 呼吸器・循環器・神経系領域に関する復習・まとめ
- 第16回 卒業研究オリエンテーション
- 第17回 文献検索の方法: インターネットを利用した論文の検索方法について学ぶ
- 第18回 先行研究論文の抄読: 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える ①
- 第19回 先行研究論文の抄読: 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える ②
- 第20回 先行研究論文の抄読: 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える ③

- 第21回 研究計画書の作成：規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける ①
- 第22回 研究計画書の作成：規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける ②
- 第23回 研究計画書の作成：規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける ③
- 第24回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） ①
- 第25回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） ②
- 第26回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） ③
- 第27回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） ④
- 第28回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） ⑤
- 第29回 収集した研究データを整理・解析する：結果をまとめグループ内で発表する ①
- 第30回 収集した研究データを整理・解析する：結果をまとめグループ内で発表する ②
- 第31回 収集した研究データを整理・解析する：結果をまとめグループ内で発表する ③
- 第32回 収集した研究データを整理・解析する：結果をまとめグループ内で発表する ④
- 第33回 収集した研究データを整理・解析する：結果をまとめグループ内で発表する ⑤
- 第34回 得られた結果について考察する：得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する ①
- 第35回 得られた結果について考察する：得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する ②
- 第36回 得られた結果について考察する：得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する ③
- 第37回 得られた結果について考察する：得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する ④
- 第38回 論文を作成する：規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける ①
- 第39回 論文を作成する：規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける ②
- 第40回 論文を作成する：規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける ③
- 第41回 研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成する ①
- 第42回 研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成する ②
- 第43回 研究報告会：全体で報告会を実施し、他者の発表に対して積極的に質問をする ①
- 第44回 研究報告会：全体で報告会を実施し、他者の発表に対して積極的に質問をする ②
- 第45回 卒業研究論文を完成させる：研究報告会での質疑応答や指摘をふまえて論文を修正する

■ 評価方法

【共通部分】

科目全体の30%に相当する。

共通部分の成績を100点とすると、複数回実施する確認テスト合計で60点、ノート提出の有無と質で40点で採点する。

正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに

届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

【卒業研究】

科目全体の70%に相当する。

ゼミへの参加態度 (20%)、研究報告会での発表状況 (30%)、卒業研究論文 (50%)

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【卒業研究】

それぞれの研究分野に対する知識が必要となります。ゼミ以外の時間も積極的に活用し、研究を進めるようにしてください。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

【共通部分】

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

【卒業研究】

卒業研究を行うためには、「理学療法研究法」の理解が重要である。

| | | | | | |
|----------|-------------|---------|-------|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法分野別特別演習 | | | | |
| 担当者 | PT専任教員 | (オムニバス) | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年～4年 | 総単位数 | 3単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 選択 |

■ 内 容

理学療法分野別特別演習は、「基礎教育分野の共通部分」と「分野別特別演習」から構成されている。

【共通部分】

- ・臨床医学の知識定着を図る。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【分野別特別演習】

- ・少人数グループ(ゼミ)形式で、理学療法士が関わる職域について理解を深め、知識・技術を補う

■ 到達目標

【共通部分】

- ・臨床医学領域の国家試験問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理・運動学の知識を用いて臨床医学を理解することができる。(深い理解：他者へ説明できるレベル)
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。(知識の定着)
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。(主体的で協同的な学習)

【分野別特別演習】

- ・理学療法におけるリスク管理・評価・治療を学び、総合的に考える力を身につける
- ・計測や評価を通じて、身体の動きや働きの理解を深める

■ 授業計画

16回目以降については、各ゼミ担当の教員より詳細の提示があります

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法(学習の意図, 進め方)
- 第2回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第6回 循環器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 循環器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 循環器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第10回 神経系領域の臨床医学に関する学習1
- 第11回 神経系領域の臨床医学に関する学習2
- 第12回 神経系領域の臨床医学に関する学習3
- 第13回 神経系領域の臨床医学に関する学習4
- 第14回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第15回 呼吸器・循環器・神経系領域に関する復習・まとめ
- 第16回 各分野における疾患の病態を理解する①
- 第17回 各分野における疾患の病態を理解する②
- 第18回 各分野における疾患の病態を理解する③
- 第19回 各分野における疾患の病態を理解する④

- 第20回 各分野における疾患の病態を理解する⑤
- 第21回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ①
- 第22回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ②
- 第23回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ③
- 第24回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ④
- 第25回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ⑤
- 第26回 計測・測定・検査の結果を解釈する①
- 第27回 計測・測定・検査の結果を解釈する②
- 第28回 計測・測定・検査の結果を解釈する③
- 第29回 計測・測定・検査の結果を解釈する④
- 第30回 計測・測定・検査の結果を解釈する⑤
- 第31回 理学療法アプローチを学ぶ①
- 第32回 理学療法アプローチを学ぶ②
- 第33回 理学療法アプローチを学ぶ③
- 第34回 理学療法アプローチを学ぶ④
- 第35回 理学療法アプローチを学ぶ⑤
- 第36回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める①
- 第37回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める②
- 第38回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める③
- 第39回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める④
- 第40回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める⑤
- 第41回 まとめ①
- 第42回 まとめ②
- 第43回 まとめ③
- 第44回 まとめ④
- 第45回 まとめ⑤

■ 評価方法

【共通部分】

成績全体の30%に相当する。

共通部分の成績を100点とすると、複数回実施する確認テスト合計で60点、ノート提出の有無と質で40点で採点する。

正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

【分野別演習】

成績全体の70%に相当する。

参加態度（正当な理由・連絡のない欠席-4点、遅刻・早退-2点の減点となる）、課題への取り組み、理解度確認

テスト（筆記・実技）などで総合的に判断する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【分野別演習】

各ゼミ担当教員より指示する

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.2 循環器
著者名：医療情報科学研究所（編集）
出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.4 呼吸器
著者名：医療情報科学研究所（編集）
出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経
著者名：医療情報科学研究所（編集）
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

【共通部分】

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

| | | | | | |
|----------|------------|---------|----|-------|-----|
| 授業科目 | 理学療法特別演習基礎 | | | | |
| 担当者 | 4年チューター | (オムニバス) | | | |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 4年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

学内で学んだ基礎医学・臨床医学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める

■ 到達目標

基礎医学・臨床医学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行できる

■ 授業計画

- 第1回 基礎医学： 解剖学①
- 第2回 基礎医学： 解剖学②
- 第3回 基礎医学： 生理学①
- 第4回 基礎医学： 生理学②
- 第5回 基礎医学： 運動学①
- 第6回 基礎医学： 運動学②
- 第7回 臨床医学： 脳血管・神経筋障害①
- 第8回 臨床医学： 脳血管・神経筋障害②
- 第9回 臨床医学： 呼吸・循環・代謝障害①
- 第10回 臨床医学： 呼吸・循環・代謝障害②
- 第11回 臨床医学： 骨関節障害①
- 第12回 臨床医学： 骨関節障害②
- 第13回 臨床医学： 小児
- 第14回 臨床医学： 精神医学
- 第15回 臨床医学： その他の領域

■ 評価方法

提出物 5%，科目試験(筆記試験) 95%
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

これまでに学んだ内容の総復習の内容である。
 講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。
 学習計画は適宜教員のチェックを受け、助言を得ること。

■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
 (専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)
 著者名：医歯薬出版(編)
 出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：国試の達人(運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会(編)

出版社：理学療法科学学会

書名：理学療法士作業療法士 過去問題集 10年分(共通問題, 専門問題)

著者名：電気書院編集部(編)

出版社：電気書院 久美部門

書名：PT・OT 国家試験共通問題 である・でたもん(基礎医学, 臨床医学)

著者名：「標準理学療法学・作業療法学」編集室(編)

出版社：医学書院

書名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

著者名：ヒントレ研究所(編)

出版社：南江堂

■ 留意事項

講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。

■ 講義受講にあたって

計画的に学習を進めること

| | | | | | |
|----------|---|------|-----|-------|---------|
| 授業科目 | 臨床実習 I | | | | |
| 担当者 | 榎 千磨(実務経験者)・田中 稔(実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 実務経験者2名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 2 年 | 総単位数 | 1 単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

1. 国内医療・介護等施設における1回の施設見学を行う。
2. 協力医療施設で、スタッフ・教員指導の下、1週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

1. 医療・介護等様々な分野の理学療法を理解する。
2. スタッフ・教員と連携を図りながら、対象者の障害について、実際の生活像と共にそれを阻害している機能的な問題の実像を、医療面接、PT 見学、観察、触知、検査・測定などを通じて理解する。

■ 授業計画

1. 施設見学

- ・実習施設：学生自身が見学を依頼した医療・介護等施設
- ・実習期間：1回
- ・実習形態：学生自身が施設に見学を依頼し、所定の日に当該施設の理学療法場面を見学しに行く。
- ・実習の進め方：見学中は、礼儀に十分注意を払いながら、積極的に理学療法場面の見学を行う。

2. 臨床実習

学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力医療施設
- ・実習期間：1週間
- ・実習形態：協力医療施設において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者様の障害像に迫る。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。
- ・実習の進め方：理学療法評価学Ⅰ、Ⅱで学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査などの基本的な測定、評価をなるべく多く体験する。また、解剖学、生理学、運動学、臨床医学等の知識を基に、一人の対象者様に対して適切な機能障害の検査測定項目を選択し、的確に実施する。実習の進め方は、臨床現場実習と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。尚、事前に病院スタッフとのミーティングを行い、学生・対象者・スタッフ相互にとって利益が発生するよう、人員配置や実習の進め方について打ち合わせを行っておく。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力医療施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

■ 評価方法

配点【施設見学】5%、【臨床実習】95%

1. 【施設見学】レポートで判定する。見学を実施しない場合は、臨床実習を履修できないものとする。
2. 【臨床実習】実習内容および態度・臨床実習実施記録の内容等を基に、臨床実習指導者の意見も勘案しながら、専任教員が総合的に判定する。欠席、遅刻、早退は減点対象とする。(欠席-6、遅刻・早退-2、受講中の注意指導-2)

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. 施設見学に際しては、事前に当該施設自体の情報及び当該領域の理学療法について下調べをして臨む。見学終了後は、得られた知見をレポートにまとめ、以後の学習に活かせるようにしておく。
2. 実習前には、解剖学・運動学・生理学・評価学等の知識を再度整理し、評価に関する実技を十分練習しておくこと。実習終了後は、自己の課題を整理し次の実習に繋げる事ができるようにしておくこと。

■ 教科書

書名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

書名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

臨床実習Ⅰは、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ 講義受講にあたって

次の臨床実習Ⅱに繋がるように、しっかり経験を積んでください。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 臨床実習Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 岩田篤（実務経験者）・柳千磨（実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 実務経験者2名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

学生は、専任教員と共に協力医療機関で臨床実習を行う。臨床実習実施にあたっては、専任教員－臨床実習指導者と綿密に連携し、学生に主体的に取り組んでもらう。

■ 到達目標

1. 臨床実習指導者および専任教員の指導の下、対象者の生活上の問題点を理解することができる。
2. 臨床実習指導者および専任教員の指導のもと、生活上の問題点に関連した動作障害の原因となっている機能障害を理解することができる。

■ 授業計画

実習施設：協力医療機関

実習期間：5日間

実習形態：

協力医療機関において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像に迫る。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。

専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら適宜必要なフォローを実施する。

また、事前に病院スタッフとのミーティングを行い、学生・対象者・スタッフ相互にとって利益が発生するよう、人員配置や実習の進め方について打ち合わせを行う。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

臨床実習指導者に於いても、当連携に参画することにより、その資質向上が得られることを視野に入れている。若手スタッフにとっては、対象者の臨床像をまとめた確に人に伝えるトレーニングになる。加えて、対象者にとっては、学生とコミュニケーションをとることにより、それが良い刺激になり、機能面・精神面の改善、ひいてはQOLの向上に資することとなる。

■ 評価方法

出席、実習内容、デイリーノート及び実習後の報告会の内容、臨床実習指導者の意見（ここまですべて70%）、臨床実習Ⅱ後OSCE（30%）の点数を基に、専任教員が総合的に判定する。また、オリエンテーション等への事前連絡なしによる欠席等は減点対象とする。（無断欠席－6点、遅刻・早退－2点、受講中の注意指導－2点）。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床実習Ⅰの課題を再度見返し、健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

また、能力障害と機能障害との関係を理解していくために、運動学および臨床運動学等の知識を整理しておくこと。

■ 教科書

| |
|--|
| |
|--|

■ 参考図書

| |
|--|
| |
|--|

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

■ 講義受講にあたって

次の総合臨床実習 I に繋がるように、しっかり経験を積んでください。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 総合臨床実習Ⅰ | | | | |
| 担当者 | 田坂厚志 (実務経験者)、岩田 篤 (実務経験者)、柳 千磨 (実務経験者)、 田中 稔 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者) | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり) 岩田 篤 (理学療法士として、病院などで実務経験あり) 柳 千磨 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり) 田中 稔 (理学療法士として、病院などで実務経験あり) 相原一貴 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり) | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

国内の医療施設または介護老人保健施設等で3週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の監督や助言の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験する。具体的には、ICF (又は ICIDH) の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムの立案を経験する。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設
 実習期間 3週間
 実習形態 臨床実習指導者の監督や助言の下で、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムの立案を経験する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認し、問題がある場合には解決のためのディスカッションの時間を設ける。
 実習の進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF (又は ICIDH) の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムの立案を経験する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席 (欠席 -6点, 遅刻・早退 -2点)、実習内容及び態度 (70%)、総合臨床実習症例レジメと ICF/ICIDH 枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表 (30%) 等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが課題である。
 また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック
 著者名：岡田慎一郎 他
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅰの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ 講義受講にあたって

3年間学習した内容を総動員し、臨床実習指導者および専任教員の援助や助言の下で、実際の対象者様への理学療法評価や治療プログラムの立案を経験させていただく。その経験を基に、4年次の「総合臨床実習Ⅱ」において臨床実習指導者および専任教員の援助や助言の下、適切な治療プログラムを実施することが可能となる。

| | | | | | |
|----------|--|------|----|---------|------|
| 授業科目 | 総合臨床実習Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 藪中良彦・PT専任教員（すべて実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験） | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 4年 | 総単位数 | 18単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

国内医療施設で9週間の臨床実習を2回行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施、治療効果判定に基づく治療プログラムの変更が行えるようになる。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 9週間×2回

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の

進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席（欠席-1点、遅刻・早退-0.5点）、実習内容及び態度（70%）、総合臨床実習症例レジメとICF/ICIDH枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが毎日の自宅学習の課題である。また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも自宅学習の課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅲの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ 講義受講にあたって

3年間学習した内容を総動員すると共に「総合臨床実習Ⅰ」で学んだ評価と治療の技術を基に、「総合臨床実習Ⅱ」において、臨床実習指導者および専任教員の援助の下、対象者の臨床像の変化に合わせて的確に治療プログラムを変更していくことが可能となる。

| | | | | | |
|----------|---|------|----|-------|---------|
| 授業科目 | 総合理学療法学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | PT専任教員、稲岡秀陽、安倍浩之、文野勝利（すべて実務経験者） | | | | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 専任教員はすべて臨床で理学療法診療に関わりあり、外部講師 稲岡秀陽（急性期病院、老人保健施設などの法人リハ部門管理者）、安倍浩之（介護保険領域など企業代表者）、文野勝利（介護保険領域の部門管理者）、 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 4年 | 総単位数 | 1単位 |
| | | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

臨床実習も終了しほぼすべての履修内容を習得した段階で、理学療法士に必要な知識と能力の総括を行います。専任教員については各々の専門領域について講義します。また、外部の先生方については現在の職場に関する管理的な講義をします。

■ 到達目標

理学療法を行うにあたって必要な能力を系統的に整理し、不足があれば自ら補うように行動することができる

■ 授業計画

- 第1回 代表的な症例の検討 (1) 運動器 佐藤 (実務経験者)
- 第2回 代表的な症例の検討 (2) 脳血管障害 岩田 (実務経験者)
- 第3回 代表的な症例の検討 (3) 脊髄と神経 島 (実務経験者)
- 第4回 代表的な症例の検討 (4) 難病 岩田
- 第5回 代表的な症例の検討 (5) 内部障害 田坂 (実務経験者)
- 第6回 代表的な症例の検討 (6) 発達障害 藪中 (実務経験者)
- 第7回 代表的な症例の検討 (7) 切断と義肢 その他 井上 (実務経験者)
- 第8回 日常生活活動学 牧之瀬 (実務経験者)
- 第9回 理学療法治療学 (物理療法、運動療法の基礎) 椰、田中 (すべて実務経験者)
- 第10回 運動学 境 (実務経験者)
- 第11回 セラピストに求められる基礎知識 今井, 島, 椰, 伊禮, 田中, 相原 (すべて実務経験者)
- 第12回 セラピストに求められる基礎知識 今井, 島, 椰, 伊禮, 田中, 相原
- 第13回 理学療法業務と管理 (1) 安倍 (実務経験者)
- 第14回 理学療法業務と管理 (2) 稲岡 (実務経験者)
- 第15回 理学療法業務と管理 (3) 文野 (実務経験者)

■ 評価方法

提出物5% 科目試験[筆記試験]95% なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

当該科目内容は今まで学習した内容の総復習です。なお、講義内容や回数は学生の状況によりこの記載に限られません。適宜学習計画については教員のチェックを受け助言をもらって下さい。

■ 教科書

書名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：国試の達人（運動解剖生理学編、臨床医学編、理学療法編）

著者名：理学療法科学学会

出版社：理学療法科学学会編

書名：理学療法士作業療法士 過去問題集

出版社：久美出版

書名：PT・OT 国家試験共通問題 であるもん・でたもん

出版社：医学書院

書名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

出版社：南江堂

書名：PT・OT 国家試験共通問題 ヒント式トレーニング

出版社：南江堂

■ 留意事項

計画的な学習を進めて下さい。

■ 講義受講にあたって

当該科目内容は今まで学習した内容の総復習です。なお、講義内容や回数は学生の状況によりこの記載に限られません。適宜学習計画については教員のチェックを受け助言をもらって下さい。